

白岡市文化財保存活用地域計画 (案)

目次

序章 計画作成の目的と経緯	1	原始概観	22
1 白岡市文化財保存活用地域計画作成の背景と目的	1	(1) 旧石器・縄文時代	23
(1) 背景	1	① 旧石器時代	23
(2) 目的	2	② 縄文時代	23
① 地域の文化財を地域の手で守る	2	(2) 弥生・古墳時代	24
② 守るためにはよく知ってもらうことが大切	3	① 弥生時代	24
2 この計画で扱う「文化財」の範囲	4	② 古墳時代	25
3 地域計画の位置付け	5	古代・中世概観	26
(1) 「白岡市総合振興計画」	6	(1) 奈良・平安時代	27
(2) 「白岡市教育振興基本計画」	7	(2) 鎌倉時代	27
(3) 関連計画	7	(3) 室町時代	28
① 「白岡市都市計画マスタープラン」	7	(4) 寺社・城館跡	30
② 「白岡市環境基本計画」	7	近世概観	31
③ 「白岡市災害廃棄物処理計画」	8	(1) 近世	32
④ 「白岡市地域防災計画」	8	① 新井白石と野牛	32
⑤ 「白岡市シティプロモーション戦略」	8	② 見沼代用水と柴山伏越	32
⑥ 「白岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」	8	③ 近世期の新田開発と水争い	33
4 計画期間	8	近・現代概観	34
5 計画の進捗管理と自己評価の方法	8	(1) 近代	35
6 計画作成の体制と経過	9	① 渋谷塊一と愛育村	35
第1章 白岡市の概要	11	② 農村経済更生計画と幻のスイカ「埼玉」	35
1 社会的環境	11	③ 白岡駅の開設と新設白岡車站之記	35
(1) 位置	11	(2) 現代	36
(2) 地勢	12	① 白岡町の誕生	36
(3) 市域の変遷	13	② 発展する白岡	36
(4) 人口	14	第2章 白岡市の文化財の概要	37
(5) 交通	15	1 文化財の把握調査	37
(6) 産業	16	(1) 指定文化財の概要	37
① 農業	16	(2) 埋蔵文化財の概要	42
② 工業	16	(3) 民俗文化財の概要	44
③ 商業	16	① 年中行事	44
(7) 土地利用	16	② 民具	44
① 緑地	16	③ 昔ばなしや言伝え	44
② 都市計画区域	17	④ 古写真の収集	44
③ 都市基盤の整備状況	18	(4) 既往調査の整理	45
2 自然環境	19	① 白岡町文化財資料調査	45
(1) 気候	19	② 白岡町史編さん事業に係る調査	45
(2) 地質	19	③ 埋蔵文化財発掘調査	45
(3) 生態系	20	④ 埼玉県調査	45
① 植生・植物	20	⑤ 埼玉県東部地区文化財担当者の調査	46
② 哺乳類	20	⑥ その他の調査	46
③ 鳥類	21	第3章 白岡市の文化財の特徴	47
④ 魚類	21	1 白岡市の文化財の特徴	47
3 歴史的背景	22	(1) 文化財類型別に見た文化財の特徴	47

① 有形文化財	47	(1) 目指すべき姿	69
② 民俗文化財	49	(2) 基本方針	69
③ 記念物	49	基本方針1 文化財を調べる	
④ その他の文化財	50	～文化財調査の継続と文化財の総合的把握～	69
(2) 時期別に見た文化財の特徴	51	基本方針2 文化財を守り伝える	
① 原始・古代	51	～文化財の確実な保存と継承～	70
② 中 世	52	① 文化財の管理と適切な伝承活動	70
③ 近 世	53	② 文化財に関する防犯・防災活動	70
④ 近代以降	54	③ 文化財保護のための体制整備	70
2 これまでの調査から把握できる		基本方針3 文化財を知る	
白岡市の歴史文化の特徴	55	～文化財に関する情報発信と普及活動の推進～	71
I 鎌倉街道と中世寺院	55	基本方針4 文化財をともに支える	
II 新田開発・用排水路・水争い・川の立体交差	55	～市民との連携・協働の促進～	71
III 柴山沼と大山地区	56	4 文化財の保存と活用に関する取組	73
IV 野牛地区と新井白石	56	《基本方針1》文化財を調べる	73
V 産業・交通・教育の発達と篠津地区	56	《基本方針2》文化財を守り伝える	74
第4章 市民との協働による文化財の保護	57	① 文化財の管理と適切な伝承活動に関する取組	74
1 市民参画による地域計画の作成	57	② 文化財に関する防犯・防災活動に関する取組	75
(1) 市民参画による文化財の把握	57	③ 文化財保護のための体制整備に関する取組	75
① みんなで作ろう白岡遺産ワークショップ	57	《基本方針3》文化財を知る	76
② 白岡遺産キックオフ・フォーラム	58	《基本方針4》文化財をともに支える	77
(2) 市民参画による文化財活用の検討	59	第6章 文化財の一体的・総合的な保存と活用	79
① みんなで活かそう白岡遺産ワークショップ	59	1 関連文化財群の設定	79
② 白岡遺産活用シンポジウム	60	(1) 関連文化財群の目的	79
2 市民主導の文化財保護事業	61	(2) 関連文化財群の考え方	79
① 「筑後様まつり」の復活	61	(3) 白岡市の関連文化財群	80
② 小久喜のささら獅子舞の伝承活動	62	(4) 関連文化財群のストーリーと構成要素	81
第5章 文化財の保存と活用に関する方針と取組	63	ストーリー1 鎌倉街道と幻の川「日川」	81
1 これまでの文化財の活用	63	ストーリー2 武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道	84
(1) 生涯学習講座	63	ストーリー3 新田開発と川の立体交差	87
(2) 出前講座	63	ストーリー4 筑後さまへの想い	90
(3) 展示施設での普及事業	63	ストーリー5 沼辺に生きる	92
(4) 教育普及資料の作成	64	2 関連文化財群の課題・方針・取組	95
(5) 学校教育との連携	64	関連文化財群① 鎌倉街道と幻の川「日川」	95
(6) 図書館との連携	65	① 現状と課題	95
(7) 東部地区文化財担当者会巡回展	65	② 基本方針	95
(8) 発掘調査現地見学会等	65	③ 保存と活用に関する取組	95
(9) 文化財解説板の設置	65	関連文化財群②	
2 文化財の保存と活用に関する課題	66	武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道	96
(1) 各分野の文化財把握に関する課題	66	① 現状と課題	96
(2) 保存・継承に関する課題	66	② 基本方針	97
① 文化財の管理と適切な伝承活動	66	③ 保存と活用に関する取組	97
② 文化財に関する防犯・防災活動	67	関連文化財群③ 新田開発と川の立体交差	98
③ 文化財保護のための体制整備	67	① 現状と課題	98
(3) 情報発信・普及活動に関する課題	67	② 基本方針	98
(4) 市民との連携・協働に関する課題	68	③ 保存と活用に関する取組	99
3 文化財の保存と活用に関する方針	69	関連文化財群④ 筑後さまへの想い	99

① 現状と課題	99	● 第2章(4)既往調査の整理 ①白岡町文化財資料調査	
② 基本方針	100	白岡町文化財資料調査の成果一覧	124
③ 保存と活用に関する取組	100	● 第2章(4)既往調査の整理 ②白岡町史編さん事業に係る調査	125
関連文化財群⑤ 沼辺に生きる	101	● 第2章(4)既往調査の整理 ③埋蔵文化財発掘調査	126
① 現状と課題	101	発掘調査報告書一覧	126
② 基本方針	101	● 第2章(4)既往調査の整理 ④埼玉県調査	127
③ 保存と活用に関する取組	102	白岡市の関係する埼玉県調査報告書一覧	127
3 市民提案型の関連文化財群		● 第2章(4)既往調査の整理 ⑤埼玉県東部地区文化財担当者会の調査	128
「しらおか市民遺産」の位置付け	103	● 第2章(4)既往調査の整理 ⑥その他の調査	128
①「しらおか市民遺産」設置のための課題と方針	104	● 第4章(1)市民参画による文化財の把握	129
②「しらおか市民遺産」に関する取組	104	「みんなで作ろう白岡遺産ワークショップ」ワークシート	129
第7章 文化財の防災と防犯	105	● 第5章(1)生涯学習講座 過去10年間の文化財関係の生涯学習講座(一般対象)一覧	134
1 市内における過去の災害の記録	105	過去10年間の文化財関係の生涯学習講座(児童・生徒・親子対象)一覧	134
(1) 地震に関する記録	105	● 第5章(2)出前講座 過去10年間の出前講座一覧	135
① 安政2年(1855)の大地震の記録	105	● 第5章(3)展示施設での普及事業	
② 関東大震災の記録	106	生涯学習センター歴史資料展示室の企画展示一覧	135
③ 西埼玉地震の記録	106	定例展示解説会「ハンズ・オン・デイ」一覧	136
(2) 主な水害に関する記録	106	過去に開催した文化財関連展示会一覧	136
① 明治43年の大水	106	他機関への出品・貸出、資料提供等	
② キャスリン台風による水害	107	過去5年間の出品・貸出、資料利用・提供等一覧	137
2 災害時の危機管理	107	● 第5章(4)教育普及資料の作成	
① ハザードマップ	107	過去に作成した主な教育普及用資料一覧	137
② 災害時の危機管理	109	歴史資料展示室調査報告書等一覧	138
3 文化財の防災・防犯に関する体制と体制整備の方針	110	● 第5章(5)学校教育との連携	
第8章 文化財の保存・活用の推進体制	111	過去10年間の歴史学習支援事業一覧	138
1 文化財保存・活用の推進体制の課題	111	● 第5章(6)図書館との連携	
2 体制整備の基本方針	111	過去10年間の図書館連携事業一覧	138
① 文化財の保存・活用の推進体制に関する取組	112	● 第5章(7)東部地区文化財担当者会巡回展	
② 白岡市の文化財保存活用推進体制	112	東部地区文化財担当者会等巡回展一覧	139
3 連携協働を促す体制づくりと財源の確保	114	● 第5章(8)発掘調査現地見学会等	
4 目指すべき姿の実現に向けて		過去10年程度の間で開催した発掘調査現地見学会等一覧	139
それぞれが果たすべき役割	115	● 第5章(9)文化財解説板の設置	
資料編	117	既設の文化財解説板一覧	140
● 第1章(3)生態系 ①植生・植物			
ひこべえの森で見られる植物一覧	118		
● 第1章(3)生態系 ③鳥類			
白岡市内で確認されたことのある鳥類一覧	120		
● 第2章(2)埋蔵文化財			
市内の埋蔵文化財包蔵地一覧	121		

序章 計画作成の目的と経緯

1 白岡市文化財保存活用地域計画作成の背景と目的

(1) 背景

有形、無形の文化財を含む地域の伝統文化は、人々の営みと密接にかかわりながら地域に深く根ざし、その地域を特徴付ける風土や気風、お国柄などといった、いたって感覚的な部分にまで影響を与えています。

私たちがふるさと白岡を誇りに思うことや、白岡を訪れる人々が言葉にできない「白岡らしさ」に惹かれたり顔をほころばせたりするのは、そこに漂う「雰囲気」が知らず知らずのうちに白岡の歴史や伝統文化を醸し出しているからにほかなりません。

私たちが、先人から受け継いだ地域の伝統文化を後世に伝えていくことは、私たちに与えられた責務であるといえましょう。

しかし、全国的にみると、過疎化や少子高齢化により、継承されてきた伝統文化の担い手が確保できなくなるといった問題や、地震や台風などの災害の影響によって地域コミュニティが崩壊し、継承してきた祭りや伝統芸能の内容が変質したり継承自体が断絶したりする問題がクローズアップされています。

白岡市は、首都 40km 圏に位置するという地理的条件から高度経済成長期以降、徐々に開発が進行し、昭和 62 年新白岡ニュータウンの整備に伴う JR 宇都宮線新白岡駅の開業、首都圏中央連絡自動車道の開通にともなう白岡菖蒲インターチェンジや久喜白岡ジャンクションの設置などから急速に都市化が進行しています。この 30 年間で人口は約 1.5 倍となり令和 2 年 4 月現在約 52,500 人を数えるまでに増加しました。しかし、人口構成では、高齢者人口（65 歳以上）は増加傾向が続いており、平成 28 年には 25% を突破しています。

伝統文化を支えてきた世代の高齢化に加え、新住民の増加、ライフスタイルや社会構造の変化に伴う価値観の多様化などによって、地域で守られてきた行事や祭礼などの継承や社寺堂庵の維持をどのように引き継いでいくべきかなど課題が山積しています。

例えば、「耕地」や「組」といわれる地域の小規模なコミュニティの間で維持されてきた「講」などの行事が途絶えたり、地域のお地蔵さまやお堂の祭礼などが廃れたりし始めています。

一方で、近年は、地域づくりやまちおこしなどに歴史や伝統文化を活用しようとする動きが高まりつつあり、埼玉県内でも川越市では、蔵造りの街並みを整備し商工事業者と連携して地域文化を題材とした商品開発や、観光事業者と連携した様々なイベント企画などでまちづくりを行っています。また、行田市では、伝統の足袋産業や忍城を核とした「日本遺産」を形成し、映画やテレビドラマの誘致などで成果を上げるなどしています。

白岡市には、観光拠点となるようなお城や国宝、重要文化財はありませんし、特別な伝統芸能があるわけでもありません。しかし、古くから根付いてきた歴史や地域の文化財の価値は、他との比較だけで決めるべきものではありません。珍しいものでも特別古いものでもないけれど、地域にとってはかけがえのないもの、伝えるべきもの、こうした白岡ならではの歴史や文化財を総合的に把握し直し、保存と活用のバランスの取れた魅力ある取組で地域を活性化するような文化財施策が、現在の白岡市にとって重要であると考えています。

(2) 目 的

このような中、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や地方文化財保護行政の推進力の強化を目的として、平成30年6月に「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が成立し、平成31年4月から施行されました。この中で、未指定文化財を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総掛りでその継承に取り組んでいくことの重要性が謳われています。

埼玉県でも、令和2年3月には「埼玉県文化財保存活用大綱」が策定され、県の保有する多くの文化的資産や施設を活用した取組や、市町村を含めた今後の文化財保存活用に関する考え方、具体的施策などが示されました。

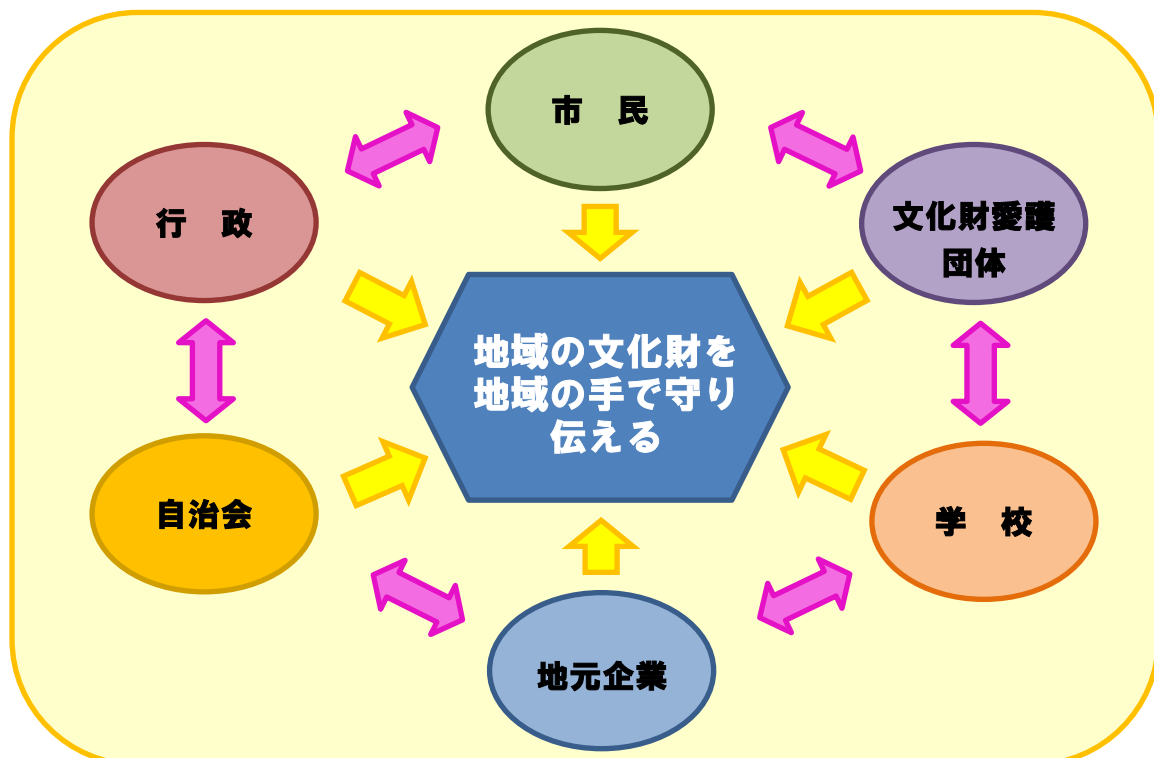
長い歳月をかけて形作られてきた歴史や伝統文化の保護は、元来、短期的な視点で語られるべきものではありません。長期的な保存策と適切な活用に関する方針を定めるとともに広い視野で関連する分野との連携協力関係を築きながら進められるべきものといえます。

このような視点で考えたとき、「白岡市文化財保存活用地域計画」（以下「地域計画」といいます）は、白岡市の行政や文化財に関係する諸団体のみならず、市民や地域など多様な主体が連携して指定・未指定の区別なく総合的に把握し周辺環境まで一体的に捉えて文化財を守るとともに活かしていくための指針としての役割を果たすものと考えています。

① 地域の文化財を地域の手で守る

地域の文化財を地域の手で守り伝えるという強い信念を持ち、行政、地域の関係団体、企業、学校などが一丸となって白岡の伝統文化を守り継承することで、地域を誇りに思う気持ちが育まれ、その気持ちがさらに地域の伝統文化に磨きをかけていく良い連鎖的效果を生むことが期待できます。

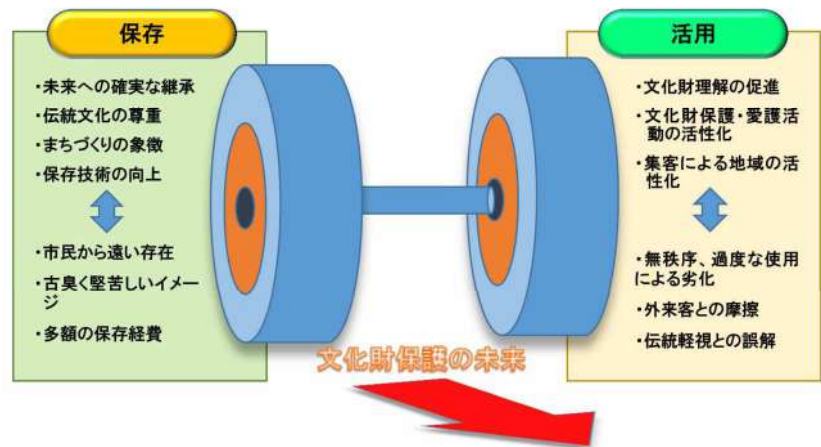
また、ボランティアを育成し活躍の場を提供することは、人材やキャリアの活用策として、地域と学校や地域と地域などをつなぐ架け橋として、さらには経済活動など様々な波及効果が期待されます。



② 守るためにはよく知ってもらうことが大切

地域の文化財を地域の手で守るためには、地域の方々がその文化財に愛着を持ち自ら守ろうという意識を持つことが重要です。しかし、現状では、「指定文化財があるというけれど、見たことも触ったこともない。」という状況が生じてしまっています。大切に守ることはもちろんですが、もともと地域の人々の手で守られてきた文化財が地域か

バランスの取れた文化財の保存と活用



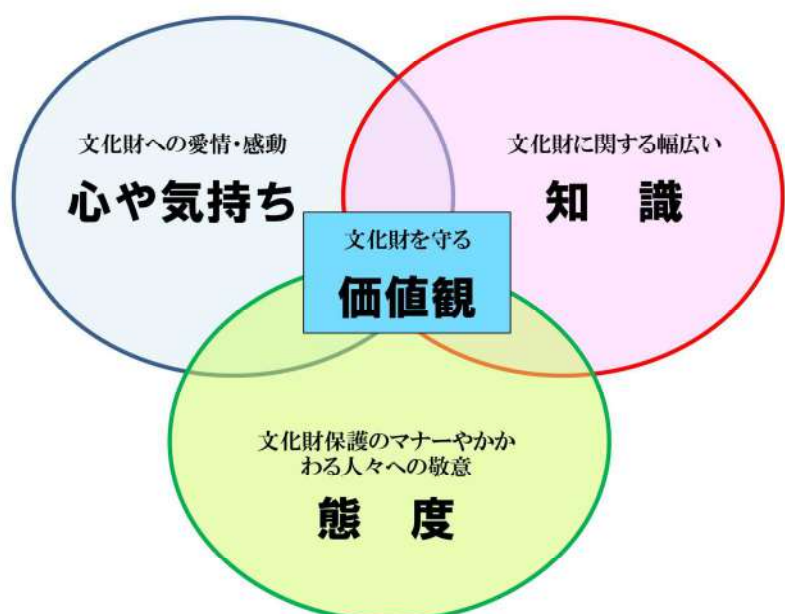
ら切り離されてしまっていては、世代を超えた愛護精神や保護意識を紡いでいくことは難しいといえます。

地域の文化財を地域の手で守り続けるためには、十分な保存措置を講じることとともに、できるだけ開かれた普及・活用措置がとられることが重要であり、今後の文化財保護施策に欠かすことのできない車の両輪であると考えます。元来、保存と活用は一体のものです。どちらかが過大になっては、まっすぐには進みません。

もう一つ、しっかりとした文化財保護教育の確立が重要です。

これまで実施してきた生涯学習講座や学校と連携した出張授業、歴史資料展示室の展示解説や体験学習などの取組を通じて、文化財や地域文化への興味や楽しさ、愛護意識などの《心や気持ち》と、文化財に関する《知識》を伝えることができました。また、これらの教育普及事業は、文化財を守る上で必要なマナーや、文化財の持ち主や文化財保護の支援をしてくれる人々の努力に対する敬意など、私たちが身に付けておかねばならない《態度》を伝えることも可能です。

文化財保護教育の3要素



文化財保護についての《心や気持ち》、《知識》、《態度》を育むことは、文化財保護に関する普遍的な《価値観》を育むことであり、文化財保護に取り組む仲間を増やしていくことに他なりません。

私たちは、先人から託された文化財のバトンをよりよい形で未来に引き継ぐために必要な施策を講じていく道しるべとしてこの地域計画を立てるものです。

2 この計画で扱う「文化財」の範囲

文化財保護法では、文化財を「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物（史跡・名勝・天然記念物）」「文化的景観」「伝統的建造物群」の6つの類型に分けて把握しています。

これらの文化財の中から地域にとって重要なものを市や県の指定文化財にしています。さらに我が国にとって価値が高いものは国指定文化財などに指定し保護されています。

この地域計画では、法令によって指定されている指定文化財はもちろんですが、未指定の文化財や、一般に歴史遺産や文化資源と呼ばれるような歴史上の人物、伝承・伝説、文化財を支える技術や用材、人々の活動など、文化財保護法の類型におさまらないものも含め、地域の人々が守り伝えたいと考える物（モノ）・事（コト）・所（トコロ）などのすべてを広く「文化財」として捉え、保存・活用の対象とします。

《文化財保護法による6類型の文化財》

(1)有形文化財

建造物 彫刻 書跡 絵画 工芸品 典籍 古文書 考古資料

(2)無形文化財

演劇 音楽 工芸技術

(3)民俗文化財

〈有形〉 衣服 器具 家屋 〈無形〉 衣食住 生業 信仰 年中行事

(4)記念物

〈遺跡〉 貝塚 古墳 都城跡 城跡 旧宅 〈名勝地〉 庭園 橋梁 峡谷 海浜 山岳 動物 植物 地質鉱物

(5)文化的景観

人々の生活・生業・風土により形成された景観地

(6)伝統的建造物群

周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群

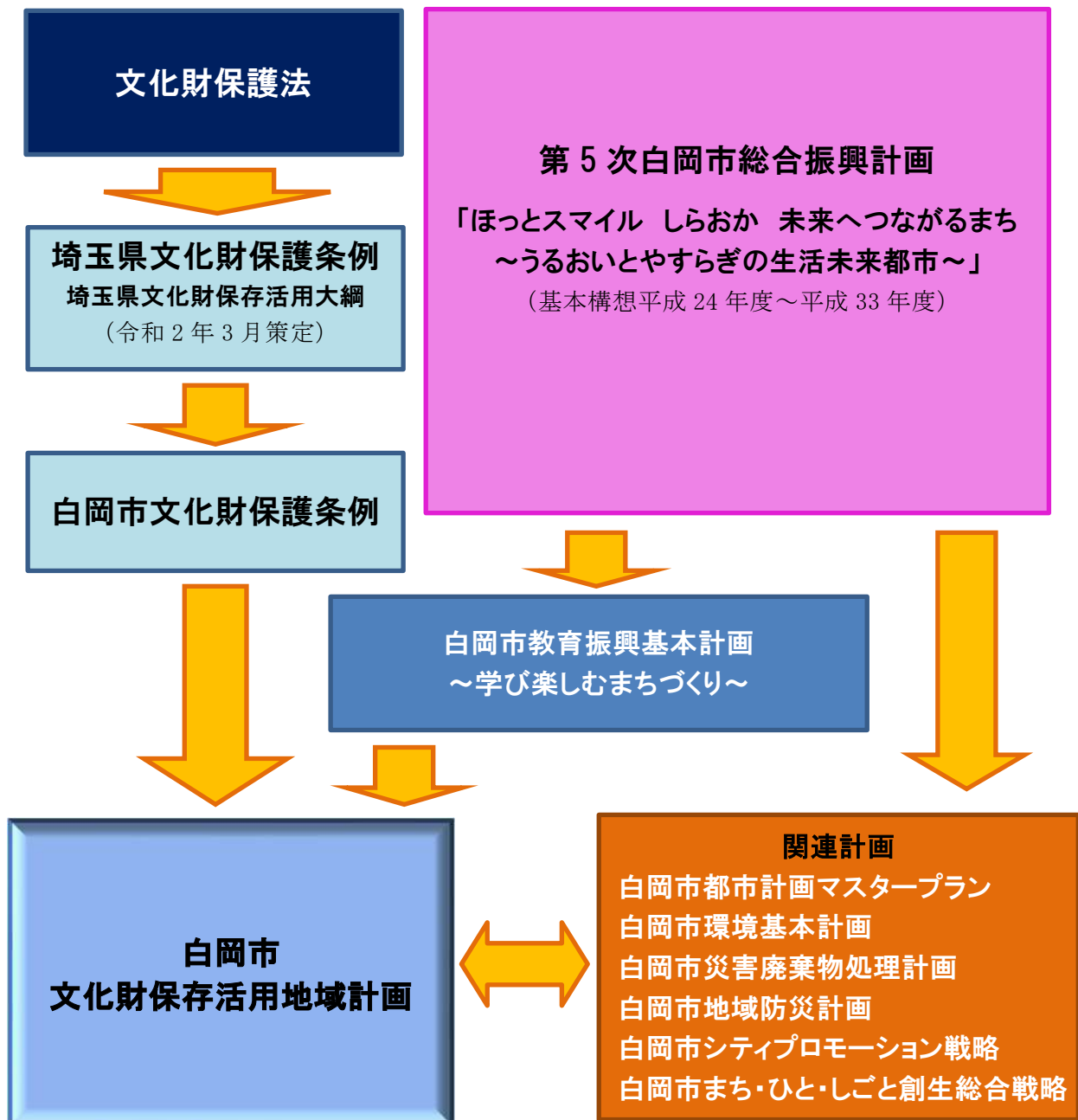
白岡市文化財保存活用地域計画で対象とする「文化財」



3 地域計画の位置付け

白岡市文化財保存活用地域計画は、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき、白岡市における文化財の総合的な保存・活用の指針として作成するものです。作成にあたっては、「白岡市総合振興計画」を上位計画とし、「白岡市教育振興基本計画」に沿って「白岡市都市計画マスタープラン」、「白岡市地域防災計画」などとの整合を図ります。

また、「埼玉県文化財保存活用大綱」との整合を図ります。



(1)「白岡市総合振興計画」

平成 23 年度に「第 5 次白岡町総合振興計画」として策定されました。基本構想は、平成 24 年度から平成 33 年度(令和 3 年度)までの 10 年間で、平成 28 年度に一部改訂を行い現在は、後期基本計画期間(平成 29 年度～令和 3 年度)となります。目指すべき将来像を「ほっとスマイル しらおか 未来へつながるまち～うるおいとやすらぎの生活未来都市～」としています。分野ごとの政策目標の中で、教育・文化・スポーツに関する取組を示し、「学び楽しむまち」を目標に掲げています。

後期基本計画の具体的内容

4	学び楽しむまち（教育・文化・スポーツ）
3	社会教育の向上
(3)	文化の薫り高いまち
①	市民が優れた文化・芸術に気軽に触れる機会の充実を図るとともに、市民の文化・芸術活動の支援に努めます。
②	指定文化財や地域文化遺産の保存・活用のため、学術的な調査研究の充実を図り、特色ある資料のデジタル化を推進し、積極的な情報発信に努めます。
③	伝統文化・芸能や生活文化を学校教育や社会教育の場で積極的に活用し、次代へ継承するため、文化財のアーカイブ化を推進します。
④	文化財の教育普及資料の刊行や講座、講演会、展示会等の開催を通じて、地域に残された貴重な文化遺産を顕彰し、文化財保護意識、ふるさと意識の醸成に努めます。
⑤	(仮称) 白岡市生涯学習施設の図書館機能、資料館機能を活用した多様な歴史学習メニューの提供に努めます。

各分野の目標中、本地域計画と関連のある事項

3	自然と共生したまち（自然環境）
1	自然環境の保全
(1)	自然環境の保全
①	農地は食物連鎖や水循環を通じて生態系の一部を構成しており、大雨時の貯水による災害防止機能も有していることから、その適切な保全と耕作放棄地の解消に努めます。
②	市民と連携し、貴重な生物や在来種の保護、外来種の移入防止などの必要な保全措置を図ります。

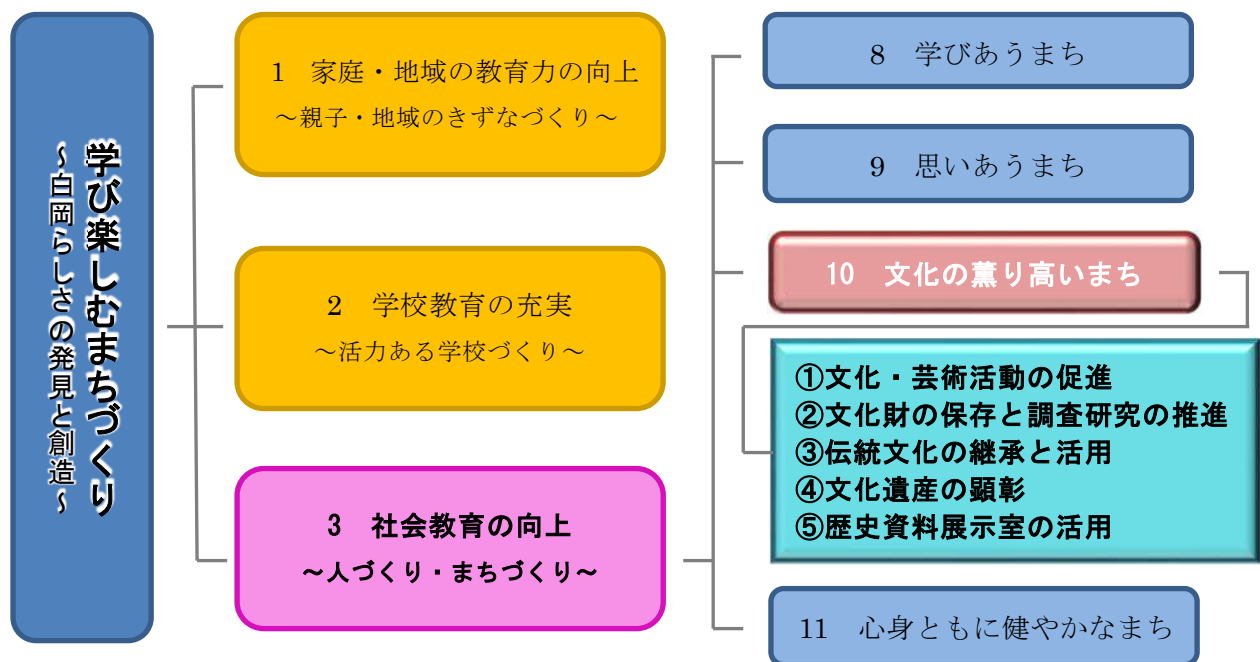
5	活力あるまち（産業・雇用）
4	観光の振興
(1)	観光資源の充実・活用
①	既存の観光資源を保全するとともに、市内に埋もれている地域資源を発掘し、活用します。
②	市内に点在する観光資源のネットワーク化を図り、観光客の周遊性を高めます。
(2)	観光客の誘致
①	自然や文化などの地域特性を生かし、まち独自の魅力を創出することができるイベントの開催を支援します。
②	観光パンフレットや市公式ホームページ、白岡市商工観光アプリ「ココシル白岡」などを活用し、多様な媒体を効果的に活用した観光情報の提供に努めます。

6 基盤の整った快適なまち（都市基盤・住環境）	
1 景観の保全・形成	
(2) 市民参加の景観づくりの推進	①学校教育や社会教育において景観に関する学習活動を推進し、まちの景観づくりに対する市民意識の向上に努めます。
(3) 田園景観の保全	②名木や古木、屋敷林、寺社林、史跡など、歴史・文化的景観の保全を図ります。
7 魅力的な市街地の形成	
(2) 中心市街地の充実	①まちの「顔」としての魅力向上を図るため、歴史、文化、自然を生かした市街地の整備を進めます。

(2)「白岡市教育振興基本計画」

第2期白岡市教育振興基本計画は、平成29年度から平成33年度（令和3年度）までの5か年を計画期間としています。基本理念を「学び楽しむまちづくり～白岡らしさの発見と創造～」とし、3つの施策目標と11の施策項目を設けています。

白岡市教育振興基本計画における文化財関連事業の位置づけ



(3) 関連計画

①「白岡市都市計画マスタープラン」

平成13年に策定されたマスタープランを平成29年3月に改訂したもので、まちづくりのテーマを「美しい自然と都市の活力が調和したまちづくり」としています。

第6章の分野別整備方針と第7章の地域別構想に記載された事項について整合を図ります。

②「白岡市環境基本計画」

平成23年に策定された計画を平成28年3月に改訂したもので、望ましい環境像を「青空が

広がる自然と豊かな心を育むまち「しらおか」とし、「市・市民・事業者」の協働を前面に謳ったものです。特に、自然環境の保全についての整合を図ります。

③「白岡市災害廃棄物処理計画」

令和元年度に策定された、地震や水害などの災害時に発生する廃棄物の処理に関する計画で、被災文化財を緊急措置へつなげるために整合を図ります。

④「白岡市地域防災計画」

令和3年3月に最終改訂が行われています。当市は過去に、明治43年、昭和22年などの水害の記録があります。また、大正12年の関東大震災、昭和6年の西埼玉地震、平成23年の東日本大震災など地震被害の記録も残されています。第4篇第9節「文化財災害対策計画」をはじめ各対策計画等との整合を図ります。

⑤「白岡市シティプロモーション戦略」

魅力ある地域の創生を目指し、平成26年度に策定されました。ブランドメッセージとして「いとおかし しらおかし」を掲げて構成された8項目のバトルフィールド中に「歴史的・文化的な遺産」として4つの当市の魅力が示されています。これらの項目との整合を図ります。

⑥「白岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

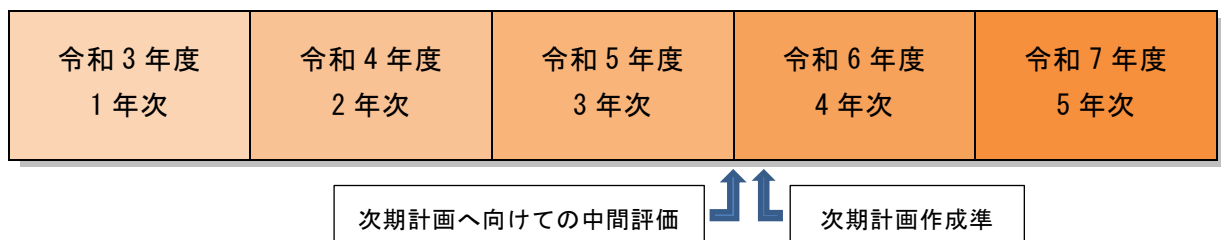
平成27年度に策定され、「コラボレーション～手をつなぎ協働と連携の地域づくり」をメインテーマとしています。これからの地域文化財の保存と活用についても協働と連携は欠かせない視点です。総合戦略を踏まえた地域計画とします。

4 計画期間

地域計画の計画期間は、令和3年度から令和7年度までの5か年とします。

なお、計画の着実な実施のため、適切な進捗管理を行い、必要に応じた見直しを行うとともに計画期間終了前の適切な時期に自己評価を行うものとします。その結果は、次期地域計画に反映させます。

計画期間

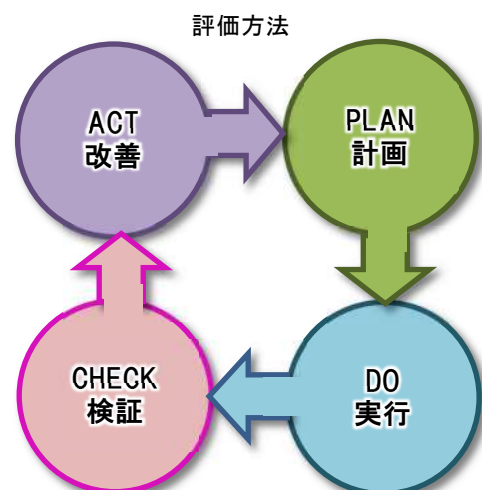


5 計画の進捗管理と自己評価の方法

5か年にわたる本計画の3年次が終了した時点で中間評価を実施します。

個々の事業の評価に関しては、達成度合いを数値に現しにくい性質のものや、短期的な成果が上がりにくい事業が存在することも確かであることから、多様かつ柔軟な評価基準を設け、適切な評価に心がける必要があります。

評価以上に重要となるのが、検証と改善です。地域における文化財保護意識の醸成度合いや社



会情勢の変化、調査の深度などを総合的に評価しながら、検証と改善を繰り返すことで、地域の文化財を地域の手で守り伝える取組を進めます。

6 計画作成の体制と経過

地域計画の作成にあたっては、文化財保護法第183条の9の規定に基づいて定めた、白岡市文化財保存活用地域計画策定協議会（以下「策定協議会」といいます）設置要綱に沿って、文化財の所有者、文化財に関係する機関・団体の代表者、歴史及び文化財に関する学識経験者、商工団体の代表者、観光関係団体の代表者などから構成された策定協議会委員を選任し、白岡市教育委員会学び支援課が事務局となって検討を行いました。

白岡市文化財保存活用地域計画策定協議会委員名簿

No.	氏 名	所属・役職等	専門分野
1	◎宮瀧 交二	大東文化大学文学部教授	古代史
2	○鈴木 敏昭	白岡市文化財保護審議会会長	考古学
3	内田 幸彦	埼玉県教育局文化資源課主幹	民俗学
4	大久保 茂之	白岡市指定文化財所有者	
5	大久保 要夫	野牛文化財愛護会会長	
6	中村 輝久	白岡市商工会事務局長	
7	大橋 忠夫	白岡市観光協会事務局長	
8	齋藤 久	白岡市総合政策部参事兼企画政策課課長	
9	中太 隆明	白岡市商工観光課課長	
10	阿部 千鶴子	白岡市教育委員会生涯学習部部長	
11	岩楯 浩志	白岡市教育委員会学び支援課課長	

事 務 局

No.	氏 名	所属・役職等	専門分野
1	奥野 麦生	白岡市教育委員会学び支援課主査	考古学
2	杉山 和徳	白岡市教育委員会学び支援課主任	考古学

白岡市文化財保護審議会委員

No.	氏 名	所 属	専門分野
1	新井 浩文	埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸主幹	中世史・歴史的公文書
2	飯塚 好	元埼玉県立博物館学芸主幹	民俗学（民俗芸能）
3	○板垣 時夫	元白岡市教育委員会参事・さいたま民俗文化研究所	民俗学
4	◎鈴木 敏昭	元埼玉県立史跡の博物館館長	考古学
5	田中 裕子	前埼玉県立歴史と民俗の博物館副館長	民俗学・博物館学
6	林 貴史	元白岡市教育委員会町史編さん室	近世史・被災文化財
7	平澤 香	平成国際大学特任教授	地理学・文化財教育

◎印：会長 ○印：副会長

地域計画作成の経過

期 日	項 目	摘 要
令和2年2月12日（水）	定例教育委員会教育委員会	令和2年度の重点施策として地域計画作成に関する概要説明
令和2年3月17日（火）	3月定例市議会協議報告	地域計画作成に関する概要説明
令和2年7月8日（水）	第1回 文化財保護審議会	地域計画概要説明
令和2年7月10日（金）	第1回 地域計画策定協議会	正副協議会長選出・地域計画概要説明ほか
令和2年8月7日（金）	第1回 策定協議会作業部会	各章概要説明
令和2年9月11日（金）	第2回 策定協議会作業部会	課題・方針・措置の検討
令和2年9月25日（金）	第3回 策定協議会作業部会	課題・方針・措置及び関連文化財群に関する検討
令和2年10月23日（金）	第2回 文化財保護審議会	地域計画進捗状況説明ほか
令和2年10月23日（金）	第4回 策定協議会作業部会	関連文化財群に関する検討
令和2年10月27日（火）	第2回 地域計画策定協議会	地域計画進捗状況、パブリックコメント案説明
令和2年11月17日（火）	第5回 策定協議会作業部会	計画全体に関する調整作業
令和2年11月19日（木）	関連各課協議	計画概要の説明及び各課の取組内容に関する協議
	庁内全課協議	地域計画に関する周知及び修正案等の調整
	議会協議報告	地域計画進捗状況、パブリックコメント案説明

(2) 地 勢

白岡市は、大宮台地の北部に位置しており、3つの支台から形成されています。最も東側で、さいたま市岩槻区方面から伸びてくる台地が大宮台地慈恩寺支台、市域中央に位置し、蓮田市方面から延伸し、久喜市方面に連なるのが大宮台地白岡支台、市域西部の^{おおやま}大山地区を載せるのが、大山地区埋没台地と呼ばれるローム台地です。

台地の標高は、もっとも高い白岡支台の山地区で約16.7m、白岡支台北部の久喜市との境界近くの標高は、約11.2m、大山地区埋没台地のほぼ中央の^{あらいしん}荒井新田地区では、さらに標高を減じ約10.3mとなります。これは、久喜市^{わしみや}鷺宮付近を中心とするいわゆる関東造盆地運動の影響で、市域の北西部はこの影響下にあります。

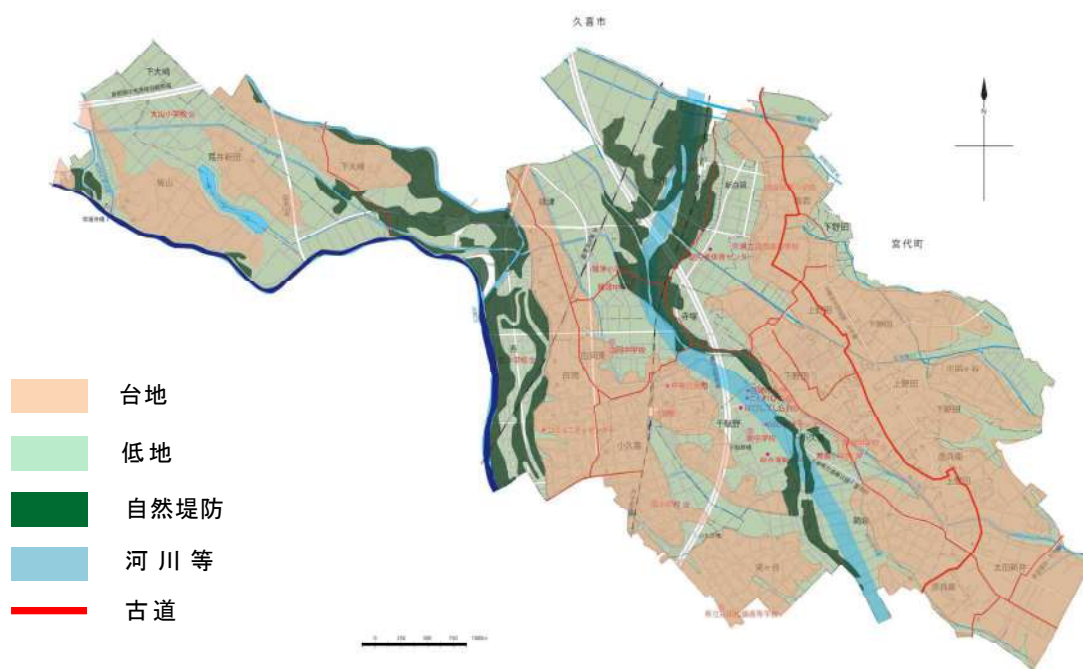
市域を流下する自然の河川は、元荒川と星川が挙げられますが、かつて、市域のほぼ中央を、^{につかわ}日川と呼ばれる利根川水系の河川が流下していたことが知られています。

元荒川は、その名の通り、江戸幕府による荒川西遷事業以前の荒川本流筋の一つとされ、市域の北西部から蓮田市境を流下しています。星川は、新荒川扇状地*の扇端付近を源とする河川で、市域では、久喜市境を東流し白岡支台にぶつくと南へ転じ元荒川に合流します。古くは、白岡支台に沿うように流下していた時代もあるようです。

さて、白岡支台と慈恩寺支台との間を南流していた日川は、古代末期から中世期には非常に重要な役割を果たした河川で、古代^{ききたま}埼玉郡を東西に区分する境界線であったことがわかっています。この領域分けが後の、^{きさい}埼玉領（日川以西）、と^{おたのしょう}太田荘（日川以東）となっていくます。江戸幕府による利根川東遷事業によって近世初期には大きく流量を減じ、やがて廃川となりますが、現在も「日川筋」「日川田んぼ」などの呼称が使われています。

県東部地域には、これらの河川を含む多くの河川の乱流によって、幾つもの沼地や後背湿地が形成されました。市域にも、大山地区の柴山沼や皿沼、^{つめたがや}爪田ヶ谷地区の笠原沼などを始めいくつもの沼地が形成され、近世以降新田開発されていきます。

白岡市の地勢



* 荒川の形成した扇状地で、深谷市畠山付近を扇頂とし、熊谷市久下付近から上之、上中条付近を結ぶラインを扇端とするもの。

(3) 市域の変遷

古文書や記録類から、近世期の市域には、17の村々があったことがわかります。

明治22年(1889)に町村制が布かれると、近世村が合併し、篠津村と大山村が置かれました。また、市域の東部の村々は、岡泉村ほか8か村組合を結成しいわゆる組合村となりました。その後、明治28年(1895)岡泉村ほか8か村組合が合併して日勝村となります。

昭和28年9月、町村合併促進法が公布され、翌29年2月には、町村合併案が公表されます。4月には、日勝村、篠津村、大山村の3村合併実行委員会が結成され、この年の9月、日勝村、篠津村と大山村のうち上大崎地区を除く3地区が合併して白岡町が誕生しました。

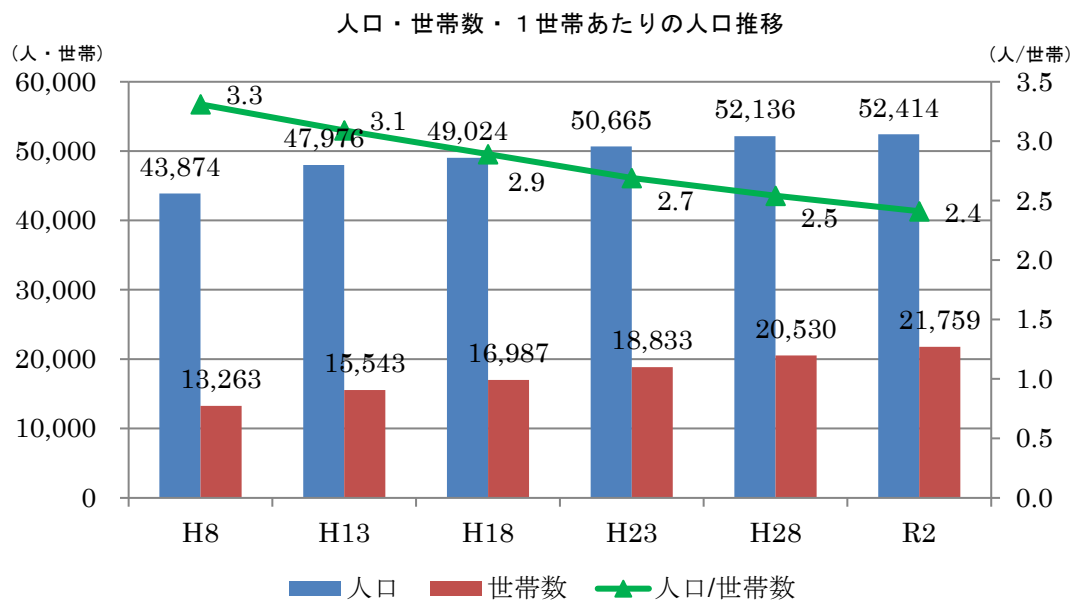
平成24年10月には、単独で市制を布き白岡市となりました。



(4) 人 口

当市の人口は、毎年4月1日現在の住民基本台帳による人口に基づき比較すると、この10年は緩やかに増加し、平成22年に5万人を超えたあともその傾向は続いていましたが、平成31年に初めてわずかながら減少に転じています。

人口構成では、生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向が続く一方、年少人口（0～14歳）は、平成26年に減少に歯止めがかかり、増加に転じています。高齢者人口（65歳以上）の増加傾向は続いており、年齢3区分別の人口割合でも、上昇が見られます。



各年4月1日の数値

資料：住民基本台帳



(5) 交 通

鉄道は、JR宇都宮線が市域のほぼ中央を縦断しており、白岡駅と新白岡駅の2駅があります。市域の中央部へのアクセスは2駅を拠点とすると便利です。

また、高速道路では、南北に東北縦貫自動車道、東西に首都圏中央連絡自動車道が走り、両者が久喜白岡ジャンクションで交わる好条件下にあります。

インターチェンジも、東北縦貫自動車道では、久喜インターチェンジと蓮田スマートインターチェンジが、首都圏中央連絡自動車道では、白岡菖蒲インターチェンジが利用できます。

一般道も、市域西部の大山地区を縦貫する国道122号と、市域中央を縦貫する県道さいたま栗橋線が南北軸、春日部市と久喜市菖蒲町方面とを結ぶ県道春日部菖蒲線が東西軸となり、近隣からの良好なアクセスが可能となっています。

バス路線は、隣接する蓮田市のJR宇都宮線蓮田駅しょうぶなかぼしから菖蒲仲橋（久喜市菖蒲町）方面行の路線が運行しており、大山地区へのアクセスが可能です。また、白岡駅からは、篠津地区を縦貫して菖蒲仲橋行の路線が運行しています。

白岡市周辺の交通網



(6) 産 業

① 農業

農業は、平成 27 年(2015)現在、総農家数は 696 戸で、後継者不足などから減少傾向が続いています。総経営耕地面積は昭和時代後半から通減傾向にありましたが、平成 27 年度には、803ha となり、やや持ち直す傾向が見られます。

商品作物の主力として、市のイメージ形成に一役買っていた梨の耕作面積も大幅に減少しています。



② 工業

工業は、平成 26 年(2014)現在、従事者数 4 人以上の製造業事業所の数は 45、従事者数 2,165 人、年間製造品出荷総額約 489 億円です。

近年の推移としては、事業所数と年間製造品出荷総額はほぼ横ばいながら、従業者数は増加傾向にあります。



③ 商業

商業は、平成 26 年(2014)現在、小売業と卸売業を合わせて、249 事業所が営業しており、従業者数は 2,005 人、年間販売額は約 581 億円です。



平成21年(2009年)に経済センサスが創設されたことにより、商業統計調査の簡易調査が廃止された。平成23年(2011年)に商業統計調査の実施周期が経済センサス活動調査の実施の2年後に変更された。

(7) 土地利用

土地利用は、平成 28 年(2016)の調べでは、総面積 24.92k m²のうち、農地 43.7%、(田 18.6%、畑 25.1%)、宅地 25.8%、池沼 0.6%、山林 1.6%、雑種地 6.1%、その他 22.2%となっています。平成 23 年(2011)の状況と比較すると、農地は 1.5%の減少、宅地は 1.3%の増加となっています。

① 緑地

地目別の土地利用を見ると、農地の割合が高い一方、山林の割合は低く主要な樹林地は屋敷林や社寺林となっています。



② 都市計画区域

当市は、蓮田都市計画区域（5,220ha）に含まれます。当市の市街化区域は545haで、市域の中央部と、新白岡駅周辺に指定されており、市域全体面積の21.9%を占めています。

用途地域の構成割合は、住居系82.1%、商業系4.3%、工業系13.6%となっています。

地区計画は、白岡ニュータウン地区約46.8haなど住居系が4地区、テクノパーク白岡地区約3.5haなど工業系が3地区の合計7地区が指定されています。

用途地域の指定状況

平成28年(2016年)3月現在

区 分		面積(ha)
都市計画区域		2,492.0
市街化区域	第1種低層住居専用地域	38.3
	第1種中高層住居専用地域	72.8
	第2種中高層住居専用地域	140.9
	第1種住居地域	156.9
	第2種住居地域	10.3
	準住居地域	28.0
	近隣商業地域	16.2
	商業地域	7.0
	準工業地域	8.0
	工業専用地域	66.3
	市街化調整区域	1,947

資料: 街づくり課

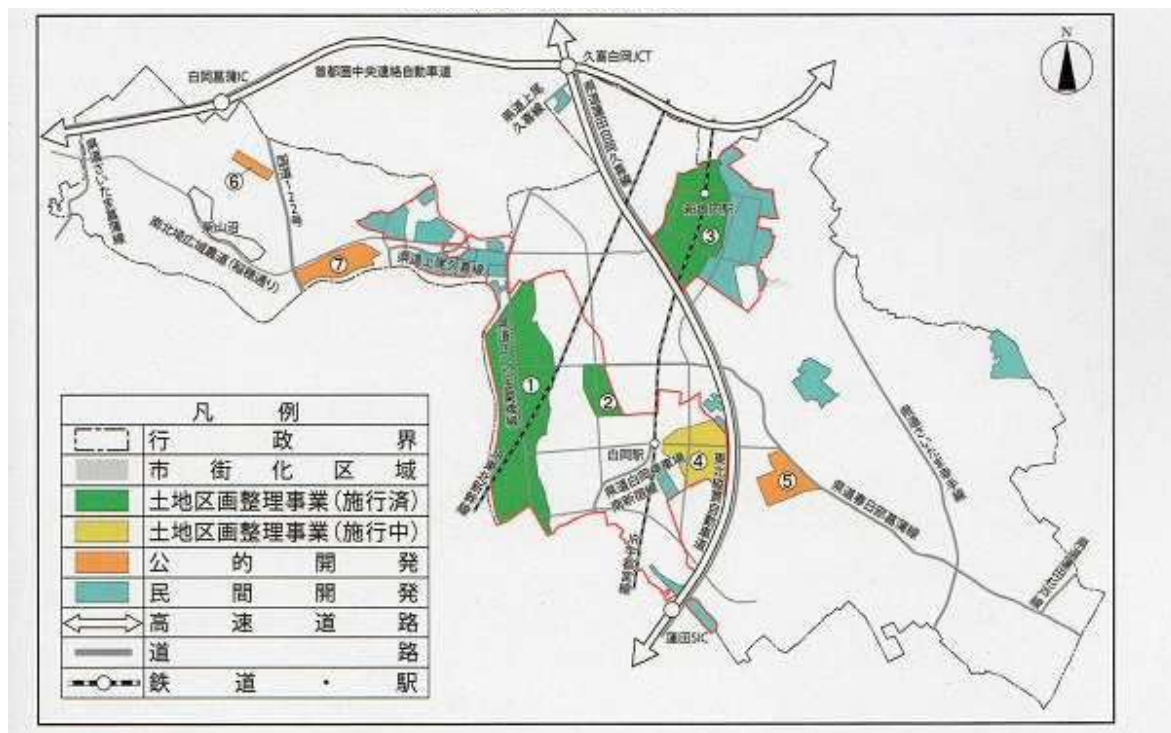
市街化区域の面積は、各面積を合算しても端数処理の影響から合致しない。

③ 都市基盤の整備状況

土地区画整理事業は、公共施行によるものが4件あり、このうちの1件白岡駅東部中央土地区画整理事業が施行中です。

民間による大規模開発では、宮山団地（10.5ha）、白岡ニュータウン（49.5ha）などがあります。

市街地開発事業等位置図



市街地開発事業等の状況

事業名	事業主体	施行年度		区域面積(ha)			計画人口
		開始	完了	計	市街化区域	調整区域	
1 白岡篠津土地区画整理事業	白岡町	S44	S52	98.6	98.6	0.0	8,000
2 原ヶ井戸・東土地区画整理事業	白岡町	S61	H15	11.9	11.9	0.0	1,200
3 野牛・高岩土地区画整理事業	白岡町	S62	H27	56.2	56.2	0.0	4,800
4 白岡駅東部中央土地区画整理事業	白岡町	H08	H40	30.4	30.4	0.0	2,700
5 総合運動公園	白岡町	H07	H07	14.9	0.0	14.9	0
6 ミニ工業団地	環境事業団※	H07	H09	3.9	0.0	3.9	0
7 白岡西部産業団地	埼玉県企業局	H24	H25	15.7	0.0	15.7	0

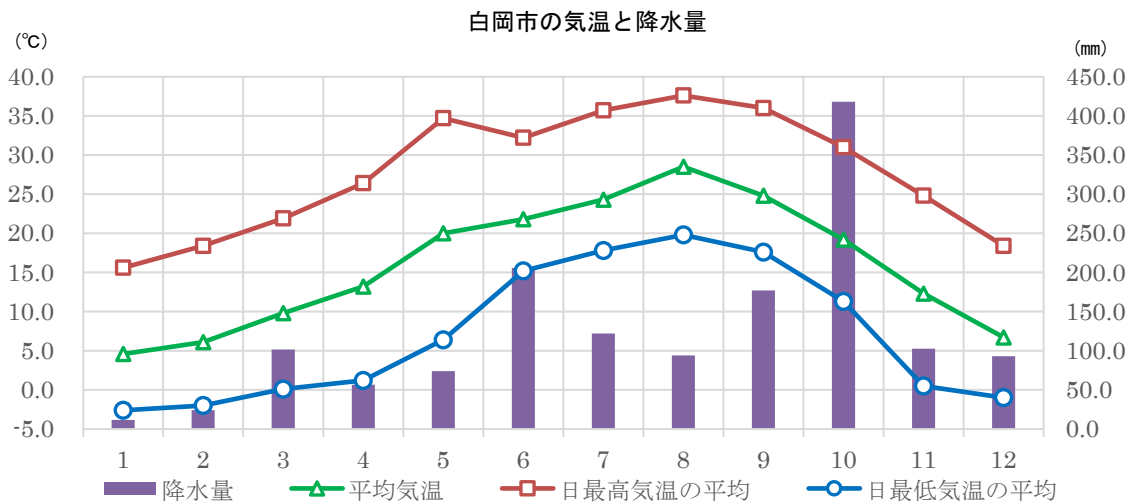
2 自然環境

(1) 気 候

市域の気候は、東日本型の太平洋岸式気候に属し、令和元年の年平均気温は、15.9 度、年間累計降水量は、1,479.5mm、年平均湿度は 74%ほどです。

夏季の最高気温は 35 度を上回りますが、平均気温が 25 度を上回るのは、8 月だけです。12 月から 3 月までは、平均気温が 10 度を下回ります。

降水量は、梅雨前線や秋雨前線の影響を受ける 6 月 9 月が多い傾向があります。令和元年は、2 つの台風が関東地方を通過した 10 月の雨量が月積算で 400mm を上回りました。



データ提供：埼玉東部消防組合白岡消防署

(2) 地 質

市域を地質学的に見ると、後期更新世^{*1}に形成された最新期地層群に相当します。

慈恩寺支台、白岡支台、大山地区埋没台地の 3 つのローム台地を含む大宮台地は、古東京湾の海退^{*2}によって形成された海岸平野が、利根川や荒川、渡良瀬川などの浸食によって作り出された台地です。低地部には、河川運搬堆積物が厚く堆積し沖積層が形成されています。

3 つに区分されるローム台地は、武蔵野段丘Ⅱ面^{*3}に相当し、上部には立川ローム層の堆積が見られます。下部には東京軽石層（TP）^{*4}を挟んで砂層やシルト質の砂層が堆積しています。

また、いわゆる硬砂層^{*5}の残される場所も散見されます。

慈恩寺支台と白岡支台の間に形成された日川低地や白岡支台の西側を流下する元荒川沿いに形成される低地部では、砂層やシルト質の粘土層などが堆積しています。また、日川低地では、自然堤防が顕著に発達しており、古道や中世寺院などの分布を見ると、遅くとも中世段階ではある程度安定した状況で、集落が営まれていたものと推測されます。

*1 12 万 6000 年前から 1 万 1700 年前までの期間。上部更新世などとも呼ばれます。

*2 氷河期には、極地や高山に水分が氷結することで海水準が低下する海退現象が見られます。

*3 海退によって生じたローム台地を河川が浸食し河岸段丘が形成されます。多摩川によって形成された段丘の低位面を立川段丘（立川面）、それよりも一段高い段丘を武蔵野段丘（武蔵野面）と呼びます。武蔵野面は成増面、赤羽面、中台面に 3 区分されており、赤羽面を武蔵野段丘Ⅱ面と呼びます。

*4 約 5 万年前の箱根火山の噴火によってもたらされた軽石層です。所沢付近の武蔵野台地でも 5～10 cm の堆積が確認できます。

*5 約 7 万年前の河川堆積砂の上位に関東ローム層が堆積し、緻密に硬化したもので、蓮田市黒浜周辺では、約 40 cm の層厚があるといわれます。石材の少ない白岡周辺でも竈の袖石などに使われています。

(3) 生態系

① 植生・植物

市域における自然植生は、暖温帯の常緑広葉樹林域に属し、ヤブツバキ、シラカシ、ヒサカキ、シロダモなどが優先します。

しかし、市街地はもちろん、郊外の農業集落地域でも、自然植生を保つ樹林は皆無に等しく、現在利用されていない樹林でも、過去には人の手の入った、いわゆる二次林となっています。特に平地部の雑木林は少なく、台地縁辺部の斜面林のほか、屋敷林としての樹林が残されている程度です。

歴史的に見ても、近世期の村落でわずかな樹林を薪炭林^{しんたんりん}として維持していたほか、草地を茅場^{かやば}として維持していた記録が見られます。

このような状況の中、平成22年に埼玉県「まちのエコ・オアシス保全推進事業」に伴い保全地となった「彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森（愛称：ひこべえのもり）」は、1ha余りの平地林で、市域に残された貴重な雑木林といえます。

「ひこべえのもり」の植生調査では、林内及び周囲の草地、隣接する田を含め、178種の維管束植物^{いかんそく}が確認されています。木本では、コナラ、イヌシデ、アカシデ、コブシ、ウワミズザクラ、イヌザクラなどの夏緑広葉樹が優先しますが、かつての植林の名残のスギ、ヒノキが混じるほか、シラカシ、ヒサカキ、シロダモなどの常緑広葉樹の生える混交林^{こんこうりん}となっています。

林床植物では、絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゅ}*のカラタチバナやシュンランの群落が見られるほか、隣接する田んぼでは、ミズワラビが見られます。



シュンラン

② 哺乳類

白岡町史資料7『自然（ふるさとの風土）』（昭和62年）によれば、市域に生息が確認される哺乳類としては、ニホンノウサギ、ニホンイタチ、アズマモグラ、アブラコウモリ、ホンドタヌキが挙げられています。過去には、ホンドキツネ（大正10年頃まで）、ニホンアナグマ（大正10年頃まで）、ホンドテン（昭和初期まで）の記録があります。

また、清左衛門遺跡^{せいざえもん}の土坑内貝塚からニホンジカやイノシシの骨などが検出されており縄文時代には、シカやイノシシが生息していたことがわかるほか、幕末の上野田村の記録では、一橋家の鷹場^{たかば}を管理する上で、畑に出没するシカを追い払うために「短筒」^{たんづつ}（ピストル）を借り受けていることがわかります。

市域ではこのほかにげっ歯類として、アカネズミ、ハタネズミ、カヤネズミ、クマネズミが確認されているほか、近年農業被害や建造物侵入の被害が問題となっている外来生物として、アライグマ（特定外来生物）やハクビシンが生息しています。



アズマモグラ

*絶滅のおそれがある種のことを指し、いくつかのカテゴリーに分類されている。ここでは『埼玉県の希少野生生物植物編2011』による評価によっており、カテゴリー分類の詳細は資料編に記載した。

③ 鳥 類

「ひこべえのもり」では、現在までに約 40 種類の鳥類が確認されています。

また、元荒川や、柴山沼などの水辺では、カモ類をはじめとする水鳥 20 種類余りが確認されているほか、生涯学習事業として取組んでいる自然観察会やバード・ウォッチング教室などで把握されている種を含めると 76 種類の鳥類が観察されています。

このうち、夏鳥として飛来するコアジサシやチュウサギ、カッコウ、アオバズク、オオヨシキリ、冬鳥として渡ってくるカンムリカイツブリ、コハクチョウ、オオバン、タゲリなどのほか、オオタカ、トラツグミ、コサギ、バン、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、コガラ、アオジなどは、絶滅危惧種*に指定されています。



コクマルガラス



オオタカ（幼鳥）

④ 魚 類

白岡町史資料 7『自然（ふるさとの風土）』（昭和 62 年）によれば、市域を流れる元荒川や星川などの河川や柴山沼などの湖沼では、16 種類の魚類が確認されています。

市域には、前述の河川湖沼のほか、主産業であった水田耕作を支えるたくさんの用排水路があります。水田や用排水路に適応したウナギ、コイ、フナ、ナマズなどの魚類やヌカエビなどの甲殻類、マシジミやタニシなどの貝類は、貴重なタンパク源として生活のなかに位置づけられていましたし、^{ぎょうろう}漁撈活動を半ば生業としている人々や、川魚料理店も営まれてきました。また、農閑期の魚釣りや「カイボリ」と呼ばれる魚とりなどは、レクリエーションと実益を併せ持つものとして広く行われてきました。

一方、近年では、広がりを見せるスポーツフィッシングの影響もあり、柴山沼などでブラックバス（オオクチバス、コクチバス）やブルーギル（いずれも特定外来生物）などの外来魚が増加しており、生態系の攪乱が懸念されています。

*絶滅危惧種としての評価は『埼玉県レッドデータブック動物編 2018』による。カテゴリー評価等詳細は、資料編に記載した。

3 歴史的背景

ー原始概観ー

白岡の台地に人々の暮らしの痕跡が残されるようになるのは、約 24,000 年前の旧石器時代後期のことです。

人々は、家族など少人数の集団ごとに移動しながら暮らしていたようです。氷河期という環境の下での暮らしは、今の私たちの想像をはるかに超える厳しいものだったに相違ありません。

やがて、氷河期が終わり、気候が温暖化すると、人々の暮らしにも変化が現れます。土器が作られ、弓矢を使った狩りも行われるようになります。

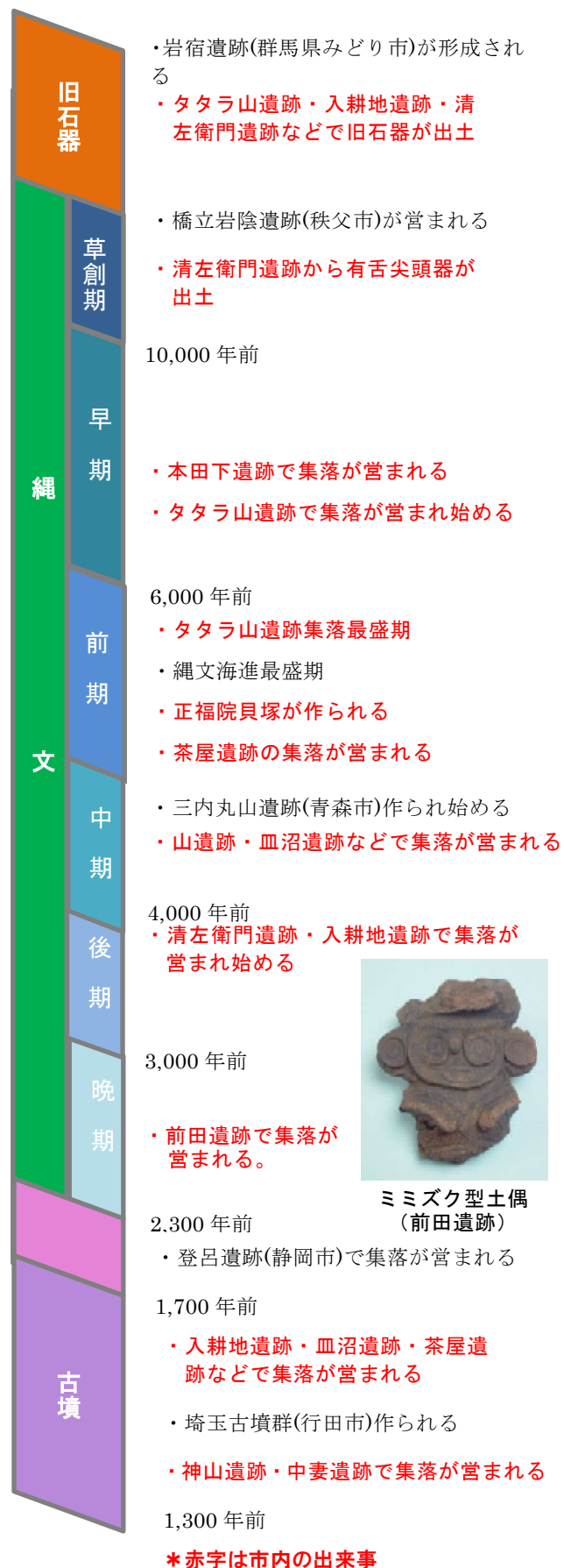
縄文時代の幕開けです。土器を使った煮炊きによって、食料の幅が格段に広がり、衛生面でも大きく改善されたことでしょう。人々の暮らしは、徐々に豊かさが増したと思われます。

市域では、弥生時代の遺跡は見つかっていません。なぜでしょうか？おそらく、水田で米を作るようになった人々の生活の場は、台地から低地に移ったため、弥生時代の集落は見つかりにくいのだと考えられます。

古墳時代の集落は、再び、台地上に戻ってきます。水田作りの技術が向上し、耕作規模の拡大につれて、水田域と居住域とが別れたためと考えられます。しかし、土を高く盛り上げた墓である「古墳」は、市域では見つかっていません。これも、歴史の「謎」のひとつです。



タタラ山遺跡出土石製装飾品群（市指定）



ミミズク型土偶
(前田遺跡)

(1) 旧石器・縄文時代

① 旧石器時代

日本に、人々が暮らし始めるのは、約4万年前のことと言われています。この時期地球は氷河期で、水分は極地や高山に凍りつき、海水準は現在より150～200m近くも低かったと考えられています。

市域で現在確認できる、最も古い人々の暮らしの痕跡は、今から20,000年から25,000年ほどまえの旧石器時代後半のものです。

人々は、ナイフ型石器という先端の尖った組み合わせ式の槍を^{たずさ}携え、大型の^{けもの}獣を狙った狩をして暮らしていたと考えられています。彼らの残した石の道具は、関東ローム層と言われる赤土の中から発見されます。市域では、白岡地区のタタラ山遺跡や入^{いり}耕地^{げうち}遺跡、山遺跡、篠津地区の^{なかづま}中妻遺跡、上野田・下野田地区の^{せいざえもん}清左衛門遺跡や上小笠原^{かみおがきわら}遺跡などから見つかっています。



ナイフ形石器出土状況（上小笠原遺跡）

② 縄文時代

氷河期が終わりを告げ、気候も徐々に温暖になり始めます。15,000年ほど前になると、人々は、土で作った器を作ること覚え、弓矢で狩をするようになります。隣の宮代町では、人々が土器作りを始めた縄文時代草創期^{そうそうき}に作られた「微隆起線文土器^{びりゅうきせんもん}」が見つかっています。市域で最も古い土器は、これより少し後の縄文時代早期初頭の「撚糸文系土器群^{よりいともん}」と呼ばれる一群で、タタラ山遺跡や中妻遺跡などで見つかっています。

約6,000年前、縄文時代前期になると気候は一層温暖化し、極地や高山の氷河が解け、海水準が上昇します。川に沿って海水が内陸部に入り込み内湾が形成されます。縄文海進^{かいしん}と呼ばれる現象です。この頃、白岡を含む大宮台地周辺では、たくさんの貝塚が作られるようになり、土器に精緻な縄目模様を施した文化が花開きます。この頃作られた土器群をその縄目模様から「羽状縄文系土器群^{うじょうじょうもん}」と呼びます。隣の春日部市^{はなづみ}の花積貝塚から出土した土器を標識とする「花積下層式土器」、蓮田市の関山貝塚出土土器を標識とした「関山式土器」同じく黒浜貝塚群から出土した土器を標識とする「黒浜式土器」などがこれに当たります。

タタラ山遺跡は、花積下層式土器が使われていた時代の大きな集落の跡で、これまでに、約70軒にのぼる住居跡が見つかっています。この集落は、現在の元荒川の形成した谷筋を見下ろす高台に築かれた集落で、この谷筋を行き交う人々と多くの交流を持っていたことがうかがわれます。交易でもたらされた貴重な石材を用いたイヤリングやペンダントなどの石製装飾品の数は、これまでの発掘調査で既に60点近く出土しており、特に鳥や動物をかたどったと思われるペンダントは貴重なものです。また、東海地方や北東北からもたらされた土器や石器もたくさん見つかっています。

縄文時代中期には、人々の暮らしした集落の数はピークを迎えます。山遺跡や下大崎地区の皿沼遺跡、上野田地区^{あかつちや}の赤砂利遺跡などで規模の大きな集落遺跡が形成されます。しかし、市域に形成された縄文時代中期の集落はいずれも中期後半のもので、縄文時代中期前半の集落は見

つかっていません。

縄文時代後期になると、集落の数は減少する傾向が見られますが、中期から継続して営まれる集落が多く見られることから、単純に減少するというより、より住みやすい場所に集約される傾向があると言ったほうが適切かもしれません。こうした集落は、この後の晩期半ばまで継続的に営まれる傾向が見られます。清左衛門遺跡や実ヶ谷^{さながや}の前田遺跡などが好例です。これらの遺跡に共通するのは、大きな谷筋から派生する支谷に面した豊富な湧水を利用できる緩斜面などです。

清左衛門遺跡では、木組みの水場遺構が検出されトチの実やクリ、クルミなどの堅果類が出土しているほか、土坑内の貝層からニホンジカやイノシシなどの動物の骨が多数出土しました。こうした資料の分析から縄文時代の人々の食生活を始め、周辺の自然環境などもある程度復元することが可能です。

清左衛門遺跡や前田遺跡では、縄文時代晩期の墓坑群が検出されており、集落域と墓域との関係なども把握できれば、縄文時代の人々の暮らしがより鮮明になることでしょう。



水場遺構（清左衛門遺跡）



土坑内貝塚（清左衛門遺跡）



柄鏡形住居跡（清左衛門遺跡）

（2）弥生・古墳時代

① 弥生時代

多くの遺跡があり、情報量の豊かな縄文時代と比較して、弥生時代は、白岡の歴史の糸が最も細くなる時代ということが出来ます。市域では、弥生時代の遺跡は現在のところ見つかっていません。

これにはいくつかの理由が考えられます。まず、1 万数千年に及ぶ縄文時代に比べ、関東地方の弥生時代は、わずか3～400 年間と考えられ、その時間幅が全く異なることが挙げられます。市域に残された縄文時代の遺跡は、明らかなものだけで30 数遺跡ありますが、裏返してみると、1 万数千年間でわずか30 数遺跡とみることもできます。

次に、水田耕作を始めた弥生時代の集落は、水田に近い低地域に形成されていた可能性があ

ることです。縄文時代の集落の多くが台地上に形成されていたのに対し、現在でも水害に見舞われることのある低地域に集落が形成されていたとすれば、水害で押し流されてしまったり、厚い沖積土の下に没してしまったりして、見つけれないなどの可能性が高いものと思われます。

② 古墳時代

市域には、高塚を築いた墳墓いわゆる古墳は知られていません。弥生時代から引き続き、歴史の糸が細い時代です。

しかし、弥生時代と違って、古墳時代の集落遺跡はいくつか残されています。白岡地区の茶屋遺跡、タタラ山遺跡、入耕地遺跡、下大崎地区の皿沼遺跡、篠津地区の神山遺跡、中妻遺跡などです。

茶屋遺跡、タタラ山遺跡、入耕地遺跡、皿沼遺跡などでは、古墳時代前期の五領式土器を伴う集落が検出されていることから、当然、その前の弥生時代から人々の暮らしが継続して営まれていたと考えることが自然でしょう。また、正福院の境内からは、この時代のお墓の一形態である、方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}というお墓が見つかっています。この形態のお墓も弥生時代からの流れを汲むものです。

近隣の古墳には、久喜市菖蒲町^{かやま}の栢間天王山塚古墳を盟主とする栢間古墳群^{めいしゅ}、蓮田市の椿山古墳群^{つばきやま}、春日部市の内牧古墳群^{うちまき}など、古墳時代中期から後期の古墳群が見られます。市域でも、今後どこかで古墳跡が見つかる可能性があるものと思われます。



古墳時代前期の住居跡（入耕地遺跡）



古墳時代後期の住居跡（中妻遺跡）

一古代・中世概観一

古代の白岡は、武蔵国埼玉郡大田郷に属し、その推定範囲は白岡のほか、久喜、宮代、さいたま市岩槻区周辺であったと考えられています。

白岡では、古代の集落跡のほか、鉄作りや炭作りなどの生産遺跡の存在が確認されています。

平安時代末期、関東地方では平氏、源氏などの軍事貴族や国司、郡司の子孫などが有力な土豪と結び付いて土着し、その土地を開発していきます。

彼らはその土地の名を名乗り、普段は荘園の経営や地方の役人、都の有力貴族などとの交渉、あるいは荘園を巡る紛争の解決などにあたっていますが、いざ争いが起きると、血縁や同じ地域で気脈を通じる領主たち同士で団結し、武器をとって戦いました。

武蔵国では、武蔵七党などと呼ばれる有力な武士団が知られています。

白岡周辺は、桓武平氏の流れを汲む野与党の勢力基盤となっていました。当時、白岡、小久喜、実ヶ谷近辺は鬼窪郷といわれ、野与党の有力一族である鬼窪氏の拠点であったことが分かっています。

鬼窪氏は、鎌倉時代から室町時代にかけて、その武勇を知られ、重要な位置を占めた氏族であることが、文献史料などからうかがわれます。



木造薬師如来坐像（安楽寺・市指定）



金銅仏
(神山遺跡)

(1) 奈良・平安時代

市域に残された奈良・平安時代の遺跡としては、タタラ山遺跡、中妻遺跡、実ケ谷の鶴巻遺跡、などが挙げられます。特に、タタラ山遺跡と中妻遺跡は鉄生産に関わる生産遺跡として注目されます。タタラ山遺跡は、いわゆる大鍛冶^{おおかじ}こそ見つかっていませんが、大口径^{はぐち}の羽口や溶けた炉壁ブロックなども出土しており、近辺に鍛冶炉の存在が感じられる遺跡です。隣接する山遺跡や、近辺の鬼窪尾張繁政^{しげまさ}（南鬼窪氏）館跡、沖山西遺跡では、8世紀に遡る炭焼窯が検出されており、多量の燃料炭の供給を裏付けています。

中妻遺跡では、精錬炉を持つ工房跡や集落跡が検出されており、鉄生産に関わる集団が存在したことを物語っています。

この中妻遺跡は、荒川と星川の合流点に当たること、白岡支台を挟んで、荒川と日川（利根川）が最も接近する位置にあることなど、交通や流通の要衝であったものと考えられ、中世以降の白岡を考える上で、大変重要な遺跡と言えます。



精錬炉を持つ工房跡（中妻遺跡）

(2) 鎌倉時代

武士の台頭する中世、白岡の地にも、有力な武士団が登場します。武蔵七党の野与党鬼窪氏です。野与党は、桓武平氏の流れを汲み、上総介^{かずさのすけ}や下総介^{しもうさのすけ}などとして勢力を張った千葉氏と同族に当たります。「千葉大系図」（『房総叢書』）によると坂東平氏の祖と言われる平良文の孫の平忠常の弟胤宗^{たねむね}を野与党祖としています（諸説があります）。

鬼窪氏は、この野与党の中の有力な一族で、胤宗の孫野与基永の子行基の第2子定綱が鬼窪六郎を名乗ったことが知られるほか、基永の第3子経長の孫行親が南鬼窪を名乗っており、2流の存在が知られています。

南鬼窪小四郎行親は、『吾妻鏡』元暦2年（1185）3月14日の条に、源頼朝の命により、鎮西の源範頼への御書を遣わす使者となっていることがわかります。

元暦2年（1185）3月14日は、平家が壇ノ浦で滅亡する10日前に当たります。小四郎行親が届けた御書には、平家追討のことや、宝物の取扱いのことが記されていたとされ、行親が鎌倉方の中で重要な位置にあり、頼朝の信任が厚かったことをうかがわせる記録と言えます。



入耕地館跡航空写真（入耕地遺跡）

一方、鬼窪六郎定綱の系譜は、弘綱・左衛門尉弘家・太郎光口・又太郎某と遺跡を継承します。又太郎某は、『吾妻鏡』正嘉2年（1258）3月1日の条に、將軍宗尊親王^{むねたか}（鎌倉幕府6代將軍、皇族初の征夷大將軍）の二所権現^{*}御発進に際し、後陣随兵として従っていることがわかります。

* 二所権現：伊豆山権現（伊豆山神社）と箱根権現（箱根神社）。

鬼窪氏の本貫地白岡では、建久6年(1195)、鬼窪某が、頼朝の命を受け白岡八幡宮の社殿を造営し、社領100貫文を寄進しています。この時、別当寺の正福院は真言宗に改宗したと伝えられます。

このほか、平安末期から鎌倉初期にかけて開かれたとする寺社に、高岩の忠恩寺(天喜2年・1054)、篠津久伊豆神社(康治元年・1142)が挙げられます。

(3) 室町時代

後醍醐天皇による鎌倉幕府討幕の動きのなかで、元弘3年(1333)5月新田義貞と弟の脇屋義助が上野国新田荘で挙兵します。軍勢を進めるうちに新田軍は数を増しつつ、鎌倉に攻め込んだ時には20万騎を超える大軍であったと伝えられます。

この時の戦に係るエピソードが上野田の大徳寺に伝えられています。「大徳寺縁起」によれば、同寺は、鎌倉街道中道沿いに位置し、奥州路の要衝にあたることから、新田義貞らは、通行のたびに大徳寺に参籠し、戦勝を祈願していたといわれています。

北条氏討伐の折も、鎌倉街道中道を進んだ脇屋義助は、勝利を収めたのち帰陣に際し大徳寺を本陣として人馬の休息を取りました。ところが、脇屋軍の出立後に鎌倉勢の残党が寺に入り、酒食ののち寺に火を掛けたため、当時の壮大な伽藍は灰燼に帰したといわれています。しかし、本尊の大日如来の御頭と御手は近くの大日沼に隠し置き、のちにこれを引き上げ、尊像を修理して仮堂に安置したと伝えています。

昭和56年(1981)に大徳寺の大日如来の修理を行った際、胎内から智拳印を結ぶ両手が発見され、言い伝えが本当であったことがわかりました。

室町時代の鬼窪氏の動向に目を転じてみましょう。

観応2年(1351)から翌3年にかけて足利尊氏と弟の直義が争った観応の擾乱が勃発し、武蔵武士たちも両軍に分かれて争っていますが、この中で高麗経澄という人物を含む尊氏方の一軍が、観応2年12月に「鬼窪」で旗挙げしたことのわかる文書が残されています

(高麗経澄軍忠状「町田家文書」:埼玉県指定)。また、観応3年2月に、高麗経澄が新田勢と戦った際の軍忠

状の中に、鬼窪弾正左衛門や鬼窪左近将監という人物と行動をとともにしていたことがわかる記述があり

ます。尊氏方の軍勢が集結し旗揚げした場所は、白岡八幡宮と隣接する入耕地館跡(入耕地遺跡に含まれます)だと推定されます。

観応の擾乱から約20年後の応安3年(1370)、鎌倉滞在中の五山の名僧義堂周信の日記『空華日用工夫略集』の8月の条の中に、鬼窪修理亮が出家遁世を願い出たことが記されています。このときのことを少し詳しく見てみましょう。



大日如来の胎内から発見された仏手



鬼窪八幡宮鰐口(白岡八幡宮・市指定)

- 3 日 鬼窪修理亮来る。告切して改服せんことを欲す、蓋し以って不賞也、再三勸勉してこれを慰む、祥雲庵に送歸して一宿す。
- 4 日 鬼窪子息小童来る、父海上居士を尋ねる、父子のため点心を排弁す、上杉兵部(能憲)来る、霜台(上杉朝房)上表、鬼窪遁世のことを謝す。
- 5 日 齊罷入府と幼君(足利氏満)見ゆ、霜台上表、鬼窪遁世のことを略敘す。
- 7 日 上杉兵部単騎にて来る、書閣に延びて茶話す、天下大事并霜台上京事に及ぶ(中略)しかるに鬼窪に出家不可を面論す、すなわち本に復す、一族皆来賀す。
- 応安4年5月
- 1 日 鬼窪常暁禪人(修理亮か)来る、世間の禍福を論じて云く。

鬼窪修理亮は、義堂周信を師として出家遁世したいと申し出ますが、周信はこれを慰留し、祥雲庵に送って一泊させています。翌日修理亮の息子が訪ねてきたので、周信は親子を点心で饗応しています。また、上杉能憲^{うえずぎよしのり}は、修理亮の出家遁世について、上杉朝房^{ともふさ}が鎌倉公方^{くぼう}に報告したことを伝えるとともに、周信にも謝して受け入れることを求めています。翌5日の午後、周信は、鎌倉公方に目通りし、朝房の申し入れを受けて修理亮の出家について報告しています。ところが、7日「天下の大事」が起こり、朝房が上京することとなったため、修理亮の出家は不可とされます。一族は皆喜び周信のもとへあいさつに來たとの様子が記されています。

応安4年5月、その後出家を果たしたと思われる修理亮は常暁禪人と名乗り、周信を訪ね、世間の禍福^{かふく}を論じている様子を見ることができます。

上杉能憲と上杉朝房はともに関東管領に任じられている鎌倉府の中核です。義堂周信は、鎌倉公方の養育係で、鎌倉府の政治的ブレーンであった人物です。鬼窪修理亮は、その進退を関東管領が直々に鎌倉公方に伺いを立てるような位置にあったことがわかります。現に天下の大事(信濃善光寺の栗田氏蜂起)が勃発すると一度は認められた出家が取り消されてしまいます。「子息小童」と表現されるような子供のいる年齢とすれば、高齢とは思えません。出家後、周信と世間の禍福を論じているところを見ると、高い教養を持った人物であると推測されます。

これら14世紀後半の記録の後、鬼窪氏の足跡は途絶えてしまいます。次に鬼窪氏の名前が現れるのは、15世紀半ばの金石資料で、白岡八幡宮に伝えられる享徳5年(康正2年・1456)銘の鰐口に「武州寄西郡鬼窪八幡宮鰐口」の刻銘があるほか、日高市聖天院に伝えられる応仁2年(1468)銘の鰐口(埼玉県指定)には、「武州埼玉郡鬼窪郷佐那賀谷(実ヶ谷)村」の刻銘が残されており、地名として「鬼窪」の名前が見られます。

さらに1世紀ののち、元龜2年(1571)小久喜の寿楽院が開かれます。この時開基となるのが、鬼窪尾張繁政という人物です。繁政は、寿楽院に隣接して自らの館を築いていますが、発掘調査の結果16世紀半ばを遡る遺物は見られず遺構の重複もないことから、16世紀半ばに新規に築かれた館とみられます。入耕地館跡が15世紀半ばまでには廃絶していることを考えると、約1世紀の空白が生じることとなり、この間の鬼窪氏の足跡は途絶えてしまいます。

(4) 寺社・城館跡

さて、ここで市域に残る中世起源の寺社について確認しておきましょう。

これまでにいくつか述べてきましたが、市内の中世起源の寺社は、大徳寺を含む鎌倉街道中道沿線と、篠津久伊豆神社から白岡八幡宮にかけての白岡支台の西縁部に集中する傾向があります。

鎌倉街道中道沿線では、胎内に応仁 2 年（1468）の修理銘のある薬師如来が安置されている太田新井の安楽寺、前述の元弘の乱に係る伝承を持つ上野田の大徳寺、開基を岩付（槻）城主太田（北条）氏房と伝える正伝寺、渋江兼重の開基で、岩付（槻）太田氏の庇護を受けたことを伝える高岩の忠恩寺などがあります。

篠津・白岡地区には、康治元年（1142）の創建と伝える篠津久伊豆神社、文亀 2 年（1502）季雲永岳中興開山、菖蒲城主佐々木氏綱中興開基と伝える興善寺、天文 17 年（1548）の北条綱繁寄進状があったという白岡八幡宮別当寺正福院、頼朝の命により鬼窪某が社殿を造営したと伝える白岡八幡宮などが並びます。

前者は鎌倉街道中道を軸とした交通にかかわる寺社群、後者は鬼窪氏にかかわる寺社群と括ることができるでしょう。

中世以前の創建と伝える寺社

字名	寺社名	創建年代	摘要
実ヶ谷	久伊豆神社	嘉吉元年(1441)	県指定聖天院鰐口(応仁 2 年・1468)が奉納された神社
	東光院	天文年間(1532~54)	当山派修験、剣 1 振 当代は神職
小久喜	寿楽院	元亀 2 年(1571)	鬼窪尾張繁政開基
上野田	鷲神社 (高祖明神社)		天文 23 年(1554)銘の鰐口があったと伝えられる(『新編武蔵風土記稿』)
	大徳寺	永正 9 年(1512)再建	元弘の乱に係る伝承持つことから、これ以前からあった寺と思われる。
	大光院(廃寺)	天文 2 年(1533)	当山派修験
	正伝寺		開基岩付(槻)城主太田(北条)氏房
太田新井	安楽寺		薬師如来の体内に応仁 2 年(1468)の修理銘がある。
篠津	久伊豆神社	康治元年(1142)	『新編武蔵風土記稿』、『武蔵国郡村誌』では確認できず
高岩	天満神社	応永 32 年(1425)	泉蔵院住職寂元によりもたらされた菅公の画像をまつり氏神とする『社寺堂庵明細帳』
	泉蔵院(廃寺)		応永 31 年(1424)住職寂元菅公の画像を入手
	勢光寺(廃寺)		開山円竜、天文 21 年(1552)入寂と伝える。
	忠恩寺	天喜 2 年(1054)	開基渋江兼重、岩付(槻)太田氏の庇護を受ける。
寺塚	東照寺(廃寺)		開山周東は延徳元年(1489)入寂
白岡	八幡宮	建久 6 年(1195)	頼朝の命により鬼窪某社殿造営、鬼窪八幡宮鰐口(享徳 5・康正 2・1456)あり
	正福院	嘉祥 2 年(849)慈覚大師円仁草創という	天文 17 年(1548)北条綱繁からの寄進状があったという。白岡八幡宮別当寺。
	興善寺	嘉祥 2 年(849)慈覚大師円仁草創という	文亀 2 年(1502)季雲永岳曹洞宗に改修。中興開基菖蒲城主佐々木氏綱

— 近世概観 —

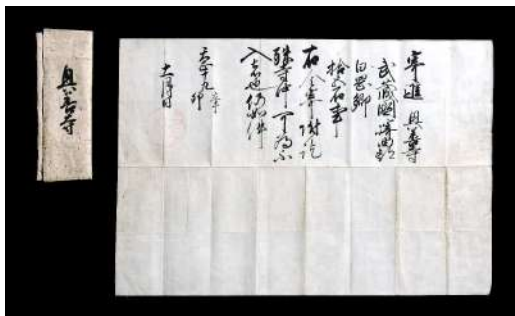
天正 18 年（1590）7 月、豊臣秀吉の小田原攻撃によって北条氏の関東支配は終わりを告げ、徳川家康の関東入国により、江戸時代の幕が開きます。

同年 8 月には、家康による領地割が行われます。この時期、市域は 15 の村によって構成されていましたが、これにより岩槻藩領（岡泉・実ヶ谷・千駄野・小久喜・野田・爪田ヶ谷・太田新井・高岩・寺塚の 9 か村）・騎西藩領（篠津・野牛の 2 か村）・柴田氏領（白岡・柴山・荒井新田・大崎の 4 か村）という 3 つの領地に分かれました。

このうち、柴田氏知行分については、寛永 10 年（1633）に白岡村は旗本川副氏、柴山村は旗本南条氏と同天野氏、荒井新田村と大崎村は旗本南条氏の領地となっていることがわかります。

同時期に家康は、寺社に対して一斉に朱印状を与えて、朱印地の寄進を行いました。市域では、白岡の一部が興善寺領に、高岩の一部が忠恩寺領になり、それは明治維新まで続きました。

明治維新まで岩槻藩領であった村は岡泉村・千駄野の 2 か村のみで、その他の村々は、天領・御三卿領、そして旗本の知行地へと変遷します。これらの旗本家の中には在地性の強い領主もいたようで、市域には石灯籠や寺の縁起書などの中に、領主であった旗本の名が残されています。



朱印状（興善寺・市指定）

江戸時代

1590 徳川家康が江戸に入る

1591 興善寺に 15 石が寄進される

1603 江戸幕府開府

1649 忠恩寺に 30 石が寄進される

1672 白岡村領主の旗本川副重頼が白岡八幡宮に石灯籠を寄進



川副氏寄進の石灯籠

1707 富士山大噴火

1709 野牛村の一部が旗本新井（白石）氏の領地となる

1711 新井白石「筑後守」に任ぜられる
野牛久伊豆神社の額が、朝鮮使節の東郭によって書かれる

1731 見沼代用水の舟運が始まる

1762 彦兵衛新田開発の入札が行われる

1783 浅間山大噴火 砂降りにより小久喜村の稲が不作 天明のききん

1821 見沼代用水柴山伏越の樋管伏替

1828 小久喜村の鬼久保与右衛門が獅子連中記を久伊豆神社に奉納する

1842 小久喜村の組頭貞右衛門が鷹場の餌差札と鑑札を受ける

1852 大野雅山が篠津村に漢学塾を開く

1853 ペリーが浦賀に来航する

1854 神奈川で日米和親条約締結

1855 大地震で野牛村の観福寺の宝篋印塔が倒壊する

1858 日米修好通商条約締結

立川音芳らによって篠津久伊豆神社本殿の彫刻が刻まれる



篠津久伊豆神社社殿彫刻

1860 大老井伊直弼暗殺される（桜田門外の変）

1864 この頃 篠津村の山車が造られる

1866 長州藩と薩摩藩が同盟を結ぶ

1867 大政奉還

(1) 近世

① 新井白石と野牛

新井白石は、明暦3年（1657）上総国久留里藩（現千葉県君津市）の藩士新井正済^{まさなり}の子として生まれました。江戸で木下順庵に学んだのち、順庵の推挙で甲府藩主徳川綱豊^{じこう}の侍講となります。徳川家宣が六代将軍になると幕臣となり、「急務三条」の進言や幕府財政の打開策、長崎貿易、朝鮮使節の待遇に進言するなどして頭角を現します。宝永6年（1709）には、野牛村など3か村で500石を拝領しました。正徳元年（1711）には朝鮮通信使の接待役を命じられ叙爵^{じよしゃく}（従五位下筑後守）します。通信使接待の功績で500石の加増があり、このときに野牛村一村を500石で知行します。このときの喜びは自伝である『折たく柴の記』に記されています。

野牛には、新井白石ゆかりの文化財として、白石公の肖像画、久伊豆神社扁額^{へんがく}、直筆の漢詩、郷倉跡、白石様堀などが大切に受け継がれています。後年村人は、白石公の業績を讃え報恩会を組織し、毎年命日の5月19日に、白石公の肖像画を掲げて供養を行いました。野牛では、親しみを込めて「筑後様まつり」と呼びます。



新井白石の肖像
（紙本着色新井白石画像・市指定・部分）

② 見沼代用水と柴山伏越

江戸時代中期、逼迫^{ひっぱく}する幕府財政の建て直しのため、関東各地の後背湿地や湖沼で干拓事業が盛んに行われます。見沼代用水は、現在のさいたま市と川口市にまたがって存在した見沼溜井を干拓するに当たって代替の灌漑用水として作られたものです。徳川吉宗の命を受けた井澤弥惣兵衛^{やそうべゑ えためなが}が、利根川の水を下中条^{しもちゅうじょう}（現行田市）から取水し、総延長80kmに及ぶ水路をわずか半年で開削したといいます。

柴山伏越は、見沼代用水が元荒川と交差する地点に設けられた施設で、元荒川の川底を見沼代用水が木製の樋管を用いたサイフォン方式で越すものです。長さは、26間（約47m）、内幅1丈4尺（約4.2m）、高さ4尺（約1.2m）を測り、地表から3間（約5.4m）下に埋設されていました。

樋管の伏替は、10年から20年おきに行われ、江戸時代だけで7回の記録が残されています。元荒川を迂回させ川底を掘削する大工事でした。現在のものはコンクリート製で、昭和56年に造られたものです。

享保13年（1728）に見沼代用水路が開削され、同15年に通船堀ができると、江戸府内との舟運が可能になり、翌年から見沼通船が始まりました。

これにより、年貢米を幕府蔵がある浅草蔵前へ



柴山伏越（昭和の改修後）

運ぶとともに、江戸からの物資を用水路沿岸地域に運び、江戸との経済交流が可能となりました。

運行区間は、当初は江戸から元荒川を掛樋^{かけどい}で渡り、忍城下の須戸橋^{すど}（現行田市）まで遡っていました。しかし、宝暦10年（1760）に掛樋が廃止され、伏越だけに改造されたため、以後は柴山伏越までの区間での運行となり、柴山の橋戸^{はしど}地区は、舟から荷車への積み換え拠点として栄えました。

③ 近世期の新田開発と水争い

近世前期には利根川の東遷、荒川の西遷に代表されるいくつかの河川改修事業が行われています。一連の事業は、新田開発と同時に湛水^{たんすい}処理の問題を引き起こしており、村々の間で様々な形の争いが起こっています。

例えば、柴山の田口家文書（市指定文化財）の中に「堤土置争論裁許状」があります。

備前堤の築堤により荒川が現在の元荒川筋を流



堤土置争論裁許状（田口家文書・市指定）

れるようになると、星川と元荒川に挟まれた小林村、栢間村、新堀村（現久喜市）、柴山村、丸谷村（現久喜市）などは湛水が激しくなり、しばしば洪水に見舞われる地域となってしまいます。この裁許状は、下郷の柴山村、丸谷村が、これまでの堤の上に盛り土を行ったり、新たな堤を築いたりしたため、上郷の小林村、栢間村、新堀村の田が満水時に水浸しになってしまうとして3村が訴え、その裁定が下されたものです。

同様の水争いの裁許状は、白岡村と小久喜村・千駄野村との間、白岡村と新宿村（現蓮田市）との間の争論に関しても残されています。当地域の水争いの特徴として、少ない水の分配で争うのではなく、湛水してしまう水をどのように落とすかで争われていることが挙げられます。

また、少し違った内容の裁許絵図が残されています。

入会沼争論絵図は、正徳元年（1711）に、柴山沼の利用をめぐる柴山村・荒井新田村・丸谷村（柴山枝郷）の間で起こった争論に関する絵図です。

柴山沼は、柴山村と荒井新田村の間に位置し、江戸時代、周辺の村々が「藻草銭^{もぐさせん}」という税金を払って、沼で漁撈^{ぎょうろう}を行っていました。沼からとれる藻草や海老・雑魚は、田畑の肥やしとして利用されていました。「生類憐れみの令」により貞享4年（1687）に漁撈は中断しましたが、宝永6年（1709）に再開しています。

争論はこの中断後の入会権を巡るものと思われ、2年の歳月をかけて決着し、柴山沼は三村の入会地として村ごとに「沼藻草銭」を納めることとなりました。沼の恵みの分配を巡る争論といえましょう。

一近・現代概観—

江戸時代の末、市域には、17 の村々が存在していました。明治 22 年（1889）の「市制・町村制」の公布により、明治の大合併が実施されると、市域では、篠津、野牛、高岩、寺塚、白岡の 5 村が合併して篠津村が、また、柴山、荒井新田、下大崎、上大崎の 4 村が合併して大山村が誕生しました。

さらに、明治 28 年には、岡泉、実ケ谷、千駄野、小久喜、上野田、下野田、爪田ケ谷、太田新井、彦兵衛の 9 村が合併して日勝村が誕生しました。

明治時代後期から昭和前期にかけて、世界恐慌や度重なる戦争の影響から、取り立てて産業のない村々は、徐々に疲弊していきます。

戦後、全国の自治体は合併によって効率化と合理化を図ります。白岡市域でも、日勝・篠津・大山（上大崎は菖蒲町に合併）の 3 村が合併し、白岡町が誕生しました。社会的にも好景気に支えられて、いわゆる高度経済成長期に入り社会資本の整備や文化的向上が図られます。

西地区の区画整理に続き、昭和 62 年には、白岡ニュータウンの入居が始まり、町の人口は、急速に増加していきます。

平成 24 年（2012）10 月には、埼玉県で 40 番目の市として単独で市制を施行しました。



白岡町新庁舎落記念式典の様子（昭和 31 年）

明治時代

- 1871 廃藩置県、埼玉県誕生
- 1874 見沼通船会社設立
- 1885 東北線大宮―宇都宮間が開通
- 1887 柴山伏越、煉瓦造に改築
- 1889 篠津村、大山村、岡泉村外八か村組合が設置
- 1894 日清戦争が始まる
- 1902 加藤喜助家に梨栽培技術伝えられる
- 1904 日露戦争が始まる
- 1910 東北線に白岡駅が開業する

大正時代

- 1918 13 河川改修工事により、隼人堀・元荒川などの改修始まる
- 1922 関東大震災

昭和時代

- 1929 白岡乾繭所が竣工
- 1932 日勝村・大山村「経済更生運動推進」の県指定を受ける
- 1936 日勝村「愛育村」に指定される
- 1937 日中戦争が始まる
- 1941 太平洋戦争が始まる
- 1945 太平洋戦争が終わる
- 1954 白岡町誕生
- 1967 県道大宮・栗橋線開通
- 1972 東北縦貫自動車道（岩槻―宇都宮間）開通
- 1979 中央公民館・勤労青少年ホーム開設
白岡駅東口開設
- 1981 柴山伏越現在の形に改修

平成時代

- 1984 白岡町コミセン・児童館開設
- 1987 新白岡駅開業
- 1992 白岡町役場新庁舎で業務開始
- 1999 B&G 財団白岡海洋センター開設
- 2004 白岡町保健福祉総合センター開設
- 2011 臈央道白岡菖蒲 IC～久喜白岡 JCT 間開通
- 2012 白岡市誕生
- 2017 市制施行 5 周年記念式典開催

(1) 近代

① 渋谷堯一の農村経済更生運動と愛育村

渋谷堯一^{かいいち}は明治26年(1893)2月に市内岡泉で生まれました。大正3年(1914)に明治大学法科を卒業し、同年5月には日勝村名誉助役、昭和2年(1927)35歳の若さで日勝村長に就任し、以来16年間にわたり村長として傑出した力量を発揮しました。

主な業績として、疲弊した農村を立て直す「農村経済更生計画樹立村」が挙げられ、昭和11年に第1次5か年計画を終え、続いて第2次5か年計画を樹立し大きな成果をあげました。これらの成果により昭和13年に全国の模範村として表彰されました。

また、昭和9年に設立された「恩賜財団愛育会」から、昭和13年には第1回「愛育村」の指定を受け、全国の愛育事業の先鞭をつけたことも大きな業績です。

指定愛育村とは、当時著しく高かった農山漁村の乳児死亡率の低下を図るために、新しい保健知識を身につけていく活動として、昭和11年から愛育会本部が開始した事業です。

昭和12年に日勝村は、農村における保健事業の実行にあたり、現在の^{せいぎ}青我小学校付近に事務所として「愛育隣保館」を建設しました。建物は洋風2階建て、総坪数は約86坪(283.8㎡)、総工費5,000円でした。職員には、愛育班指導員、嘱託医、産婆、巡回看護婦などが置かれました。事業は、健康相談、生活改善指導、栄養改善指導などを実施し、体力の向上を図り社会の安定と発展を目的としていました。

② 農村経済更生計画と幻のスイカ「埼宝」

昭和7年(1932)の日勝村勢要覧の中にある「西瓜^{すいか}乃^の葉^{のしおり}」によれば、昭和5年(1930)8月8日、日勝村長兼農会長の渋谷堯一が那須御用邸に伺い天皇皇后両陛下に西瓜を献上したことが記されています。

この西瓜は、「埼宝^{さいほう}」という品種で「形状ハ小サキ長円形ヲナシ、果皮ハ線状網文ニシテ果肉ハ橙黄色ヲ呈し、風味極メテ淡白上品ナリ」とあります。

残念ながらこの西瓜は伝えられていませんが、早熟品種で跡地の活用が可能であったため作付けを伸ばし、昭和初期では、梨を上回る収穫量と売上高があったようです。



献上スイカ「埼宝」

③ 白岡駅の開設と新設白岡車站^{しやたん}*之記

東北線の大宮～宇都宮間は、明治18年(1885)7月に開通しました。開通当初、市域の最寄り駅は蓮田駅か久喜駅でした。東北線の複線化情報を受け明治37年12月、日勝村有志が駅開設の請願書を出しましたが、日露戦争により複線化事業は中断してしまいます。その後の再三の請願の結果、明治43年2月11日、ついに東北線白岡駅が開業しました。新駅の所在地は小久喜地内でしたが、「小久喜駅」では隣りの駅の「久喜駅」と紛らわしく、別の名称を考えるようにという南埼玉郡役所からの指導もあって、現在の「白岡駅」になりました。駅の近くにある、古社白岡八幡宮にちなんだものといわれています。

白岡駅の開設は、当時の日勝村・篠津村両村長をはじめ近隣各村も賛同し、数多くの有志か

* 車站：現代の中国語の chezhan、英語の「station」の訳語で、「駅」「停車場」を意味する。

らの請願や、6,000 坪に及ぶ土地の提供などに支えられて実現しました。新設白岡車站之記の銘文には、このようないきさつが詳細に記されています。また、「この地の民は純朴で農産物が豊富であり、それらの売買・周辺地域の物流のためにも駐車場の設置を願っていた」こと、「駅が出来れば白岡八幡宮に参拝に訪れる人々にも便利である」ことを記し、駅開業により利益を求めて入ってくる狡猾や奢りの悪風に、土地の純朴さが失われることを心配しています。

(2) 現代

① 白岡町の誕生

昭和 28 年（1953）9 月には、地方自治体の財政基盤の強化と地方行政の簡素化を目的に「町村合併促進法」が制定されました。

町域でも、日勝村・篠津村・大山村の各村がそれぞれに合併促進審議会を設け、慎重な検討が進められたほか、住民に対する合併趣旨の普及が図られ、紆余曲折の末、昭和 29 年 9 月 1 日に白岡町が誕生したのです。

白岡町の誕生は、県内の町村合併において 2 つの特色がありました。1 つは、大山村の一部が菖蒲町に合併するという「県内初の分離合併」です。もう 1 つは、村同士の合併で初の町制施行でした。

白岡町が誕生した 2 年後の昭和 31 年（1956）、新しい白岡町の方角性を示すために作成された『新町建設計画書』では、「白岡町百年の大計を期して相応しいもの」として、白岡町の地理的・経済的な環境を踏まえながら、農業経営の改善、土地改良事業、教育施設、学区問題の解決などを柱とする内容がまとめられています。

② 発展する白岡

高度経済成長期、昭和 38 年（1963）には、サッポロ農産加工が営業を開始、昭和 42 年には、現在の県道さいたま栗橋線が開通します。昭和 44 年には、西地区区画整理事業開始、昭和 47 年には、東北縦貫自動車道が開通します。

住環境の整備に伴う人口増加により、昭和 50 年（1975）の南小学校、昭和 53 年の西小学校に続いて、昭和 57 年には南中学校が開校します。

また、昭和 52 年には県立白岡高等学校も開校しました。

昭和 62 年（1987）には、宇都宮線新白岡駅開業とともに白岡ニュータウンの入居が始まり、新たなまちづくりが始まりました。

平成 4 年（1992）新市庁舎が完成、平成 24 年には市制を施行しました。



東北縦貫自動車道開通



新白岡駅開業

第2章 白岡市の文化財の概要

1 文化財の把握調査

(1) 指定文化財の概要

白岡市には、令和2年4月現在57件の指定文化財があります。内訳は、国指定天然記念物1件、埼玉県指定有形文化財（彫刻）1件、埼玉県指定史跡1件、白岡市指定有形文化財28件、白岡市指定民俗文化財21件、白岡市指定記念物5件です。

国指定天然記念物はシラコバトです。種の指定であるため、生息範囲として含まれています。

埼玉県指定有形文化財は、興善寺の木造阿弥陀如来立像です。鎌倉時代の作で、元来関西地方で製作されたものが入間市豊岡に伝わり、縁あって興善寺に安置されました。埼玉県指定史跡は下野田の一里塚です。日光御成道沿いに設けられたもので、江戸から11番目の一里塚に当たります。東西両塚が現存する県内唯一のものです。

市指定文化財の内訳を種別に着目して概観すると、有形民俗文化財が18件と多く、一つの特徴であるといえます。比較的調査の歴史の浅い考古資料の指定が少ないことや、絵画、書籍・典籍などの指定件数も少数にとどまっており、今後の指定が望まれます。

類型別に見た市内の指定文化財

種 別		国	県	市	合 計	
有形文化財	建造物			3	3	3
	美術 工 芸 品	絵 画		1	1	26
		彫 刻	1	6	7	
		書籍・典籍		1	1	
		古文書		6	6	
		考古資料		1	1	
		歴史資料		10	10	
		小 計		1	28	29
民俗文化財	有形民俗			18	18	21
	無形民俗			3	3	
	小 計			21	21	21
記念物	史 跡		1	1	2	7
	天然記念物	1		4	5	
	小 計	1	1	5	7	7
合 計		1	2	54	57	57

白岡市指定文化財一覧表

指定番号	種類	名称	所在地	特徴
①	県記念物(史)	一里塚	下野田	日光御成道に沿って設けられたもの。東西両塚が残る貴重なものである。
②	県有形(彫)	木造阿弥陀如来立像	白岡	興善寺に安置されている裸形像で、関東に残る裸形像の代表的な佳品と位置付けられる。
1	市無形民俗	小久喜の獅子舞	小久喜	「龍獅子」「泣きザサラ」の異名の通り舞を奉納すると必ず雨が降るといわれている。現在は隔年の4月第2日曜日に奉納されている。
2	市有形民俗	篠津天王様の山車・上宿耕地	篠津	安政年間に製作されたもので、山車彫刻は立川音芳等によるもの、色彩は田崎早雲兄弟等の手によるものと伝えられている山車である。
3	市有形民俗	篠津天王様の山車・横宿耕地	篠津	安政年間の作で、銀杏材を用いた山車彫刻には極彩色が施される。
4	市有形民俗	篠津天王様の山車・宿耕地	篠津	極彩色の鬼板と懸魚は、大きさ、出来栄とも秀逸である。
5	市有形民俗	篠津天王様の山車・下宿耕地	篠津	ケヤキ材を用いた重厚なつくりの鬼板と懸魚が見事な山車で上部が回転することで方向転換を容易にする構造を持つ。
6	市有形民俗	篠津天王様の山車・神山耕地	篠津	鬼板は、唐破風屋根に添う大きなもので、木目の浮き立つ白木の肌が美しい山車である。
7	市有形(建)	篠津久伊豆神社本社殿	篠津	総ケヤキ権現造で、立川音芳等の手による彫刻が施されている。
8	市記念物(天)	白岡八幡宮のカヤ	白岡	白岡八幡宮にある樹齢500年と推定される。
11	市記念物(天)	白岡八幡宮のイヌザクラ	白岡	白岡八幡宮の参道脇にあり、樹齢300年余りと推定される。
12	市有形(書)	山岡鉄太郎墨跡(高岩天満神社)	高岩	高岩天満神社ののぼりの下書きで、山岡鉄太郎謹書の署名あり。
13	市有形(歴)	正福院の宝篋印塔	白岡	江戸時代中期の宝篋印塔として、規模、保存状態とも優れ、入定仏の伝説を持つ。
14	市有形(歴)	鬼窪八幡宮鰐口(白岡八幡宮)	白岡	「享徳五年丙子八月十五日聖秀尊」「武州寄西郡鬼窪八幡宮鰐口」の銘をもつ。
15	市記念物(史)	正福院貝塚	白岡	正福院の墓地周辺に展開する地点貝塚群でヤマトシジミ、ハイガイ等を中心とする。
16	市有形(絵)	紙本着色新井白石画像(観福寺)	野牛	観福寺に伝わり、白石5世の孫新井成美が作成した3幅の内の1幅が納められたものであろうといわれている。
17	市有形(彫)	木造薬師如来坐像(安楽寺)	太田新井	安楽寺の薬師堂に安置されている。
18	市有形(歴)	阿弥陀三尊種子板石塔婆	実ヶ谷	実ヶ谷にある中世の供養塔である。
21	市有形(書)	大久保家文書	野牛	大久保家は野牛村の草分けで、「元名主」の屋号を持つ。北条氏繁判物は市内では数少ない中世文書として貴重である。
22	市有形(彫)	円空作薬師如来坐像(薬師堂)	実ヶ谷	実ヶ谷の薬師堂に伝わる円空作薬師如来坐像である。
23	市有形(彫)	円空作菩薩形坐像(安楽寺)	太田新井	安楽寺に伝わる円空作菩薩形坐像である。
24	市有形(彫)	円空作観音菩薩坐像	西	杉崎家に伝わる円空作観音菩薩坐像である。
25	市有形(書)	田口家文書	柴山	近世文書5点、近代文書128点からなる古文書群である。
26	市有形(書)	興善寺朱印状	白岡	初見は天正19年徳川家康が当寺に白岡郷の15石を寄進したものである。
27	市有形(建)	忠恩寺山門	高岩	忠恩寺の仁王門にあたるものと思われる。かつては茅葺であったが、現在は入母屋造、瓦葺きとなっている。
28	市有形民俗	忠恩寺十三仏	高岩	安永8年の銘を持つ舟形の石塔である。
29	市有形(書)	忠恩寺文書	高岩	初見は慶安2年徳川家光が当寺に30石を寄進したものである。
30	市有形(書)	渋谷家文書	岡泉	初見は寛文11年の「御免定ノ事」である。
31	市無形民俗	岡泉鷲神社の神楽	岡泉	毎年7月23日、岡泉鷲神社の祭礼に奉納される。

32	市無形民俗	岡泉大尽囃子	岡泉	毎年7月14日、岡泉鷲神社の境内社である八雲神社の祭礼と、7月23日の岡泉鷲神社の祭礼で奉納される。
33	市有形民俗	岡泉の百庚申(岡泉観音堂)	岡泉	岡泉観音堂の周囲を取り囲むように「庚申」と刻まれた駒形角柱が奉納されている。
34	市有形民俗	柴山諏訪八幡神社の奉納絵馬	柴山	柴山諏訪八幡神社の奉納絵馬で、初見は弘化元年の「酒呑童子」である。
35	市有形民俗	下大崎住吉神社の奉納絵馬	下大崎	下大崎住吉神社の奉納絵馬で、初見は元文4年の「釣舟」である。
36	市有形(書)	鬼久保家文書	小久喜	小久喜村の名主家文書で、寛永5年の検地帳を初見とし、近世文書2480点、近代文書1029点、典籍139点からなる。
37	市有形(彫)	木造大日如来坐像(大徳寺)	上野田	大徳寺大日堂に安置されている木造大日如来坐像である。
38	市有形民俗	篠津観音堂の笠付地蔵	篠津	篠津観音堂の入口にあり、笠まで彫り出している珍しいものである。
39	市有形(彫)	木造達磨大師像(興善寺)	白岡	興善寺に伝わる寄木造りで、玉眼を嵌入している。
40	市有形(歴)	白岡八幡宮棟札	白岡	白岡八幡宮に伝わり、初見は元禄7年のものである。
42	市有形(歴)	荒井新田の高札	荒井新田	荒井新田村の名主家に伝えられたもので、初見は天和2年「切支丹宗門禁制の定」である。
44	市記念物(天)	岡泉鷲神社の大ケヤキ	岡泉	岡泉鷲神社境内にある2本のケヤキの木である。
45	市有形民俗	庚申待供養塔(岡泉観音堂)	岡泉	岡泉観音堂にある唐破風付角柱の庚申待供養塔である。
46	市記念物(天)	爪田ヶ谷諏訪神社の大スギ	爪田ヶ谷	爪田ヶ谷諏訪神社境内にあるスギの木である。
47	市有形民俗	岡泉天王様の山車	岡泉	明治時代初期に原市の向山(現上尾市)で造られたと伝えられる。
48	市有形民俗	牛頭天王祭礼用具一式付 収納箱	白岡	毎年7月14日に、新田の天王様の祭礼で村廻りに使われる祭礼用具である。
49	市有形民俗	篠津天王様の神輿	篠津	神輿は毎年7月15日前後の日曜日に、篠津須賀神社の祭礼で境内に出されている。
50	市有形民俗	忠恩寺九品仏	高岩	9体の阿弥陀如来坐像と九品仏供養塔で構成される。供養塔によれば、延宝6年に高岩村など48か村の寄進によって建立されたことが分かる。
51	市有形(歴)	朝鮮通信使奉納扁額及び下書き	野牛	野牛久伊豆神社に掲げられている扁額とその下書きである。
52	市有形(考)	タタラ山遺跡出土遺物	小久喜	縄文前期集落から出土した縄文土器及びペンダント・耳飾り等の石製装飾品である。ペンダントには鳥などの動物を表現したものがあ大変貴重である。
53	市有形民俗	白岡八幡宮奉納絵馬群	白岡	近世後期から昭和時代を中心とした資料群で、祭神への信仰の篤さや地域性を象徴している。
54	市有形民俗	高岩天満神社奉納絵馬群	高岩	代参講や伊勢講などの民間信仰、祭神に因む学問上達を祈願したものなど地域性を現す大変貴重な資料群である。
55	市有形(歴)	興善寺中世石造物群	白岡	興善寺周辺に所在した中世遺物で、建武年間から天文年間(1334-1533)までの銘文が認められる。
56	市有形(歴)	新井白石自筆漢詩	野牛	正徳元年(1711)から白岡町が、新井白石の所領となって以降、当時の名主家など野牛村の人々と新井白石との接触・交流を示唆する貴重な資料である。
57	市有形民俗	小久喜の獅子舞 隠居獅子頭及び天狗面	小久喜	江戸後期の作と思われるもので、小久喜の獅子舞の伝来伝承を補完する資料としてきわめて貴重である。
58	市有形(歴)	鷹場関係資料群	上野田	市内に存在した鷹場の管理を行う村方の状況を読み取ることができる一連の資料群として大変貴重である。
59	市有形(歴)	白岡八幡宮梵鐘	白岡	近世前期の銅製の梵鐘で、鑄造年代、奉納者、工人名などの銘文を刻む好資料である。神仏習合の風習も示す貴重なものである。
60	市有形(建)	庄兵衛堰柵	篠津	明治時代後期に造られた煉瓦製河川構造物であり、近代化遺産や土木遺産として大変貴重なものである。

(史) … 史跡、(建) … 建造物、(絵) … 絵画、(彫) … 彫刻、(書) … 書跡・典籍・古文書、(歴) … 歴史資料、(天) … 天然記念物、(考) … 考古資料 9、10、41、43 は指定解除 19、20 は 21 に編入

指定文化財候補*一覧表

有形文化財(13件)

名 称	種 別	所在地	内 容	ランク
神山遺跡出土金銅仏	考古資料 工芸品	歴史資料 展示室	神山遺跡第2地点出土。総高4.5cm、重さ25.4gを測る菩薩形金銅仏である。火災による残材を集中廃棄した大型の土坑からの出土。平安時代末に遡る可能性が高いとの評価を得ている。	B
岡安家所蔵金銅仏	工芸品	下大崎	下大崎の岡安家に伝世する資料で厨子とともに伝えられている。室町期の作ではないかとの評価を得ている。	B
折原家所蔵金銅仏	工芸品	上野田	上野田の折原家に伝世する資料で祖先が南朝の落武者として関西方面から来たときに蟹の中に入れていたとの伝承を持つ。	B
楠田家宝剣	工芸品	実ヶ谷	実ヶ谷の楠田家に伝世する資料。『新編武蔵風土記稿』によれば、楠田家は「勢州、世義寺の末、葛飾郡上高野村、菩薩院配下、開祖法印葉王は慶長14年2月28日寂す」とあり、修験の系譜と思われる。	B
折たく柴	典籍	野牛	旧野牛村領主新井白石公の代表的著作の一つ『折たく柴(の記)』の写本(3巻)。旧領地に伝えられる新井白石関連遺産として重要。	B
安楽寺筆子塔群	歴史資料	太田新井	安楽寺の南西の一角に8基並ぶ唐破風付角柱。初見は延宝9年(1681)、最新は享和元年(1801)である。	C
新井白石公所領蔵屋敷跡記念碑	歴史資料	野牛	昭和3年(1928)、白石公報恩会によって建立された。旧野牛村領主の新井白石公の遺徳を偲ぶ地域の意図が示されたものとして貴重である。	C
南埼玉藩組合記念碑	歴史資料	白岡	同組合の設立から解散までの経緯を記したもので、昭和18年(1943)に建立。旧乾藩所関連文書群等を含め、当時の産業史の側面から南埼玉郡域を概観する資料として貴重。	C
入耕地遺跡第1号住居跡出土遺物	考古資料	歴史資料 展示室	古墳時代前期(五領式期)の住居跡から出土したもので台付甕3、小型壺6、器台5、碗2、土玉4、砥石1、敲石1、刀子1で構成される。遺存度も高く、当地域の該期の器種組成を表す事例として価値が高い。	C
入耕地遺跡第2号住居跡出土イノシシ形土製品	考古資料	"	縄文時代後期(加曾利B式期)の住居跡から出土したもので、全長7.0cm、高さ3.6cmを測る。左前足を欠損するが、遺存状態は良好。体側に幼獣を象徴する縞模様を持つと同時に腹部に雌成獣を象徴する乳房の表現を併せ持つもので縄文人の精神文化の一端を表す好資料。	C
清左衛門遺跡出土石冠	考古資料	"	第3地点第2号住居跡から出土した3点の石冠及び共伴する土器群。石冠は、県内では発掘調査による出土は2~3例が知られているが、3点一括の住居跡出土は全国的にも稀有な資料。	C
清左衛門遺跡墓坑群出土遺物	考古資料	"	縄文晩期に形成された窪地を囲む墓坑群から出土した資料群。大洞式系譜の土器群を含む遺存度の高い一括資料群である。時間幅は、ほぼ安行3a~3b式期に限定される。	C
タタラ山遺跡出土遺物(石製装飾品追加指定)	考古資料	"	第8地点発掘調査で出土した10点の石製装飾品(球状耳飾5点、垂飾5点)である。指定52号タタラ山遺跡出土遺物と併せて、当時の石製装飾品加工技術やタタラ山遺跡の性格を考える上で貴重である。	C

有形民俗文化財(4件)

名 称	種 別	所 在 地	内 容	ランク
大宮台地北部の農耕具	有形民俗	歴史資料 展示室他	市内で使用されていた畑作、水田耕作、梨栽培、養蚕、農間余業等に関する生産用具と関連資料群、約1,000点。	A
篠津久伊豆神社の奉納絵馬群	有形民俗	篠津	篠津久伊豆神社の拝殿内及び外周に掲示してある大絵馬、掲額類が20~30面ある。立川金禄氏の手によるものも確認されており、正確な調査とともに保存が必要である。	A
石神社の奉納しゃもじ群	有形民俗	白岡	通称おしゃもじ様と呼ばれる白岡の石神社に奉納されたもの。子どもの風邪や咳、特に百日咳にご利益があるとの信仰を集め、木製のしゃもじに口の字を100(沢山)書いて奉納した。民間知識や風俗習慣を示す資料として貴重。	C
正伝寺開山堂の奉納小絵馬群	有形民俗	上野田	正伝寺の四世住職の大長益善和尚が入滅に際し「婦人病は私を信仰すれば必ず直る」と言ったことから信仰を集め、祈願の小絵馬や腰に巻く麻紐などが奉納された。絵馬に書かれた信者の住所などから広範囲の信仰圏が明らかとなるなど、風俗習慣を示す資料として貴重である。	C

その他(2件)

名 称	種 別	所 在 地	内 容	ランク
岡泉洪谷家旧製茶工場	建造物	岡泉	洪谷家の母屋の東側に残る明治期に建築された旧製茶工場。手入れはされていないが、あまり大きな改変工事等は受けていないものと思われる。旧日勝村の産業史等を考える上で極めて貴重である。	B
大山区水塚群	文化的景観	柴山 荒井新田	柴山沼を囲む柴山地区、荒井新田地区に残る20基を超える水塚群。規模や遺存状況は異なるが、利根川や江戸川などの大河川流域から離れた内陸湖沼沿岸に形成された水塚群として地域の特徴が強い。	C

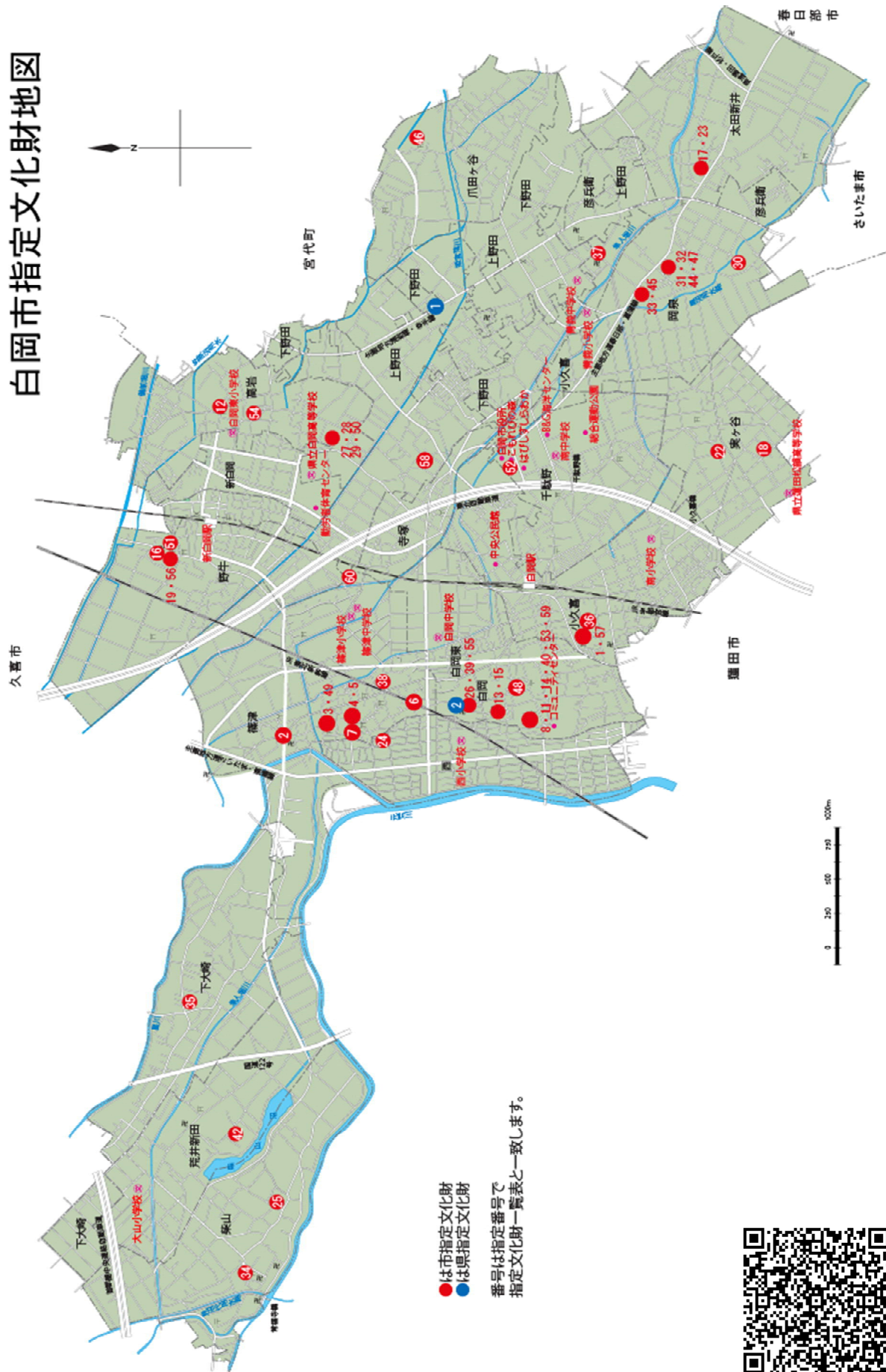
A ランク 資料保存の緊急性が高い、または活用の見込みがあり、優先的に調査の狙上に載せるべきもの

B ランク 資料保存の緊急性は高くないものの、十分に調査対象としての価値を有し、早期の調査着手が望まれるもの

C ランク 将来にわたって文化財として保存していくことを前提に、時間をかけて十分な調査が望まれるもの

* 指定文化財候補：既往の調査を総合して市文化財保護審議会の審議を進める一助として市教育委員が選定し、文化財保護審議会での審議のうえ優先順位を定めたもの。

白岡市指定文化財地図



(2) 埋蔵文化財の概要

市内には、令和2年4月現在、86か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が確認されています。市域に人々の暮らしの痕跡が残されるようになるのは、今から25,000年ほど前の旧石器時代後期のことです。縄文時代以降、多くの集落が作られその痕跡が遺跡として残されています。

時期別に見ると、旧石器時代の遺跡が5遺跡であるのに対し縄文時代を含む遺跡は、76遺跡あり、多くの遺跡で縄文時代の人々の暮らしの痕跡が見つかります。一方、弥生時代の遺跡は現在のところ一つも見つかっていませんし、古墳時代の遺跡も延べ19遺跡にとどまり、この時期、白岡の歴史の糸が細くなる時期だといえるかもしれません。しかし、奈良時代の遺跡は13、平安時代の遺跡は19と盛り返し、中世の遺跡は27を数えます。中世の遺跡が多いことも白岡の特徴の一つといえます。

市内の時期別遺跡数一覧表

旧石器時代	縄文時代						弥生時代	古墳時代			奈良時代	平安時代	中世
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期		前期	中期	後期			
5	3	19	22	56	43	11	0	16	1	2	13	19	27

*多くの遺跡で複数の時期の生活の痕跡が残されています。このような遺跡を複合遺跡といいます。このため、遺跡数の合計は、86を大きく上回ることになります。

市域で最も多くの遺跡が形成される縄文時代の代表的な遺跡をいくつか概観しましょう。

まず、縄文時代前期初頭のタタラ山遺跡の様子を紹介します。約6,000年前の拠点となる集落遺跡で、現在の元荒川の形成した谷を足下に臨む台地上に展開しています。これまでの発掘調査で、70軒にのぼる住居跡が見つかっています。東海地方や東北地方からもたらされた土器や石器も出土しており、川筋を使った盛んな交通交易の様子をうかがうことができます。豊富な出土品の中には、石で作った耳飾りやペンダントが60点近くあり注目されます。特に、鳥や動物をかたどったと思われるペンダントは秀逸です。出土品の一部は市指定文化財にも指定されています。

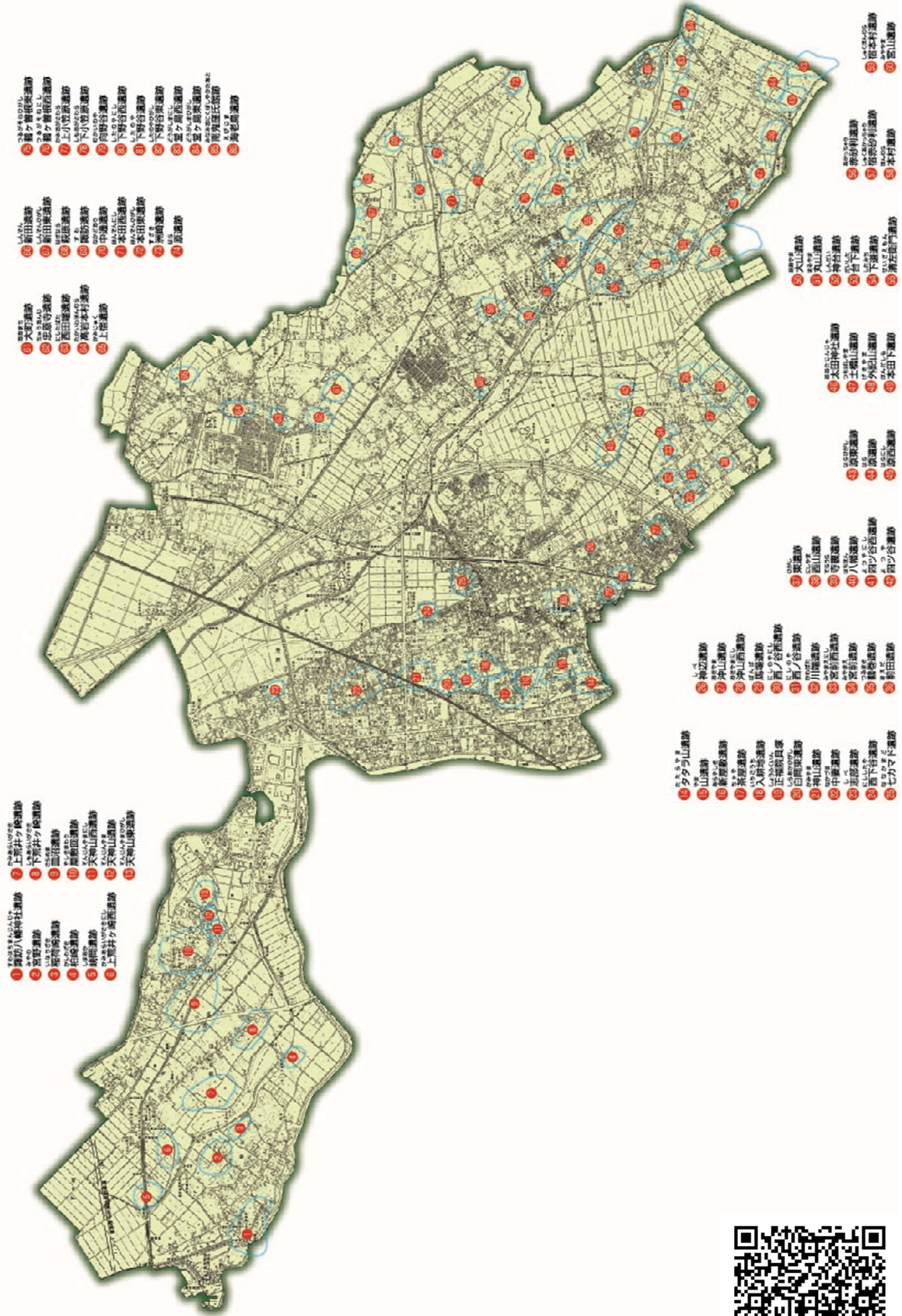
縄文中期から晩期にかけての大集落に清左衛門遺跡があります。これまでに100軒を超える住居跡が見つかっており、縄文時代中期から晩期にかけて少しずつ場所を変えながら長期間にわたって集落が営まれ続けた、市内を代表する縄文時代の遺跡の一つといえます。特に後期の後半から晩期の前半にかけての時期は、「大日沼の谷」に面して木組みの水場遺構を作り、トチやクルミ、クリなどを加工したと思われる痕跡が残されています。

また、台地上に残された土坑内貝塚からは、ニホンジカやイノシシなどの獣骨やイヌの犬歯で作ったペンダントなどの装身具も出土しています。水場遺構周辺で採取した土壌や貝塚内の堆積物などを分析することで、周辺の当時の植生や魚介類の生息環境などを知ることができました。



清左衛門遺跡1号水場遺構

白岡市遺跡マップ



(3) 民俗文化財の概要

① 年中行事

人々のつながりが徐々に希薄になり、昔から行われてきた祭りや行事、特に地域でも比較的小さな集まりで営まれてきた行事は存続の危機にさらされています。

平成9年から11年までの3年間かけて埼玉葛地区文化財担当者会（昭和60年発足・現埼玉県東部地区文化財担当者会）が主体となって実施した「埼玉葛のまつり・行事」調査の結果、調査時点ですでに行われなくなっていた行事を含め、ある程度内容のわかる聞き取りができた行事は、市内で313例を数えました。

約20年が経過した現在、このうちの約100件の行事が途絶えたり簡略化されたりしていることがわかりました。神社の祭礼や夏祭り、秋祭りのように地域を挙げての祭りや外部からの来客があるような祭りは維持されていますが、子供たちが担ってきた「お籠り」などの行事、「講」や「ナイダー」「オヒマチ」「ベッカ」など隣近所で支えてきた行事ほど途絶えたり変容したりするスピードが速いようです。

ほぼ3割に当たる伝統行事が急速に失われつつあることは、きわめて憂慮すべき問題であると認識しています。



篠津天王様の様子

② 民具

昭和56年から平成29年まで、旧大山小学校の校舎の一部を改装した「大山民俗資料館」が設置されており、生産生業用具や生活用具の収集保管を行ってきました。現在その機能を引き継いだ生涯学習センター歴史資料展示室で整理作業を行っており、農耕具だけでも約1,500点、衣類、食器、職人道具その他約4,500点を収蔵しています。しかし、これらの資料も当時の状況を知る人々が減少するとともに、どのように使ったものなのかさえわからなくなってしまったものもあり、整理が急がれます。

③ 昔ばなしや言伝え

白岡町史編さん事業の一として、昭和50年代から60年代にかけて市域に伝わる昔ばなしや言伝えの聞き取り調査を実施しています。その結果、昔ばなしや世間話約60、伝説約20のほか、遊び唄30、民間知識・民間療法約150、俗信・禁忌約60などを採集しました。

この中には、すでに廃された寺社や人物にまつわるものや近隣市町との往来に関すること、天候や作付け時期、健康に関することなど様々な知恵と知識が詰め込まれていました。

近年、自然災害などに関する伝承や記録を発掘する動きがありますが、言伝えやいわゆる「民間知識」をただのお話ではなく現代に生かす工夫をしていくことが大切です。

④ 古写真の収集

個人が所有する写真の中にも、市にとって大切な出来事やすでに見ることのできない風景など様々な情報が残されています。白岡町史編さん事業では、こうした古写真の収集や古写真を題材にした聞き取り調査を実施しました。地域ごとに数人から10数人のお年寄りに集まっていただき、当時の「記憶」を話していただく調査です。一人では思い出さない話も数人で話して

いるうちによみがえってきて実に生き生きとした、かつ記録には残らない類の情報が得られました。こうした「余談」のようなものが記録を膨らませる要素として大変貴重なものだといえましょう。

（4）既往調査の整理

白岡市では、これまで文化財に関する様々な調査を行い、それぞれの文化財の現状を把握するとともに保存・活用に役立ててきました。

既往の調査とその概要については資料編（P117～）にまとめて掲載しました。

① 白岡町文化財資料調査

昭和 49 年の町文化財保護条例施行と同時に組織された、町文化財保護委員と文化財調査委員によって「白岡町文化財資料調査」が行われています（～昭和 57 年）。様々な文化財類型について調査を行い、8 冊の報告書を刊行しています。昭和 50 年 11 月、白岡町としてはじめての文化財指定を行っていますが、これは、この調査が基礎データとなったものです。

② 白岡町史編さん事業に係る調査

「白岡町文化財資料調査」の成果を受け、昭和 56 年、町史編さん室が置かれ「白岡町史編さん事業」が開始されます。文化財の専門職員が配置され、町が主体となって各分野の専門家に委嘱し、体系的な文化財調査がはじまったことは、当市における本格的な文化財保護行政の幕開けとなりました。

編さん事業は、平成 4 年度までの 12 年間実施され、この間に地区ごとの民俗調査、諸家文書調査、遺跡分布調査、石造物・金石文調査、古写真、新聞報道記録などのほか、様々な調査が行われるとともに、埼玉県や埼玉葛地区の文化財担当者会などが主体となった諸調査へのデータ供与なども行われました。

これらの成果を基に町史本編上下巻、民俗編及び普及版が刊行され、資料集、報告書等関連書籍 17 巻のほか、絵葉書 4 シリーズなどが発行され、現在の白岡市の文化財データの土台となっています。



町史編さん事業に伴う刊行物

③ 埋蔵文化財発掘調査

市内における発掘調査の幕開けは、昭和 29 年に遡ります。國學院大學の樋口清之・永峰光一両先生による入郷地（現入耕地）遺跡の発掘調査です。昭和初期にも大山史前学研究所による小規模な調査などが行われていたようですが、詳細はよくわかりません。

その後、大型公共事業や民間開発に伴って昭和 50 年代からいわゆる行政発掘が増加し始めます。市では、専門職員を採用し昭和 62 年度から国庫、県費の補助金を受けるなどして増加する開発に対応した発掘調査を開始しました。令和元年度までに、130 件に上る発掘調査を実施し、約 40 冊の発掘調査報告書を刊行しています。

④ 埼玉県の調査

白岡市が主体となって実施してきた文化財関係の諸調査とは別に、埼玉県や埼玉葛地区文化財担当者会（当時）が主体となった広域調査にも参加、協力しています。文化財は、自治体の範囲にとらわれずに存在するケースも多くあり、広域調査が有効な場合もあるためです。

⑤ 埼玉県東部地区文化財担当者会の調査

埼玉県の東部、主に南・北埼玉郡・北葛飾郡域の15市町で形成する文化財担当者会では、共通する地勢や風土に根ざした文化財の共同調査を実施してきました。埼玉県全体では広すぎる、自治体単独では特徴を見出しにくいといった調査対象を共同で調査し、成果を挙げてきました。

⑥ その他の調査

このほかにも、文化財関連の数多くの調査が行われてきました。

例えば、近年その足跡を再評価する動きのある中島撫山に関する調査があります。撫山は、作家中島敦の祖父にあたり、亀田鵬斎の流れをくむ江戸末から明治時代の漢学者であり書家です。現在の久喜市に「幸魂教舎」という私塾を開いており、門下には、近郷の素封家の子弟や志ある若者たちが集まり、ここで学んだ若者たちが地域社会のリーダーとして育って行きました。彼らは、撫山の書画を好んで求めたり、記念碑の撰文を依頼したりすることで、「幸魂教舎」を支えてもいたようです。学者としての撫山だけでなく、教育者としての中島撫山に注目することで明治時代の白岡周辺の地域指導者たちの様子が浮き彫りになりました。

また、市内のいくつかの神社に残る奉納絵馬群の調査は、文化財指定に結びつきました。柴山の諏訪八幡神社や白岡八幡宮には、状態の良い大絵馬が多数残されるほか、当時の習俗のわかる絵馬や、信仰の様子を髣髴する絵馬も数多く見られます。高岩天満神社には、学問の神様だけあって、俳句同人から奉納された俳額や裁縫の上達を祈った額など特徴あるものが見られます。下大崎住吉神社は、数は多くありませんが、絵馬師ではなく絵師の手になると思われる美しい絵馬も残されています。

こうした文化財の調査は、今後も継続的に実施してまいります。



中島撫山の書



「六歌仙」(下大崎住吉神社奉納絵馬・市指定)



「義経と静御前」(白岡八幡宮奉納絵馬・市指定)

第3章 白岡市の文化財の特徴

1 白岡市の文化財の特徴

前章で見てきた通り、これまでも個別の文化財について目的に応じた調査活動が行われてきました。その結果を総合して、当市の文化財の特徴をまとめてみたいと思います。

文化財の特徴は、文化財類型だけではなく時代的視点、地域的視点など、見方に応じて様々に変化します。総合的に考えるときには、これらの要素をそれぞれ経糸緯糸にとり、織り成されたものが当市の文化財の特徴といえましょう。

(1) 文化財類型別に見た文化財の特徴

① 有形文化財

市内に所在する指定文化財のうち、有形文化財に指定されている資料は、前述の通り県指定1件、市指定28件の合計29件があります。また、指定候補としてリストアップしているものが、13件あり、指定・未指定にかかわらず内訳を見ると、建造物3件、絵画1件、工芸品11件（内県指定1件）、書籍・典籍2件、古文書6件、考古資料6件、歴史資料13件となります。

建造物として指定している一つに篠津久伊豆神社の社殿があります。篠津久伊豆神社は、康治元年(1142)の創建と伝えられ、鬼窪氏とのつながりの深い神社です。指定となる社殿は、総檜権現造ですが築造は幕末であり年代的要素に重点の置かれたものではありません。木綿問屋として財を成した地元の商人「篠川」が私財を投じ、野州（現在の栃木県）から宮大工を招いて贅を凝らした社殿彫刻を施して建てたものであること、これを地域の人々が誇りとしていることが指定の大きな根拠として挙げられています。

庄兵衛堰枠は、庄兵衛堀川の旧流路に設置された煉瓦造の堰枠です。明治40年の竣工ですので、年代的な視点では古いものではありません。しかし、「上敷免製」の刻印のある日本煉瓦深谷工場製の煉瓦を用いていること、建設に当たる経緯や図面類が残っていることなどのほか、煉瓦造の河川構造物が埼玉県東部地域に特徴的に残るという、近代化遺産、土木遺産的価値観を重視した指定であることが大きな特徴といえます。



庄兵衛堰枠（市指定）

絵画としての指定は、野牛観福寺に伝わる新井白石の肖像画です。白石五世の孫新井成美が3幅作らせたもののうちの1幅です。戦前までは、毎年5月19日「筑後様まつり」のときには本堂に掛けて供養していたといわれています。資料的価値も高く、地域の誇りとしても重要な資料です。「正徳の治」と呼ばれる善政を敷いたことで有名な徳川家宣の政治ブレーンとしての白石のイメージや、野牛村の村政運営のイメージは非常に清廉なもので、当市を象徴する文化財の一つであります。

11点ある工芸品の多くは仏像です。中でも安楽寺の薬師如来坐像や大徳寺の大日如来坐像は、室町時代に遡るもので、鎌倉街道中道沿線の中世寺院に残された資料として地域の特徴の強いものであるといえます。特に、大徳寺の大日如来坐像は、現在の像以上に、胎内から発見された印を結ぶ両手先が、元弘の乱にまつわる伝承を裏付ける資料として大変重要です。日川流域の沼地「大日沼」のほとりに建つ伽藍や鎌倉街道中道を行き来する武蔵武士の姿を髣髴する資料といえます。

また、未指定ながら地域を超えて残された3軀の金銅仏のうち興善寺の火災残材廃棄坑出土の天部形立像^{てんぶぎょうりゅうざう}は、平安末に遡りうる資料であり興善寺の創建伝承とのかかわりのうかがわれる資料として、上野田の個人蔵の薬師如来立像は、家祖にまつわる伝承を持つものとしていずれも貴重な資料です。さらに3軀の円空仏も、年代や地域的にその特徴をよく残す資料群です。

2点の書籍・典籍のうち、未指定の1点は新井白石の著作『折たく柴（の記）』の写本です。野牛の村役人格の家に伝えられた資料で、伝来に関する記録は残されていないものの、領主の著作に関心を寄せて読んだであろうこと、また、非常に良好な保存状態であることはこれを大切に扱ってきたことを推測させます。地域に残るべくして残った文化財です。

6点の古文書のうち、最もまとまりのあるものは、小久喜村の名主家鬼久保家に伝えられた「鬼久保家文書」です。3,600点余を数え、近世から近代の村の歴史を裏付ける貴重な資料です。特に年貢割付状は正保4年(1647)以降天保期までほぼ完存します。

また、高岩忠恩寺に伝えられた「忠恩寺文書」は、点数は少ないものの、「太田資正棟別免許状」^{おおたすけまさむねべめんきょ}「高岩山由来（近世の写本）」など中世の状況を伝える資料が残されていることは非常に重要です。鎌倉街道沿いの古刹ならではの資料といえます。



清左衛門遺跡の墓坑群出土の土器群

次に、6件の考古資料ですが、既指定の1件は、白岡地区にあるタタラ山遺跡からの出土遺物群で、縄文時代前期初頭の花積下層式期の土器9点、石器25点、石製装飾品41点からなります。花積下層式期の大規模集落遺跡自体が稀で、文化内容を物語る資料が非常に少ない中で、全体像のわかる土器やバラエティに富んだ石器が得られたこと、何より豊富な石製装飾品群の出土は非常に貴重であるといえます。指定候補の5件についても、入耕地遺跡1号住居跡出土の五領式土器のセットや清左衛門遺跡の

縄文時代晩期の墓坑群から出土した一括資料群など、その当時の文化内容を物語る良好な出土資料です。

13件の歴史資料を見てみましょう。筆頭は、白岡八幡宮に伝えられる「鬼窪八幡宮鰐口」^{わにくち}でしょう。「武州寄西郡鬼窪八幡宮鰐口」という資料名に加え「享徳五年」という年号は非常に興味的です。享徳は3年で改元され康正に替わります。実際は康正2年のはずです。しかし改元を受け入れず享徳を使い続けた勢力がいました。鎌倉公方を支持する勢力です。享徳五年銘の鰐口は、このとき鬼窪氏が鎌倉公方に組していたことを暗示しているといえる資料です。

実ヶ谷の阿弥陀三尊種子板石塔婆と興善寺の中世石造物群は、ともに 13 世紀に遡る板石塔婆で、武蔵武士の足跡を示す重要な資料です。

また、上野田の名主家に残された鷹場関係資料群は、鷹場（御捉飼場^{おとらえかいば}）の管理に際して領主である一橋家から火縄銃（短筒）を借受ける背景や鑑札などがセットで鉄砲とともに残されています。幕末の村方の様子が垣間見える興味的な史料です。

② 民俗文化財

民俗文化財のうち、有形民俗文化財は市指定文化財 18 件、指定候補 4 件合計 22 件があります。また、無形民俗文化財は市指定文化財が 3 件あります。

有形民俗文化財のうち、篠津天王様の山車 5 台と篠津天王様の神輿はこの地域の夏祭りとして普遍的に行われる「天王様」行事に用いられるものです。山車を持っている地区は、篠津と岡泉の 2 地区です。特に篠津天王様の山車は、豪華な彫刻の施されたもので、篠津久伊豆神社の社殿彫刻とともに木綿問屋「篠川」が資金提供し、同じ宮大工集団を使って彫らせたものと伝えられています。篠津の各耕地に伝えられる 5 台の山車は、地域のシンボルとしてしっかりと根ざしています。

有形民俗文化財の一つとして神社に奉納された大絵馬群を挙げるができます。既指定の資料群としては、柴山諏訪八幡神社の奉納絵馬群、下大崎住吉神社の奉納絵馬群、高岩天満神社の奉納絵馬群が挙げられます。また、未指定のものとして篠津久伊豆神社の奉納絵馬群が挙げられます。人々の信仰という視点でみると白岡の石神社の奉納しゃもじ群、上野田の正伝寺開山様の奉納小絵馬群などがあります。



正伝寺開山様の奉納小絵馬群

人々の祈りの象徴として残された絵馬なども地域の伝統を受け継ぐ大切な文化財です。

無形の民俗文化財は 3 件の指定物件があります。一つは小久喜の獅子舞です。「小久喜のささら」として親しまれています。現在のさいたま市深作から江戸時代後期に伝えられた 3 頭立ちの獅子舞で、もともと旧暦 9 月に豊作御礼として舞われ、村廻りも行われていたようです。現在は 4 月に予祝行事として奉納されており、村廻りは行われていません。演目としては「初手庭」「中庭」「幣掛・鶴の巣籠もりの舞（女獅子隠し）」「注連古喜・鶴の巣籠もりの舞」などのバラエティがあるほか、神社拝殿前では祈禱獅子が奉納されます。また、この獅子舞は、奉納すると雨が降ると言われ「泣きざさら」と呼んで、雨乞いに使われた記録も残されています。市立南小学校では、郷土文化研究クラブの児童たちも保存会の方々の指導を受けています。毎年春になると「今年のささらはいつだ？」といった声が聞かれるほどです。

③ 記念物

史跡・名勝・天然記念物を総称して「記念物」といいます。市には、県指定史跡 1 件、市指定史跡 1 件、国指定天然記念物 1 件、市指定天然記念物 4 件があります。

県指定史跡は、日光御成道下野田一里塚です。東西両塚が残るもので、江戸から 11 番目の一里塚に当たります。西塚の塚上にはエノキの古木が聳えます。東塚の榎は枯死し、現在はム

クノキが植えられています。日光御成道は鎌倉街道中道を基に整備されたものといい、鎌倉街道に比定される道筋が西側を通っています。日光御成道は、現在は県道さいたま・幸手線に姿を変え杉並木も失われましたが、一里塚は昔のままの姿で残されています。

市指定史跡は、正福院貝塚です。正福院の墓地にあり、かつては破碎貝の分布が5～6か所確認できました。貝塚部分の発掘調査が行われていないため、明確な時期決定ができませんが、正福院本堂の建替えに伴う発掘調査の結果、縄文時代前期黒浜式期の住居跡2軒が確認されていますので、これに近い時期のものと思われます。周辺では、茶屋遺跡、白岡東遺跡、神山遺跡などでも貝が出たという話が聞かれ、蓮田市黒浜付近から続く地点貝塚群の北限を示す貴重な貝塚群であるといえます。現在の元荒川に沿って「海」が入り込んでいた頃から、人々は水の恩恵を享受していたことがうかがわれる遺跡です。

天然記念物は5件です。国指定の1件は種の指定を受けているシラコバトです。近年激減しており、平成28年の調査では残念ながら確認できませんでしたが、爪田ケ谷に隣接する民間動物公園で一定数の生息が確認されており、市域の東部への飛来は高いといえます。

市指定の4件はいずれも樹木です。白岡八幡宮のカヤ、白岡八幡宮のイヌザクラはいずれも八幡宮の社叢^{しゃそう}の一角を占めるものです。白岡八幡宮のカヤは樹齢500年と推定されるものですので、鬼窪氏の活躍を見ていたかもしれません。また、八幡宮の参道には、「八幡太郎義家駒つなぎの杉」といわれる巨木の根株が残っています。この根株は『新編武蔵風土記稿』の八幡宮の挿絵にも描かれています。

④ その他の文化財

いわゆる文化財6類型に含まれないものの中にも、地域に深く根ざした様々な「もの」「こと」「場所」などがあります。こうしたものも後世に残すべき文化財といえます。

例えば、市内には、大小併せると25を超える用排水路が掘られています。「備前堀川」「姫宮



隼人堀川（六兵衛橋から）

落川」「庄兵衛堀川」「隼人堀川」「野牛高岩落川」「新堀」「見沼代用水」「上田用水」「笠原沼用水」「黒沼用水」などです。これらの用排水路には、人名が付されたものや地名が付されたものなどがあります。「備前堀川」の備前は伊奈備前守から、「姫宮落川」は通称金兵衛堀川とも呼ばれ、大河内金兵衛の名をとったものといわれています。「笠原沼用水」「黒沼用水」は代替水路を残して干拓された沼地の名前が冠されています。

これらの水路にかけられた橋についてみてみましょう。「義理橋」・「往還橋」(岡泉)「六兵衛橋」(太田新井)「鷹匠橋」(白岡・野牛)「金剛寺橋」(白岡)など、伝承とともに名称が伝えられる橋があります。隼人堀川に架かる「義理橋」は、将軍の日光社参の折に、地元の村役人たちが、将軍の行列を鹿室村境で出迎え、裏道から先回りして「義理橋」を^{かなむろ}通って上野田村境まで見送って義理を果たしたという言い伝えからその名が付いたといえます。白岡の「鷹匠橋」は、磯川という橋に架かっていた橋で、殿様の鷹狩りに随行する鷹匠の便を図って架けられた橋だと言い伝えられたりしています。

道路では、「慈恩寺みち」「幸手みち」「原市みち」「菖蒲みち」「鴻巣みち」などの名称が、庚申塔などに併設されることの多い道しるべから読み取れるほか、「のよみち」「鎌倉街道」「御成みち」などの名称が語り継がれています。特に言い伝えの残る二筋の鎌倉街道は、いずれも中世の白岡の歴史を紐解くうえで大変重要な位置を占めますし、「のよみち」は、武蔵七党の野与党鬼窪氏と篠津との関係を今に伝えるものとして大切にしたい名称です。

このほかにも、四季折々の年中行事やそれに伴う行事食、屋敷神、講などの民間信仰、生活の中での様々な言い伝えなども後世に伝えたい大切な文化財として挙げられます。

一例を挙げますと、お天気にかかわる言い伝えに「富士南(南西)に入道雲が出ると三把稲(三把の稲を刈り終わらないうちに夕立になる)」とか「北鳴りは雨が少ない(北から来る雷は、音はするが雨は少ない)」、また「妙本寺(東隣の宮代町)の鐘が近くに聞こえると天気が悪く、東北線(JR宇都宮線)の汽車の音(西方)が近くに聞こえると天気がよくなる」なども面白い言い伝えです。

(2) 時期別に見た文化財の特徴

① 原始・古代

旧石器時代から奈良・平安時代頃までの様相を概観し、市内の遺跡から見える文化財の特徴をまとめてみましょう。

市内には、現在 86 か所の遺跡が確認されています。その多くが複数の時期が重複している「複合遺跡」です。これを時期別に見てみると、一番多くなるのが縄文時代中期の 56 遺跡、ついで後期の 43 遺跡、以下前期 22、早期 19 遺跡、平安時代 19 遺跡、古墳時代前期 16、奈良時代 13 遺跡などと続き、弥生時代は 0 となっています。縄文時代中期が多くなる傾向は、近隣でも似たような傾向を示します。遺跡の継続期間を考え合わせると、早期から前期、中期から後期、古墳時代後期から平安時代というグループが目立ちます。

次に特徴的な遺跡を見てみます。縄文時代早期から前期では、この時期の拠点となる集落遺跡としてタタラ山遺跡が挙げられます。これまでに 70 軒に上るこの時期の住居跡が確認されています。現在の元荒川の谷筋を通る道を使った人々の交流や物資の流通の中継基地のような集落と思われます。東海地方の^{きじましき}木島式土器や北東北の^{じょうもんせんていけい}縄文尖底系土器群、^{ゆうこう}有孔磨製石斧など、

左
(せうぶ道)

願主
新山白茶
岡組村屋
田講中



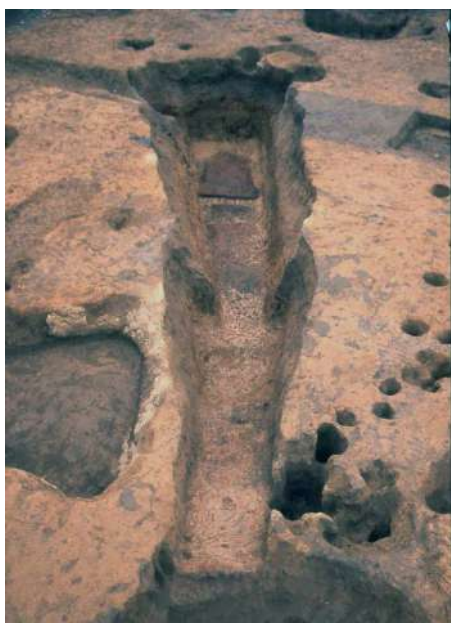
道しるべ(通称:塚の越の庚申様)

外来の遺物が多数見つかることもその証の一つでしょう。これまでに 60 点近く出土している石製装飾品の石材も外部から持ち込まれたものです。しかし、貝塚は形成されておらず、この時期には、元荒川筋の海進が進んでおらず貝塚が形成されるほど貝の採取が行われる環境ではなかったことがわかります。

続く縄文時代中期から後期にかけての特徴としては、市内の中期遺跡のほとんどが中期の終わりから形成され後期につながる傾向を持ちます。具体的には加曾利^{かそりいさん}EⅢ式期から後期堀之内^{ほりのうち}1式期にピークを迎えます。この傾向が強い遺跡は、大山地区の皿沼遺跡、白岡支台では山遺跡、慈恩寺支台では下小笠原遺跡や本田下遺跡などです。もう少し継続期間が長く晩期まで集落形成が認められるのが、白岡支台だと入耕地遺跡や前田遺跡、慈恩寺支台だと清左衛門遺跡などです。中でも、入耕地遺跡や前田遺跡、清左衛門遺跡などでは、「環状盛土^{かんじょうもりど}」といわれる盛土や盛土内側への人工的な窪地の造成などが見られます。また、これらの遺跡は、湧き水などを巧みに取り込んだ水場を持っていることが多く、水場を使った食料加工等が行われていたことがわかってきました。

さて、市内では、弥生時代の遺跡と、古墳時代の高塚墳墓であるいわゆる「古墳」は確認されていません。これも当市の原始・古代の特徴といえるかもしれません。

しかし、古墳時代前期の集落はいくつも確認されており、他の地域同様水田耕作が始まって



南鬼窪氏館跡の炭焼窯

いたものと推定されます。古墳時代の中期にはいったん集落形成が少なくなりますが、後期以降平安時代まで集落が継続する遺跡が現れます。篠津の中妻遺跡は好例です。6世紀代から集落形成が始まり、9世紀まで継続しています。おそらく10世紀以降も集落は営まれ続け、中世へ続きます。中妻遺跡では、鍛冶工房跡や排滓坑^{はいさいこう}*¹などが見つかっており、鉄生産に関わる集落であることがわかっています。市内でほかに鉄生産に関わる遺跡としては、白岡地区のタタラ山遺跡、山遺跡、南鬼窪氏館跡、沖山西遺跡、日川宮市遺跡などが挙げられます。タタラ山遺跡では、中妻遺跡と並んで大口徑の羽口が出土しており、付近に大鍛冶^{おおかじ}*²が存在することをうかがわせます。山遺跡、南鬼窪氏館跡、沖山西遺跡では、古代に遡る炭焼窯が確認されており燃料炭の供給地であったと推測されます。日川宮市遺跡は調査例がなく時期判断が難しいところです。

② 中世

考古学的に見ると、中世の遺構や遺物の見つかった遺跡は 27 遺跡あり、時期別の数値の比較では、縄文時代後期に次ぐ数となります。これに、中世館跡や中世寺院、石造物所在地などを加えると数字はさらに増加します。

*1：製鉄の工程で出る溶けた不純物の塊を「鉄滓」と呼び、これを廃棄した穴を排滓坑と言います。

*2：工房内に設けられ精錬や製品制作を行う鍛冶を「小鍛冶」と呼ぶのに対し、原料から鉄を精製する製錬を行う鍛冶炉を「大鍛冶」と呼びます。大規模な炉となることから屋外に設けられ、火力を上げるためのふいごも大きく、付けられた送風口である羽口の口径も大きくなります。

まず中世遺跡の状況ですが、白岡支台では、入耕地館跡を含む入耕地遺跡、地下式坑や掘建柱建物を検出した正福院貝塚、興善寺の所在する神山遺跡、篠津久伊豆神社のお膝下中妻遺跡など枚挙にいとまがありません。慈恩寺支台でも、中世墓壇群を検出した本田下遺跡、大徳寺を擁する赤砂利遺跡、清左衛門遺跡でも鎌倉街道の道路跡と思われる遺構が検出されています。

これに中世寺院 12 寺（中世遺跡での例示を含む）、中世神社 4 社、中世館跡 8（伝承地を含む）などを合わせると濃密な分布域が浮かび上がります。

古手の板石塔婆を確認しましょう。指定文化財の 2 件のほか、記念銘のある 13 世紀代の資料では、岡泉丸山共同墓地の資料（阿弥陀一尊と思われるが記念銘上部で欠損）が弘安 9 年(1286)、入耕地遺跡第 13 地点出土資料（阿弥陀三尊種子）が正応 2 年(1289)の銘を持ちます。また、記念銘は読み取れませんが、篠津弁財天の板石塔婆もその形状から初発期またはこれに近い時期のものと思われます。

中世起源の仏像や金石資料はどうでしょうか。大山地区では、南北朝期と思われる小金銅仏が 1 軀あります。白岡支台では、興善寺の達磨大師坐像と市内での伝世資料ではありませんが県指定資料の阿弥陀如来立像、白岡八幡宮の鬼窪八幡宮鰐口が挙げられます。慈恩寺支台では安楽寺の薬師如来坐像と大徳寺の大日如来坐像、上野田の小金銅仏があります。現存しませんが、上野田の高祖明神社（鷲神社）には天文年間の銘を持つ鰐口があったといえます（『新編武蔵風土記稿』）。

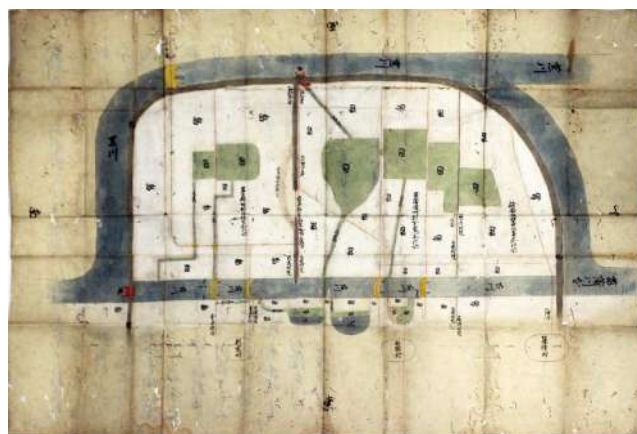
中世文書の状況はどうでしょうか。現存資料としては、野牛大久保家文書の北条氏繁判物と、忠恩寺文書の太田資正棟別免許状の 2 点です。写本として忠恩寺文書の高岩山由来と上野田大徳寺の大徳寺縁起、正福院の北条氏繁寄進状（武州文書・国立公文書館）があります。

③ 近世

近世以降の資料は、それ以前に比べると豊富にあります。古文書などを中心に考えますと、大山地区では柴山と荒井新田に柴山沼やその周辺の治水等をめぐる争論の裁許絵図が残されています。白岡支台地域では、旧白岡村の近世文書が充実しています。名主家、村役人格の家に伝わる古文書群で、「白岡村新宿村水除堤争論裁許絵図」、「白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許絵図」など排水対策に関する争論の裁許絵図などは重要な史料です。興善寺に伝えられる朱印状群なども、古刹たる所以を示す資料といえましょう。村政を物語る資料としては、小久喜村の名主家文書「鬼久保家文書」が重要です。水害などの災害に関して年貢の減免を願い出たり、日光道中や中山道への加助郷免除を願い出たりする資料が目につきます。

慈恩寺支台では、上野田の名主家文書「濱田家文書」や岡泉の村役人格家文書「渋谷家文書」などがまとまった史料群です。渋谷家文書では、日川堤の修繕にかかる資料などが重要です。濱田家文書では、御鷹場域内ならではの史料や御成道沿いの整備に関する史料などが重要です。

人々の暮らしに関する資料では、絵馬などに見られる信仰のほか、庚申講や稲荷講などの「講」



白岡村新宿村水除堤争論裁許絵図（細井家文書）

に関する史料が散見されます。また、小久喜の獅子舞では、「獅子連中例記」という獅子舞伝承や運営にかかる史料なども残されています。

また、金石文にも様々な情報が残されています。前述の庚申講の講中で立てた庚申塔や月待講で立てた二十三夜塔などのほか、様々な供養塔や記念碑の類などには、村方の様々な情報が刻まれているものがあります。例えば篠津久伊豆神社にある「知足^{ちそく}霊神^{れいしんの}之碑^{のひ}」は、領主である旗本徳永氏とのかかわりや名主角右衛門の伝説が記されています。また、篠津の青雲寺にある「菱沼^{ひしぬま}溪翁^{けいおう}墓碑銘^{きぼり}」には、篠津村の名主菱沼次兵衛が行った、荒川、星川の治水対策や農地改良などの事跡が記されています。これらは、地域にとって重要な内容を伝えています。

④ 近代以降

近代以降の文化財として考えられるものとして、産業や交通の発達に関するものや、自治体や自治体の合併に関するものなどが挙げられます。

まず、交通についてですが、明治 18 年に現在の J R 宇都宮線が開通します。当初白岡には「信号所」が設けられました。白岡駅開設の陳情は明治 30 年代からが繰り返し行われますがなかなか実現せず、明治 43 年 2 月ようやく設置されます。これらの経緯は「鬼久保家文書」から読み解くことができます。開業を記念して中島撫山が撰文し、白岡駅近くに建てられた記念碑「新設白岡車站之記」からは、当時の白岡周辺の産業の様子、人々の暮らしぶり、気風などの情報を読み取ることができます。

産業に関するものとして、農業関係では、「耕地整理記念之碑」（千駄野稻荷神社）や「柴山伏越改造之碑」（柴山伏越）「長寿園記」（爪田ヶ谷観音堂）「南埼玉^{かんけん}組組合記念碑」（白岡八幡公園）などがあります。このうち、「長寿園記」は製茶業を営み、国内外に広く埼玉茶を普及した斎藤長蔵翁の事跡を記したもの、「南埼玉組組合記念碑」は、昭和初期からの白岡近郷での養蚕業の振興にかかる内容が記されています。



竹籠に入った西瓜「埼玉」

また、岡泉の澁谷家文書には、日勝村長を務めた澁谷塊一が推進した「日勝村経済更生運動」関係の史料群が残されています。澁谷は、昭和 5 年、「埼玉」という品種のスイカを那須御用邸で昭和天皇に献上しています。「西瓜乃栗」という史料には、「形状ハ小サキ長円形ヲナシ、果皮ハ線状網文ニシテ果肉ハ橙黄色ヲ呈し、風味極メテ淡白上品ナリ」というスイカの特徴が示され、特産品開発に熱心に取り組んでいた様子がうかがえます。

日勝村は、昭和 7 年農業経営改善 5 か年計画を策定し、大山村とともに県の「経済更生運動推進村」の指定を受けます。日勝村では、耕地整理組合が設立され、沖山地区や日勝村西部などで耕地整理や開墾などが推し進められていきますが、日中戦争に向かっていく中で、「埼玉」を高級果物として定着させようとした目論見は実を結ばなかったようです。

市内で広く栽培される梨は、明治 43 年の大水を契機に作付面積を増やしていきました。特に土地が低い大山地区では、皿沼や柴山沼を擁し地下水位が高いことを利点に替え、みずみずし

い梨がとれることを活かして販路を拡大していきました。栽培品種の変遷や栽培用具の変遷、運搬具の変遷、また、共同選果などの組織の変遷など様々な内容の物語が伝えられています。

道具の変遷という視点で考えると農耕具の変遷などは興味的です。作物はもちろん、耕す耕地の土の状況、道具を使う人の状況などによって道具も少しずつ変化するといえます。農家側でも道具を選んで使いますし、鍛冶屋に鍬の刃先などについて注文を出したり、自分で工夫したりしていたようです。少し広い視野で比較すると、地域的な特徴がわかりそうです。

職人道具はさらに繊細です。職業によって違うことはもちろんですが、同じ職人がいくつもの道具を使い分けています。例えば、一人の下駄職人がいくつものノコギリやノミを使い分けていたり、一人の紺屋職人が何種類もの「伸子（ハリ）」（染めた反物を干すときに使う両端に針の付いた竹ひご）を使い分けていたりします。こうした道具の違いは、職人の個性と共にその地域の風土や生産される品物の特徴を反映しているのかもしれません。

2 これまでの調査から把握できる白岡市の歴史文化の特徴

当市の文化財の総合的な把握は道半ばですが、これまでの調査によって浮かび上がってきた情報を、文化財類型や時期別に整理すると、白岡市の歴史文化の特徴を以下のようにまとめることができました。

I 鎌倉街道と中世寺院

市内に「鎌倉街道」という伝承を持つ道筋が2つあります。一つは、市域東部を縦貫するように残された鎌倉街道中道に比定される道筋で、沿線には、安楽寺、大徳寺、正伝寺、忠恩寺、上野田鷲神社、高岩天満神社など、中世起源の寺社が並びます。この道筋を基に近世には、日光御成道が整備され、江戸から11番目の一里塚が置かれました。

もう一つは、小久喜の鬼窪尾張繁政（南鬼窪氏）館跡や寿楽院前から西進して台地をおり、篠津から来る古道を合わせたのち、荒川の自然堤防沿いに南下する道です。

篠津・白岡・小久喜・実ヶ谷付近はかつて「鬼窪郷」と呼ばれていた地域です。この地域には、篠津久伊豆神社、興善寺、正福院、白岡八幡宮などの寺社が並ぶほか、いくつもの館跡が連綿と続いて築かれていることが発掘調査の成果からわかってきました。

II 新田開発・用排水路・水争い・川の立体交差

市域は全体に勾配のゆるい土地柄です。水田地帯では、4,000分の1といわれる緩傾斜で、河川後背湿地や沼地が多く排水の難しい土地でした。

先人たちは、排水路を掘り、後背湿地を開発してきましたが、用排水路の開削で何より苦心したことは、水路同士を交差させる必要が生じたことです。「伏越」や「背越」などの構造は、開削はもちろんその後の管理にも大きな労力が必要でした。田が水につからないように堤を築いたり水口の開閉をしたり日常の管理が重要で、ひとたび出水すると、堤の上郷と下郷との間で堤を切るか切らないかの騒動が持ち上がります。しばしば争論となり、お上の裁定を仰ぐことになります。こうした争論に関する絵図や裁許状は当時の水利を知る上で貴重な資料となります。

Ⅲ 柴山沼と大山地区

柴山沼を中心とする元荒川や星川の形成した沖積地や後背湿地に立地するため、絶えず排水に苦勞してきた地域です。柴山沼を囲む柴山、荒井新田地区に今も残されている「水塚」は、柴山沼の内水氾濫などの歴史を物語るものといえましょう。

沼の周囲の村々の暮らしは排水に悩ませられながらも、恩恵にもあずかっていたようです。柴山沼や皿沼周辺には「ホツツケ」と呼ばれる掘り上げ田が発達し、掘り潰れの水路は集落内まで引かれ、揚舟による沼との往復や作物の運搬などに使われていたといいます。水害時にはこの舟で物資の輸送が行われたり、避難に使われたりしたといいます。

また、沼周辺の入会権に関する争論裁許絵図などが残されており、周辺各村が利用することのできる範囲などが決められていたことがうかがえます。

特産の梨栽培が盛んな理由も、地下水位が高くみずみずしい梨がとれることによります。

Ⅳ 野牛地区と新井白石

6代将軍徳川家宣の儒臣として旗本となった新井白石は、相州高座郡に500石、野牛村で500石合計1,000石を領有しています。

白石は、野牛村に後背湿地の排水路「白石様堀」を開削させ、見事な美田に変えたほか、救荒対策として「郷倉」を設けています。また、村方の争いごとに裁定を下した文書が残されているなど、村政にも大きな影響を与えていたようです。

野牛地区には、このほかにも新井白石ゆかりの文化財が残されています。

村人も白石を慕い、毎年白石の命日である5月19日は「筑後様まつり」として継承されて行きます。昭和10年代に途絶えますが、近年、途絶えていた祭りが復活したことは、地域の歴史文化の興隆に大きく寄与するものとして評価に値します。

Ⅴ 産業・交通・教育の発達と篠津地区

中世初頭、武蔵七党に数えられる野与党鬼窪氏が利根川筋と荒川筋の最接近点であり鉄生産の拠点であった篠津に目をつけ土着します。

鬼窪氏は、白岡支台ほぼ全域を勢力下に収め、血縁のある氏族は周辺に拡大していきます。

やがて近世を迎えると、日光街道粕壁宿と中山道鴻巣宿とを結ぶ脇往還の町場として栄え、元荒川の水運を利用して、近郊の木綿流通の拠点となったことが知られています。

経済的発展は、久伊豆神社の社殿彫刻や優れた彫刻を持つ5台の山車として昇華し、篠津は、地域の中心に成長していきます。

篠津の歴史は、河川からの恵み、河川交通と陸上交通などの流通の恵みを得たものであるといえ、古代から連綿と続く人々の営みが、「河川」「流通」「交流」などのキーワードをつなぎ、「芸術」や「学問」へと発展を遂げたと見ることもできるでしょう。

第4章 市民との協働による文化財の保護

1 市民参画による地域計画の作成

(1) 市民参画による文化財の把握

① みんなで作ろう白岡遺産ワークショップ

令和元年度、市域の文化財総合的把握調査と、文化財を活かした地域づくりを目指して「みんなで作ろう白岡遺産ワークショップ」を開催しました。公募によって集まった市民 20 名とともに、合計 11 回にわたる勉強会や現地調査を行い、文化財群をストーリーやキーワードでつないで、護りながら活かす道筋を考えました。

参加者は、これまでに実施した調査の成果などを参考に各自で学習を深めたり、ワークショップ開催日以外にも地域を廻ったりしながら、地域文化財の把握やストーリーづくりに取組、5つの事例^{*1}をまとめました。

5つの事例は、市域が県東部の低地に位置し、河川や水路、湖沼に囲まれた地域にあることによって、生活文化の多くの部分に水とのつながりが見られることを示すものとなりました。この視点は、市域の歴史文化を紐解くときの重要なキーワードであるといえます。

みんなで作ろう「白岡遺産」ワークショップ開催履歴

回数	日付	会場	スタイル	内容
第1回	令和元年度 6月23日(日)	生涯学習 センター	講義	文化財保存活用地域計画の概要や関連文化財群の考え方について県外の事例をもとに学習
第2回	7月28日(日)	生涯学習 センター	講義	具体的事例として世界遺産「富岡製糸場と絹遺産群」や群馬県、埼玉県行田市の日本遺産を取り上げて学習
第3回	8月25日(日)	生涯学習 センター	講義	「白岡遺産」の例題として「水と人々の暮らし」というテーマを設定し関連文化財群やストーリーについて学習
第4回	9月22日(日)	大山地区	現地見学	柴山伏越、橋戸地区の町並み、三十六間樋管、旧大山小学校校舎、大山地区の水塚、諏訪八幡神社などのフィールドワーク
第5回	10月27日(日)	篠津地区	現地見学	青雲寺、篠津久伊豆神社、興善寺、正福院貝塚などのフィールドワーク
第6回	11月24日(日)	日勝地区	現地見学	岡泉観音堂、安楽寺、大徳寺、正伝寺などのフィールドワーク
第7回	12月21日(土)	生涯学習 センター	グループ ワーク	キーワードを出し合って白岡遺産のストーリーや関連文化財群について話し合うグループワーク
第8回	1月26日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	各班でキーワードを検討しながら班別のテーマを決めるグループワーク
第9回	2月23日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	各班でキーワードを検討しながら班別のテーマを決めるグループワーク
第10回	令和2年度 7月26日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	キックオフ・フォーラムでの発表に向けての準備をおこなうグループワーク
第11回	8月23日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	キックオフ・フォーラムでの発表に向けての準備をおこなうグループワーク

*1：5つの事例をまとめたワークシートは、資料編 pp.129～133 に掲載した。



班ごとに関連文化財群を検討しています



フィールドワークの風景

このワークショップで議論した内容は、第5章にまとめた関連文化財群の基本的構成に反映されることとなりました。

●ワークショップ参加者 A さんのコメント

遺跡や文化財に興味があり参加しました。今回のワークショップは、長期に及びましたが、講義あり、フィールドワークあり、グループワークありと手法も変わったので楽しく参加できました。何よりも、自分たちの身近な文化財を「関連文化財群」としてまとめ、それが市の計画に反映されるというのは、責任重大ですがやりがいがあり、励みにもなりました。

② 白岡遺産キックオフ・フォーラム

地域計画作成の周知と「白岡遺産」を核とした文化財保護の取組の普及を目的に、令和2年9月19日に「白岡遺産キックオフ・フォーラム」を開催しました。

地域計画策定協議会の会長でもある大東文化大学の宮瀧教授の基調講演に始まり、ワークショップで議論した関連文化財群のうちの3つの事例について報告を行いました。その後、宮瀧教授や市文化財保護審議会の鈴木会長のほか、事例発表を行った市民の代表にもお入りいただきパネルディスカッションを行い、白岡市における今後の文化財保護の方向性について議論を深める機会とすることができました。

白岡遺産キックオフ・フォーラムの概要

事業名	日時	会場	内容
白岡遺産キックオフ・フォーラム	令和2年 9月19日(土)	生涯学習センター 多目的室	(1)基調講演 「文化財を活用した地域づくり」 大東文化大学教授 宮瀧 交二先生 (2)白岡遺産ワークショップの報告 ワークショップ参加者代表3名 (3)パネルディスカッション 「あなたならどう考える？白岡遺産」



ワークショップの事例報告風景



フォーラムでの意見交換の様子

(2) 市民参画による文化財活用の検討

① みんなで活かそう白岡遺産ワークショップ

令和2年度には、「みんなで活かそう白岡遺産ワークショップ」を開催しました。

「みんなで作ろう白岡遺産ワークショップ」に引き続き、市民公募の参加者のほかに、大東文化大学の観光歴史学科の学生にもご参加いただき、5つの関連文化財群を中心に、市内の文化財の活用について議論を深めました。

みんなで活かそう「白岡遺産」ワークショップ開催履歴

回数	日付	会場	スタイル	内容
第1回	令和2年度 9月27日(日)	生涯学習 センター	講義	・「白岡遺産」の概要と5つの関連文化財群の現状について ・文化財活用の先進事例について
第2回	10月25日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	班毎の活用案の作成
第3回	11月29日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	班毎の活用案の作成
第4回	12月27日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	班毎の活用案のまとめ
第5回	1月24日(日)	生涯学習 センター	グループ ワーク	「白岡遺産」活用シンポジウム事例報告の準備

活用ワークショップ

活用ワークショップ

●活用ワークショップ参加者 B さんのコメント

白岡市に住んで5年になります。地域のことをもっと知ろうと思って参加しました。篠津の天王様には、豪華な彫刻が彫られた山車が5台も出ます。お祭りをもっとにぎやかにして、たくさんの人に見ていただくことで、楽しみながら文化財のよさを知っていただく機会にできると思います。お祭りに来ていただく方々に募金をお願いしたりグッズ販売を行ったりして、その収益を広く文化財の保護に使う基金にするような仕組みづくりができればよいと思います。

●活用ワークショップ参加者 C さんのコメント

大東文化大学の2年生です。市外に住む者から見ると白岡市には、興味深い昔話や伝説がたくさんあります。例えば、大徳寺の大日如来にまつわる伝説や、「いっとこ団子」のお話などもユーモラスでおもしろいと思いました。昔話や伝説を語るコンテストやお話を題材にした絵画展などの企画があれば、小さい子を持つお母さんや、公民館の絵画クラブの方々など、これまで歴史や文化財にあまり関心のなかった人たちを取り込むことができるかも知れないと思いました。

② 白岡遺産活用シンポジウム

令和3年2月、地域計画作成にかかるワークショップなど、一連の市民参画の講座やイベントの現時点でのまとめを行い、文化財の保護と文化財を使ったまちづくりの起点とする事業として、「白岡遺産活用シンポジウム」を開催しました。

地域計画に盛り込む関連文化財群に続き、活用の方向性についても市民を交えたワークショップの中で出てきた事例を基に構築することができたことは、地域の文化財を地域で護るという本計画の基本的な目的を裏打ちする重要な成果であったと考えています。

白岡遺産活用シンポジウムの概要

事業名	日時	会場	内容
白岡遺産活用シンポジウム	令和3年 2月7日(日)	生涯学習センター 多目的室	(1)基調講演 「白岡遺産活用の取組」 大東文化大学教授 宮瀧 交二先生 (2)白岡遺産ワークショップの報告 (3)シンポジウム 「白岡遺産の保存と活用」

活用シンポ

活用シンポ

2 市民主導の文化財保護事業

① 「筑後様まつり」の復活

野牛地区では、野牛文化財愛護会が中心となって実行委員会を組織し、途絶えていた「筑後様まつり」を復活させる取組を行い、平成30年5月、130人ほどの参加者を得て約80年ぶりの復活を実現させることができました。

復活の背景には、江戸時代の野牛村の領主であった新井白石公の顕彰はもちろんですが、新白岡駅周辺の開発や土地区画整理によって「白石様堀」の暗渠化が進み、「野牛」という地名が町名変更によって失われる場所が出てくるなど、野牛地区の急激な変化に対する危機意識があったといえます。

急激な社会環境の変化は、プラスの作用ももたらしたようです。野牛文化財愛護会代表の大久保さんによれば、「筑後様まつり」復活の直接のきっかけとなったのは、2人の若いお母さんから「オシッサマ」の日に、行事のいわれなどを尋ねられたことだったといえます。丁寧にいわれの解説をすると大変喜んで興味を持ってくれ、ちょうど行政区長をしていたこともあり、地域の歴史文化の再興への想いを強くすることにつながったといえます。

新住民の急増などによる新旧のコミュニティの融合や、子供たちに対して地域の歴史文化を伝えたいとの思いに支えられた取組がうまく機能した結果が偉業に結びついたといえます。

祭りの実行委員会には、野牛文化財愛護会を始め、行政区、野牛夫婦友の会、野牛子供会から代表が集まり、さらに篠津小学校の支援も受けたとのこと。令和元年は参加者も150人に増え、着実に前進しているようです。

まつり当日は、新井白石公の肖像画を掲げた観福寺本堂で、子供たち向けには、スライドを見ながら白石公の足跡についてやさしい解説が行われ、大人たち向けには、ゆかりの文化財をめぐるミニツアーが組まれました。また、綿あめや輪投げ、バルーンアートなどの出店を出して、地域住民が楽しめるお祭りとしての要素も加えられています。

大久保さんは、今後は、市観光協会やJR新白岡駅と連携して幅を広げて行きたいと意欲を見せます。



白石公についての電子紙芝居のあと実施した、白石公クイズ大会の様子（観福寺本堂）



筑後様まつりでのミニ文化財めぐりの様子
（手前は現在の白石様堀）

② 小久喜のささら獅子舞の伝承活動

小久喜のささら獅子舞保存会では、昭和 61 年度から市立南小学校の郷土研究クラブでの伝承活動を継続しており、クラブの卒業生は既に 400 人を超えています。卒業生の中には母親となり、子供を連れて見学に訪れている方もいます。

郷土研究クラブの小学生は、4 月のささら獅子舞奉納の本番では、保存会のメンバーとともに笛方とサササ^ササの役を担っています。保存会の奉納の間には、2 組^{*1}のクラブ員の獅子舞が披露されます。また、夏の白岡まつり、秋の「わんぱく笑（商）店街」^{*2}など、折に触れて獅子舞を披露する機会があり、保存会のメンバーもそのたびに同行して指導をするという活動を繰り返してきました。その甲斐もあり、クラブ卒業生の中から、現在 10 代から 20 代までの若者 2 組の舞い手のほか、笛方なども育てっており、後継者育成事業の成功事例といえます。

小学校のクラブ活動で教えるだけでは後継者育成事業としては十分とはいえません。

しかし、上演を繰り返すなかで、多くの観衆に見守られ喝采を受けるという児童自身の成功体験や、上演に際してクラブの OB が容易に出入りできるような、雰囲気づくりに努めた学校側や保護者をはじめとする地域の努力、そして、それまで地域の長男だけしか受け入れてこなかったやり方を改め、広く会員を募る取組を行った保存会の決断が保存会入会へのハードルを下げ、若者を呼び込むきっかけのひとつとなったと考えられます。

また、保存会では、祭礼時に奉納する獅子舞の歴史や所作の意味、鑑賞のポイントなどについて現場で解説を行って理解を深めています。さらに、笛の譜面化や「獅子連中親方申送記」などの記録資料の公開を行うとともに、映像記録化への協力など保存に向けた様々な取組を積極的に行っています。



南小学校郷土研究クラブの獅子舞



保存会の若い会員の稽古風景

*1：1 組は、大獅子、中獅子、女獅子を演じる 3 人からなる。

*2：白岡市商工会や子供会育成会が主催する子供たち自身が品物を販売体験をする模擬店やパフォーマンスの発表会が行われるイベント。

第5章 文化財の保存と活用に関する方針と取組

1 これまでの文化財の活用

白岡市では、昭和56年7月に大山小学校の旧校舎の一部を移築改修して「大山民俗資料館」を開設しました。農耕具や生活資料などの展示を行う施設として維持してきましたが、市街地から遠く来館者が少ないことに加え、木造校舎の老朽化が問題となっていました。当時計画中の生涯学習センターの中に新しい展示施設を設けることが決まっていたこともあり、平成29年9月に一般向けの展示公開を終了しました。

平成30年10月に生涯学習センター「こもれびの森」が開館し、図書館、生涯学習施設との複合施設として常設展示室、企画展示室、収蔵庫（一般収蔵庫・特別収蔵庫）などを備えた歴史資料展示室（博物館相当施設）を設置しました。

現在、各種の講座等の教育普及事業は、歴史資料展示室を中心に開催しています。

(1) 生涯学習講座

昭和50年代から、「歴史ハイキング」などの市民向けの生涯学習事業を開催していましたが、継続的に教育普及事業を開催できる状況になるのは、「生涯学習」という言葉の定着する平成初期を待たねばなりません。平成10年代には、生涯学習メニューの拡大や受講者層に合わせたプログラム開発が進められ、文化財関連講座も人気の講座として広がりを見せます。平成14年から開始した「町民アカデミー」やこれを引き継いだ「ペアーズ・アカデミー」*などのいわゆる市民大学の中で開講するようになる一方、学校週休2日制の受け皿として週末型の子供や親子を対象とした講座や、仕事帰りのサラリーマンを対象とした夜間開講の講座などが開設されました。

(2) 出前講座

情報公開制度の普及とともに、職員が行政課題や制度などを解説するいわゆる「出前講座」が制度化されるのも平成10年代のことでした。この枠組みの中で、自治会の研修会やサークル活動の一環として市内の文化財めぐりや学習会が開かれるようになり、年間数回、職員が講師として出向く講座が開催されています。

(3) 展示施設での普及事業

平成30年10月1日に開館した生涯学習センター内に歴史資料展示室を設け、常設展示、企画展示を行っています。

以前は、中央公民館の講堂や市民ギャラリーを会場とした展示会を開催していましたが、展示資料管理などの問題もあり、写真パネルを中心とした展示が主体でしたので、実際の資料を展示できることは文化財に関する理解に大きく貢献することができると考えています。



ハンズ・オン・デイでミニ体験をする親子

* ペアーズ・アカデミー：パレット型の生涯学習体系「ペアーズしらおか」の基幹講座。ペアーズは特産の梨（Pear）になぞらえたもの。

普及事業としては、定例展示解説会「ハンズ・オン・デイ」を設け、気軽に参加できる体験活動やミニ展示解説から展示見学へつなげる取組を行っているほか、生涯学習講座「ミュージアム・ゼミナール」や体験型の親子教室「親子おもしろミュージアム」などの普及事業を行っています。

「ミュージアム・ゼミナール」は、夜間開講の少人数制講座で、双方向性の高いより高度な内容の講座として、平日の昼間に開講し基礎的内容を中心とするペアーズ・アカデミーと内容や受講者層の差別化を図っています。

「親子おもしろミュージアム」は、主に小学生とその保護者を対象とした体験型の講座として、楽しみながら郷土学習や文化財に接することのできる学習機会として開講しています。

また、新井白石の肖像画や梨栽培に関する画像データ等をはじめ、館蔵資料の貸し出し件数も増加しています。

(4) 教育普及資料の作成

白岡市教育委員会では、白岡町史編さん事業終了後も毎年のように文化財の啓発普及資料を刊行してまいりました。「白岡市遺跡マップ」や「歴史ハイキングマップ」などは人気も高く、今後も改訂しながら作成すべき基本的な普及資料と認識しています。このほか、目的や利用者などを考慮した普及資料の作成が求められます。

(5) 学校教育との連携

市内の小学校6校、中学校4校を対象に「歴史学習支援事業」を展開しています。文化財担当職員が資料を携えて学校に出向き、資料を見せながら授業を行う形式としており、担当教職員と事前打ち合わせを行い、要望に合わせた授業内容としています。

毎年事業を活用している学校からは大変好評をいただいておりますが、活用はなかなか進まないのが現状です。学習指導要領の改正も踏まえ、取組の更なる強化が必要です。

また、教職員との協働による教材研究の機会や博学連携の取組を推進するテーブルをもつことが重要です。



小学校での歴史学習支援事業

(6) 図書館との連携

白岡市生涯学習センターは、図書館機能、資料館機能及び生涯学習機能の融合を目指した施設です。歴史資料展示室（資料館機能）の常設展示室内にも書架を設置し、展示に関する図書を見ることができます。もちろん貸し出しも可能です。展示室に隣接するコーナーは「地域行政コーナー」として市内をはじめ、近隣の歴史文化や地域に因んだ刊行物が閲覧できます。

企画展示や連続講座を行うときには、内容に応じた図書の展示を行い、図書館、資料館相互の利用者の便を図ることができます。

毎年1回、図書館の企画する「図書館歴史講座」は、資料館側が図書館に協力する機会として、市の歴史に因んだ講座を開講しています。

(7) 東部地区文化財担当者会巡回展

東部地区文化財担当者会（旧埼玉葛地区文化財担当者会）は、埼玉県東部地区に所在する15市町で構成されている各自治体の文化財担当者の行政事務研究組織ですが、テーマを掲げた共同研究にも取り組んでいます。自治体の枠にとらわれていては結果がわかりにくい研究テーマや、埼玉県全域では取り上げにくいテーマを共同して調査研究することで成果を挙げています。調査結果は、報告書として刊行するだけでなく、構成市町で巡回展示を行い市民への普及に努めています。

(8) 発掘調査現地見学会等

発掘調査の現地見学会は、可能な限り開催するよう努めていますが、短期間で終える必要がある場合や、近くで駐車場の確保が困難であるなど開催条件が整わない場合もあり、ここ数年開催できていませんが、すべての発掘調査に関して調査終了時にホームページ上で概要の報告を実施しています。

発掘現場を市民の皆さんに見ていただくことは埋蔵文化財の保存はもちろん、活用面でも市民の皆さんの理解を深めていただく好機であると考えますので、引き続き、開催に向けて努力して参ります。

(9) 文化財解説板の設置

市内には、現在53基の解説板が設置されています。指定文化財や主だった寺社のほか、橋や河川、記念碑など文化財を巡回するコースに合わせて配置しています。教育委員会で設置した解説板のほか、観光協会などが主体となって、教育委員会が原稿作成や監修して設置したものも含まれます。



清左衛門遺跡現地見学会

2 文化財の保存と活用に関する課題

白岡市の文化財の保存と活用についての課題を4つの項目に整理し、今後の活動に関する方針を導き出す起点とします。行政はもとより、市民の皆さんとともに模索する新たな取組への道しるべとしたいと思います。

(1) 各分野の文化財把握に関する課題

前章までに、既往の調査活動や活用事例等をまとめてみました。これをみてわかる通り、すべての分野にわたって満遍なくかつ十分な調査が行われてきたわけではありません。

白岡町史編さん事業に伴ってある程度体系的な調査が行われているとはいえ、不十分な分野や、その後の状況変化を踏まえた再調査が必要である分野も目に付きます。

たとえば、市内では、仏像や美術工芸品、建造物などに関する悉皆調査は行われてきませんでした。仏像や美術工芸などは、保管環境などの状況の把握も重要となりますし、災害時のレスキュー対策などを考える上からも基本的な調査を行う必要が高いといえます。

比較的調査の進んでいる民俗分野でも、内水面漁撈などに関する調査が未実施となっており、農耕具や生活資料などについては体系的な再整理を進めている最中で、状況に応じて補足調査を行う必要があります。

古文書類に関しては、大きな文書群の把握はほぼできており、目録化を済ませていますが、資料の新規確認情報には即応できる体制が重要です。今後は、目録化できた資料の活字化や読み下し化を進め、誰でも内容の把握や比較ができるようにしていくことが求められます。

考古資料に関しては、町史編さん事業の時期にはほとんど行われていなかった発掘調査が組織的に行われるようになったことで、明らかになってきたことがたくさんあります。町史に反映できなかったことがらを市民向けに情報発信することや、現在市指定文化財の中に1つしかない考古資料の指定件数を増やすなどの取組が求められます。

植生や動物など自然環境の分野についても悉皆調査は行われていません。環境面での特徴を把握するだけでなく、人とのかかわりや地域的な文化形成への影響などを考える上でも、自然環境の調査は等閑視できないといえましょう。

何より本計画の主眼のひとつでもある、「総合的な文化財の把握」という視点で文化財を捉える試みは行われて来ませんでした。指定文化財のみに目が向いていた結果、市民の暮らしの中にある「文化財」を把握しきれていなかったといえます。それぞれ個別の文化財の持つ意味や価値を関連付けて捉え直す作業を進め、市民の皆さんが地域の文化財をより身近に感じ、誇りを持って守り伝え、活用していくことのできる仕組み作りが重要です。

(2) 保存・継承に関する課題

文化財の保存とその継承に関する課題については、大きく3つに分けて考えられます。

① 文化財の管理と適切な伝承活動

長い歳月を重ねてきた文化財の中には、適切な修繕を要するものがあります。特に、木や紙、漆など、わが国の文化を特徴付ける素材の多くは、害虫や^{かび}黴、温湿度変化、紫外線などに弱く十分な管理のほか、時宜を得た修繕が重要です。こうした管理作業は、指定、未指定を問わず行う必要がありますが、状況を十分に把握し文化財の価値を損なわないように適切な管理や修

繕を行うためには、文化財の材質や製法その他の基礎的情報を所有者・管理者と文化財行政部局とが共有しておくことが大切です。活用頻度の高い資料は原資料の劣化を防ぐために必要に応じて複製を作るなどの措置を講じることも検討する必要があります。未指定の有形文化財の継承問題としてありがちな、相続などの世代交代に伴う散逸や滅失を予防するためにも、文化財の基礎情報の共有化は大変重要な課題であるといえます。

これとは別に、無形の文化財の継承に関しては、技術や芸能など対象となる文化財自体の保存継承などとともに、担い手の確保に関する課題や保存団体の支援に関する課題などが非常に重要な課題として存在します。無形文化財の伝承活動の成否には様々な要因があるものと思われますが、保存団体との連携を一層深め、行政として多様な選択肢と方策を提示するなど継続的な支援が必要です。

② 文化財に関する防犯・防災活動

風水害や地震などの災害対策には十分な配慮が必要です。非常時の持ち出しの可能性や火災などに対応するマニュアルの作成などの整備が大切です。

文化財の正確な基礎情報を文化財担当部局だけでなく、防災、防犯担当部局や消防などと共有する仕組みの構築が求められます。

また、地域の神社や小さなお堂などでは無住であることも少なくなく、文化財の維持管理だけでなく、災害や盗難などの被害についても十分な配慮が必要です。特に、地域の小さなお堂などでは、どのような文化財があるのかを地域でしっかりと共有するとともに、定期的なパトロールや警察との情報交換を行うなど、十分な盗難対策を講ずることが重要です。

文化財の防災・防犯の問題は、文化財の保存・継承を左右する大きな課題といえます。祖先から引き継いできた文化財が、盗難や災害の被害によって失われてしまうことのないよう、警察や消防とも十分な連絡調整を図り必要な対策をとることが大切です。

③ 文化財保護のための体制整備

白岡市における文化財保護の取組は、教育委員会生涯学習部学び支援課が担っています。

専門知識を要する様々な業務を少数のスタッフでまかなう状況が続いていることに加え、歴史資料展示室の開設に伴い、文化財保護行政と博物館事業を同じスタッフが兼務しています。専門職を含むスタッフの充実と、業務を統括し中長期的な事業計画の作成や事業のマネジメントを行う管理職を専門職の中から育成することが行政課題です。

別の視点から見れば、職員以外の研究者や市民が気軽に地域研究に取り組める環境が整い、自発的な調査研究が進展する仕組みを構築できれば、おのずと専門職の負担軽減につながります。歴史資料展示室の客員研究員や市民学芸員などの制度の構築も課題といえます。

一方、文化財の保存と活用について、中立の立場から学術的な検討を行う諮問機関である市文化財保護審議会の意見を聞くことや、行政とは異なる視点でサポートしてくれる民間団体との連携、ボランティア団体の育成・支援などについても必要だといえます。

こうした外部団体や、庁内各部局の理解を進め事業連携や協働事業の取組を進めることで、結果的に文化財に関わる事業や人数を増やすことができます。

(3) 情報発信・普及活動に関する課題

文化財に関する情報は、前掲のようにほとんどが印刷物として公表、発信されてきました。

しかし、印刷物は発行部数に限りがありますし、教材などとして複写転載などの2次利用を行おうとする場合、精度に限界があるといわざるを得ませんでした。また、調査報告書などは、専門用語が多く難解な内容であることも情報発信が進んでこなかった理由の一つといえます。

もちろん調査報告書等の学術的水準を維持することは大変重要ですが、これとは別に簡易な用語を用い、理解しやすく親しみやすい情報の発信が求められています。市の歴史や文化を正しく理解していただくとともに、広く情報発信して市外からも関心を寄せていただいたり、実際に足を運んでいただいたりすることが市の歴史文化に関する理解促進のうえから大切です。

また、文化財の調査成果や講座の内容、展示資料の情報などさまざまな情報のデータベース化が遅れていることも課題のひとつです。文化財に関する情報を整理して、利用者が必要な情報を手軽に得られるようにすることが必要です。こうすることで学校教育、生涯学習など様々な場面での活用が図られるでしょう。

情報公開に際しては、文化財の所有者・管理者情報の扱いなど事前に公開する情報に関する合意形成が必要な事項もありますし、安全対策に万全を期すことはいうまでもありません。

普及活動に関しては、これまでも様々な講座や体験活動を行ってきました。生涯学習講座参加者へのアンケートでは、歴史文化関係の講座に関するニーズは常に上位にあり、潜在的な関心の高さをうかがわせますが、新たな参加者層の掘り起こしも課題といえます。歴史資料展示室の企画展を充実させタイアップ事業の開催を進めるなど、これまでとは異なる切り口での講座作りが重要です。

生涯学習では一定の成果が認められるものの、学校教育での活用はなかなか進んでいないのが現状です。市内には、小学校6校、中学校4校がありますが、学芸員が歴史資料展示室で保有している資料を携えて学校へ出向く「歴史学習支援事業」の活用は年間1~2校にとどまっています。市の将来を担う小・中学生にこそ市の歴史文化を正しく身につけていただき、ふるさと意識の醸成を支えることが課題です。

これまで実施してきた普及活用事業は「講座型」が主流でしたが、新たな参加者層の掘り出しには、新たな活用策の模索も必要です。いわゆるユニークベニュー^{*1}として、歴史的建造物を利用したイベントや「Living History」^{*2}などの考え方を援用した活用策の検討なども課題の一つといえます。

(4) 市民との連携・協働に関する課題

地域の伝統文化や祭礼・年中行事などは、地域の市民の手によって守り伝えられてきたものにほかなりません。地域の方々が地域の伝統文化を大切だと感じ、積極的に守り伝えていこうという意識を持たなければやがて失われてしまいます。

現在、天王様やオシシサマなどの祭礼は、比較的しっかりと伝えられています。しかし、「庚申講」や「稻荷講」などのように、地域の小集団によって維持されてきた行事は、地域コミュニティの希薄化に伴って激減しています。比較的しっかりと伝承されている祭礼などでも、内容の変容、簡略化などの可能性は心配されます。

*1：ユニーク＝特別な、ベニュー＝場所の意味で、指定文化財など特別な場所において通常と異なる特別な体験をすることで、文化財に関する理解や関心を深めることを目的とするイベントを指す。

*2：文化庁の推進する「生きた歴史体感プログラム」のことを指す。

伝統行事が維持されていくことの意義や維持することのメリットが感じられないことが大きな原因のひとつであると考えられます。

地域に眠っている文化資源を掘り起こすことで、地域の意識を活性化させ、廃れつつある行事や途絶えていた行事を復活させることも重要な支援策であると考えます。こうした取組の一つとして、複数の文化財をキーワードやストーリーでつなぐ関連文化財群の設定やユニークベニューの活用なども考えられます。

また別の角度から見た課題として行政、地域、地元企業や関係団体などそれぞれの活動が連動しておらず、思うような効果が上がらないということも課題に挙げられます。行政が主体的に行うべき取組と、地域が主体となって行う取組それぞれが大切で、両者が呼応することで相乗効果を上げていくこと、これに地域の事業者、企業などが賛同することで伝統と新風が融合した新たな文化の創造を支援することが期待されています。

地域の伝統文化や関連文化財群の設定などが経済活動と結びついたときに、外部からの来客を受け入れる観光基盤の整備は不可欠です。トイレ、駐車場、案内施設、誘導サインなどの整備についても視野に入れた検討・研究が大切です。

3 文化財の保存と活用に関する方針

(1) 目指すべき姿

ここまで分析してきた、白岡市の歴史文化の特徴や文化財保護保存の状況、活用の事例と課題などを踏まえ、以下に示す「目指すべき姿」の実現へ向けて白岡市の文化財の保存と活用に関しての基本方針を示し、これに基づいた総合的な取組を推進します。

◎ 目指すべき姿

**郷土の文化財に親しみ、理解し、みんなの力で守り伝える
活気あふれる歴史文化都市**

(2) 基本方針

基本方針1 文化財を調べる ～文化財調査の継続と文化財の総合的把握～

分野ごとに行われてきた調査活動をさらに深め、精度を高め続けるとともに、これまで行われてこなかった分野の調査活動を進めます。把握した文化財は、活用を視野に入れた情報の共有化を図ります。

また、文化財の総合的な把握を進め、個別の文化財の持つ意味や価値を関連付けて捉え直すことで、市民の皆さんが地域の文化財をより身近に感じ、誇りを持って守り伝えていただける仕組み作りを促進します。

- ①分野ごとの調査精度を高めます。
- ②未実施の調査項目の調査を推進します。
- ③「総合的な把握」の手法を活かした調査の推進を図ります。
- ④身近な文化財に気づき、誇りを持って守り伝える取組を支援します。
- ⑤把握した文化財の活用を視野に入れた情報の共有化を促進します。

基本方針 2 文化財を守り伝える ～文化財の確実な保存と継承～**① 文化財の管理と適切な伝承活動**

文化財の材質や製法その他の基礎的情報を所有者・管理者と文化財行政部局が共有する仕組み作りを促進するとともに、文化財の適切な管理や修繕、複製の製作を行います。無形の文化財の継承のために、新たな支援策の構築に努めます。

- ①文化財の材質、製法その他の基礎情報の共有化を促進します。
- ②文化財の適切な管理に努めます。
- ③活用頻度の高い文化財については、必要に応じて複製の作成を推進します。
- ④文化財伝承活動の適切な支援を図ります。

② 文化財に関する防犯・防災活動

過去に、大規模な台風や水害また地震災害などに見舞われた史実があります。歴史文化を重んじる立場からも、これらの被害を教訓として十分な準備と体制の整備を行うことが重要です。

防犯活動については、具体的被害の情報こそありませんが、把握出来ていない被害が既に発生しているかもしれないという、緊張感を持って備えることが大切です。

両課題とも、日頃からの意識と警察や消防との情報交換などの連携を深めることが大切です。

- ①地域と協力して適切な防犯体制の構築に努めます。
- ②警察との情報交換体制を整備します。
- ③地域と協力して適切な防災体制の構築に努めます。
- ④消防との情報交換体制を整備します。

③ 文化財保護のための体制整備

地域の文化財を地域の手で守ることが本計画のコンセプトですが、その背景にはしっかりと文化財保護行政が存在し、諸施策の要として機能することが不可欠です。

また、ボランティア組織の育成支援なども重要な活動です。

- ①開かれた地域研究体制の構築に努めます。
- ②文化財保存活用地域計画に関する庁内勉強会や事業連携のテーブルを設け、庁内関係課の理解促進を図ります。
- ③市内の関係団体や専門家との連携を図ります。
- ④行政とは全く別な視点から文化財の保存活用に取り組むボランティア組織の育成や連携を促進します。

基本方針 3 文化財を知る ～文化財に関する情報発信と普及活動の推進～

文化財の調査成果の速やかな公表はもとより、理解しやすく親しみやすい情報発信や利用者が必要な情報を手軽に得られるように努めます。講座の内容、展示資料の情報などさまざまな情報をデータベース化して整理すると同時に、歴史資料展示室の企画展示の充実や文化財を活用した様々なイベントの開催、また観光協会などと連携した新たな普及事業に努めることで、郷土の歴史文化に関心をもつ市民の拡大を図ります。

特に、児童生徒のふるさと意識の醸成や歴史文化の正しい理解促進に努めます。



小学生の歴史資料展示室見学の様子

- ①文化財調査の成果の速やかな公開を進めます。
- ②理解しやすく親しみやすい文化財資料の公開を促進します。
- ③文化財情報のデータベース化を促進します。
- ④学校との連携強化を図ります。
- ⑤歴史資料展示室事業の充実を図ります。
- ⑥WEBを活用した情報発信を促進します。
- ⑦文化財を活用した様々なイベントを推進します。

基本方針 4 文化財をともに支える ～市民との連携・協働の促進～

特色ある伝統行事を発掘し正しく評価し後世に伝えるために、地域の行事を地域で支える仕組み作りを促進します。そのために、伝統行事が維持されていくことの意義や維持することのメリットが感じられる仕組みを作ります。

また、地域が主体となって行う取組を地域の事業者、企業などが支援し相乗効果を上げられるような新たな取組の創造や同様の活動に取組む団体同士のネットワーク化を促進し支えあいの仕組み作りを支援します。

- ①特色ある地域の伝統行事の発掘を進めます。
- ②地域の行事を地域で支える仕組み作りを促進します。
- ③担い手同士のネットワーク化を促進します。
- ④周囲から支える仕組み作りを促進します。



4 文化財の保存と活用に関する取組

基本方針に従い、白岡市の文化財の保存と活用に関して実施すべき取組について、年次計画を立て順次実施します。

事業によっては、ある程度時間のかかる事業もありますし取組主体ごとに実施時期の異なる場合も想定されますので、進捗状況を見極め修正あるいは調整を図りながら実施します。

なお、取組主体を便宜的に3区分しましたが、概ね以下の通りとします。

市民…文化財所有者（管理者）、愛護団体、ボランティア団体、学習団体等
 地域…商工会、観光協会、自治会等
 行政…白岡市、白岡市教育委員会、市文化財保護審議会

《基本方針1》文化財を調べる

調査研究活動に関する課題を受けて設定した基本方針です。これまで行われてこなかった分野の調査を促進するとともに、既往の調査の精度を高めるほか、分野横断的、総合的調査活動を促進し、より多角的に文化財を把握するための事業です。

（記号の意味：◎は取組主体、○は協力者、：新規事業、：継続事業、：第2期計画以降に実施する事業）

基本方針 細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係*	主な取組主体			取組年度					
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	
①	1	仏像・神像調査 市内の寺院等に所在する仏像等の悉皆調査。外部指導者を招聘し市民ボランティアを募って実施。	1～5	○	○	◎						
				目標値			大山・日勝・篠津3地区悉皆調査					
②	2	建造物調査	1～5	○		◎						
	3	漁撈具、漁撈活動調査 沼・川・田などにおける内水面漁撈活動に関する調査。外部指導者を招聘し市民ボランティアを募って実施。	5	○	○	◎						
				目標値			柴山沼周辺の調査実施					
	4	生態系調査	1・5	○		◎						
③	5	中世資料総合把握調査 市内の中世寺社、館跡、有形文化財、金石・考古資料等、分野横断的総合調査。職員主体で蓄積資料の分析及び必要に応じた補足調査を実施。	1～3	○	○	◎						
				目標値			篠津地区・鬼窪氏関係の調査					
④	6	暮らしの中の文化財調査	1～5	◎	○	◎						
	7	把握した文化財の情報発信 広報紙やHPなどでの公表。調査の進捗状況に合わせ随時実施。	1～5		○	◎						
				目標値			調査活動の速報として実施					
	8	民具調査・整理 梨栽培用具などを重点に、大宮台地北部の農耕具の整理。必要に応じた追加調査を実施。	4・5	○	○	◎						
⑤	9	諸家文書調査 申し出に即した調査、収集活動の継続	1～5	◎		◎						
	10	古文書整理 収集した諸家文書の目録作成、翻刻作成等の計画的実施。	1～5	○		◎						

* ストーリーとの関係：「ストーリー」とは、第6章で詳述する関連文化財群を指す。

《基本方針2》 文化財を守り伝える

文化財の保存・継承に関する課題のうち、①文化財の管理と適切な伝承活動を受けて設定した基本方針です。

文化財の保存と次世代への継承は、文化財保護行政の最も重要な施策です。文化財そのものの劣化予防や、市民の理解を深めるための活用を促進するために、レプリカを製作するなどして原資料にかかる負荷を最低限にとどめることなども大切な事業です。

また、無形の文化財や祭り・行事の映像記録の作成、文化財保護経費への民間資金の導入なども早期に取り組むべき大切な事業ですが、社会状況などを見極めながら適切に進めます。

① 文化財の管理と適切な伝承活動に関する取組

基本方針細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
①	11	文化財の定期的確認作業 所有者、管理者との連絡調整と保管状況の定期的確認の実施。	1～5	◎	○	◎					
	12	文化財保護指導委員の設置	1～5	○		◎					
	13	指定文化財管理・修理への補助金交付 指定文化財の現状把握と適切な保護措置を実施。	1～5	◎	◎	◎					
②	14	指定文化財候補の把握 指定文化財の候補となりうる文化財の把握と所有者（管理者）との情報交換や適切なアドバイスに努める。	1～5	○	◎	◎					
	15	文化財レプリカの作成 絵図、古文書等の脆弱資料や活用頻度の高い資料の複製製作。適切な外部事業者に制作委託。	1～5	○	○	◎					
③	16	文化財伝承活動の支援 無形文化財等の伝承活動の適切な支援に努める。	1～5	○	◎	◎					
	17	文化財愛護団体のネットワーク化支援 愛護団体、学習団体等の横のつながりの強化。起点は会議を設け教育委員会からの提案として実施。	1～5	○	◎	◎					
④	18	無形文化財や祭・行事の記録作成	1～5		◎	◎					
	19	文化財保存経費への民間資金導入の促進	1～5	○	◎	◎					

② 文化財に関する防犯・防災活動に関する取組

基本方針細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
①	20	定期的な防犯パトロールの実施 文化財ボランティアと連携した巡視活動の実施。	1～5	○	○	◎					
				目標値			防犯パトロール組織の立ち上げ				
②	21	防犯マニュアルの作成 地域と連携した防犯マニュアルの作成。	1～5	○	○	◎					
				目標値			警察と連携した取組に着手				
③	22	警察との日常的な防犯対策情報交換 警察・地域と連携した定例的な防犯対策会議の開催。	1～5	○	○	◎					
				目標値			防犯対策会議の立ち上げ				
④	23	定期的な防犯研修会の実施	1～5	○	○	◎					
				目標値			寺社を対象に消防と連携し研修会を開催				
⑤	24	災害時の文化財救出マニュアルの整備 地域と連携した文化財防災、救出マニュアルの整備。	1～5	○	○	◎					
				目標値			寺社を対象に消防と連携し研修会を開催				
⑥	25	定期的な防災訓練の実施	1～5	◎	◎	◎					
				目標値			文化財所有者を対象に消防と連携し研修会を開催				
⑦	26	自主防災組織との連絡会議の創設	1～5	◎	◎	◎					
	27	民間所蔵文化財の保管状況カルテの作成 文化財保管状況をカルテ化し消防との情報共有を図る。	1～5	○	○	◎					
				目標値			文化財所有者を対象に消防と連携し研修会を開催				

③ 文化財保護のための体制整備に関する取組

基本方針細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
①	28	非常勤の研究員等の任用制度の創設	1～5			◎					
	29	市民学芸員制度の創設	1～5	○		◎					
②	30	文化財保存活用地域計画関連事業 行政内部の理解を促進し、事業連携や協働事業の取組を進める。	1～5		○	◎					
				目標値			勉強会の開催と連携事業1事業実施				
③	31	白岡遺産保存活用市民会議の設置 様々な団体や個人に参加いただき自由な発想で文化財の保存と活用に関する議論を深める機会を創設。	1～5	◎	◎	◎					
				目標値			会議立ち上げ参加者（団体）20人				
④	32	文化財ボランティアの育成 文化財や白岡遺産のガイドや管理活動に関するボランティアを育成する。	1～5	○	○	◎					
				目標値			多様なボランティアの育成・5人				
⑤	33	文化財愛護賞の創設 文化財の保存活用に貢献した個人や団体を顕彰し、文化財愛護やふるさと作りの意識の醸成を図る。	1～5	◎	◎	◎					
				目標値			賞の設置運営の仕組み作り				

《基本方針3》 文化財を知る

情報発信や普及活動に関する課題を受けて設定した基本方針です。

当市では、これまでも様々な普及活動を実施して参りました。生涯学習センターの歴史資料展示室がオープンし、より多様な学習メニューの提供が可能となりました。文化財関連の講座、体験学習等のもとより、懸案となっていた資料のデータベース化や歴史資料展示室のホームページの充実などを進め、幅広いニーズや多様な学習形態への対応などを推進して参ります。

また、学校との緊密な連携を進め、文化財の教材活用や児童生徒の主体的な学習活動への取組を促します。

基本 方針 細分 項目	No	事業名	ストー リーと の関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年 次	2年 次	3年 次	4年 次	5年 次
①	34	文化財調査報告書の刊行 埋蔵文化財、民具、諸家文書などの調査報告書の刊行を促進。	—			◎					
	35	歴史資料展示室紀要の充実 市の歴史文化に関する調査研究活動の成果発表を促進。	—			◎					
②	36	普及用刊行物の計画的発行 様々な視点から文化財を捉えた普及用資料の発行。	1～5			◎					
③	37	文化財データベースの構築 文化財に関する情報をデータベース化し、情報の一元管理を進めるとともに、利用者の便を図る。	1～5			◎					
④				目標値			指定文化財のデータベース化				
	38	学校と連携した教材研究の促進 教職員と連携した教材研究の促進と歴史学習支援事業の充実を図る。	—			◎					
				目標値			定期的教材研究機会の創設				
	39	学校貸し出しパックの作成	—			◎					
⑤	40	夏休み自由研究展の開催	—			◎					
	41	多様なニーズに即した講座の開催 ニーズに応える文化財学習講座等の開催に努める。	—			◎					
	42	職員出前講座の活用促進 市民団体の学習会への講師派遣を促進する。	—		◎	◎					
⑥	43	企画展示・季節展示の充実 魅力ある展示とタイアップ事業の充実を図る。	—			◎					
	44	ホームページの充実 歴史資料展示室からの情報や文化財の保存・活用、5つのストーリーなどの情報発信の充実。開設に際しては、市情報化推進担当、広報広報担当等の部局と十分な調整の上実施。	1～5			◎					
				目標値			ホームページの充実				
	45	WEB ミュージアムの構築	1～5	○		◎					

基本方針細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
⑦	46	文化財保護フォーラムの定期的開催 有識者の提案や市民の声を聞く機会として定期的なフォーラム開催に努める。	1～5	○	○	◎					
				目標値			年1回の開催				
	47	文化財解説板の設置・改修 寺社や文化財、関連文化財群の解説板、標柱の設置・改修を実施。	1～5	◎		◎					
	48	文化財普及グッズの開発	—	◎		◎					
	49	ユニークベニユーの促進	1～5	◎	○	◎					
	50	文化財周遊コースの設定 市観光協会等と協働でモデルコースを作成し、これに沿った施設整備を推進する。	1～5		○	◎					
				目標値			関連文化財群5つの周遊コース設定				

《基本方針4》 文化財をともに支える

市民や地域団体との連携・協働に関する課題を受けて設定した基本方針です。

市民との協働で伝統行事の継続やボランティア活動を推進するとともに、地域の文化財を地域で守る意識を根付かせ、主体的な保護活動を促進します。

商工団体や観光団体とはこれまでも協働関係にあります。特に観光協会の資源開発部会の積極的な活動は大きく評価すべきものがあり、今後もより一層緊密な連携と協働を実現し、互いに地域の歴史文化を活性化し、伝統行事や歴史文化を維持していく環境整備を図ります。

また、歴史文化を活用した商品開発やまつり行事への地元企業の支援の可能性の模索、新たな取組の創造など既成の枠組みにとらわれない歴史文化の継承の仕方などを検討します。

基本方針細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
①	51	しらおか市民遺産制度の登録促進 しらおか市民遺産制度の創設と登録推進を図る。	1～5	◎	◎	◎					
				目標値			制度の創設と3件の登録				
②	17	文化財愛護団体のネットワーク化支援（再掲）	1～5	○	◎	◎					
	53	白岡遺産普及開発イベントの開催	1～5	◎		◎					
③	54	白岡遺産パンフレットの作成 白岡遺産のパンフレット作成やWebでの情報発信を図る。	1～5			◎					
				目標値			2種類以上のパンフレットの作成				
	55	白岡遺産への民間資金導入促進	1～5	○	◎	◎					

基本方針 細分項目	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
④	56	白岡遺産の支援協力体制の整備 観光、商工団体や自治会、学校など地域ぐるみの支援体制整備を進める。	1～5	◎	◎	◎					
	32	文化財ボランティアの育成（再掲）	1～5	◎	◎	◎					
	57	「ちょボラ」活動の推進 自治会等と協力して、定期的な美化活動等に合わせた「ちょっとしたボランティア」活動を推進し、コース整備などを推進する。	1～5	◎	◎	◎					
	31	白岡遺産保存活用市民会議の設置（再掲）	1～5	◎	◎	◎					

第6章 文化財の一体的・総合的な保存と活用

1 関連文化財群の設定

(1) 関連文化財群の目的

当計画における歴史文化とは、いわゆる文化財6類型にとどまらず、文化財とそれを取り巻く自然環境や周辺の景観、地名や伝承、伝統的な生活文化さらに文化財を守り支える人々の活動などを含めた総体であると捉えています。

白岡の多様な文化財の価値や魅力を十分に理解したうえで、保存と活用のバランスの取れた保護施策を考えていくために、歴史文化の特徴を把握することは不可欠であるといえましょう。

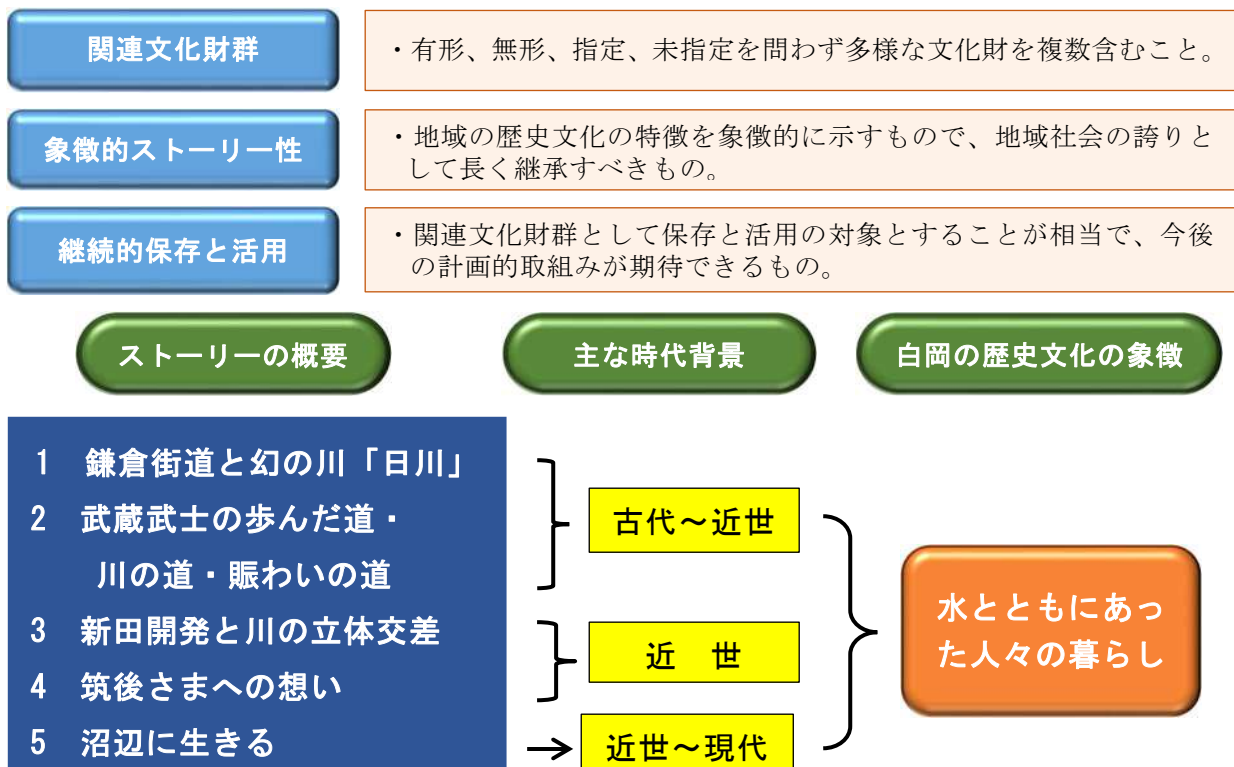
前章までで扱った、既往の諸調査の結果や関連文献などを踏まえ、文化財を育んだ地域の情報や総合的な文化財の把握などを行うとともに、第4章で詳述したように、市民の有志を募ってワークショップを開催しました。

市民の皆さんとともに「白岡市民として誇りうるもの」、「守り伝えていきたいもの」などを考え、白岡の歴史文化の象徴として設定することで、より親しみやすい関連文化財群とし、地域の文化財を地域で守る仕組み作りと気風作りの礎とすることが関連文化財群設定の目的に他なりません。

(2) 関連文化財群の考え方

市内に所在する様々な文化財の総合的な保存と活用を行うモデルとしていくつかのストーリーで関連付けた文化財群を設定します。

この文化財群は、市民の皆さんとともに実施した「みんなで作ろう！白岡遺産ワークショップ」の成果を基に、以下の観点から設定したものです。第3章で示した白岡市の文化財の特徴を踏まえながら、ストーリー性を重視した編成としたものです。



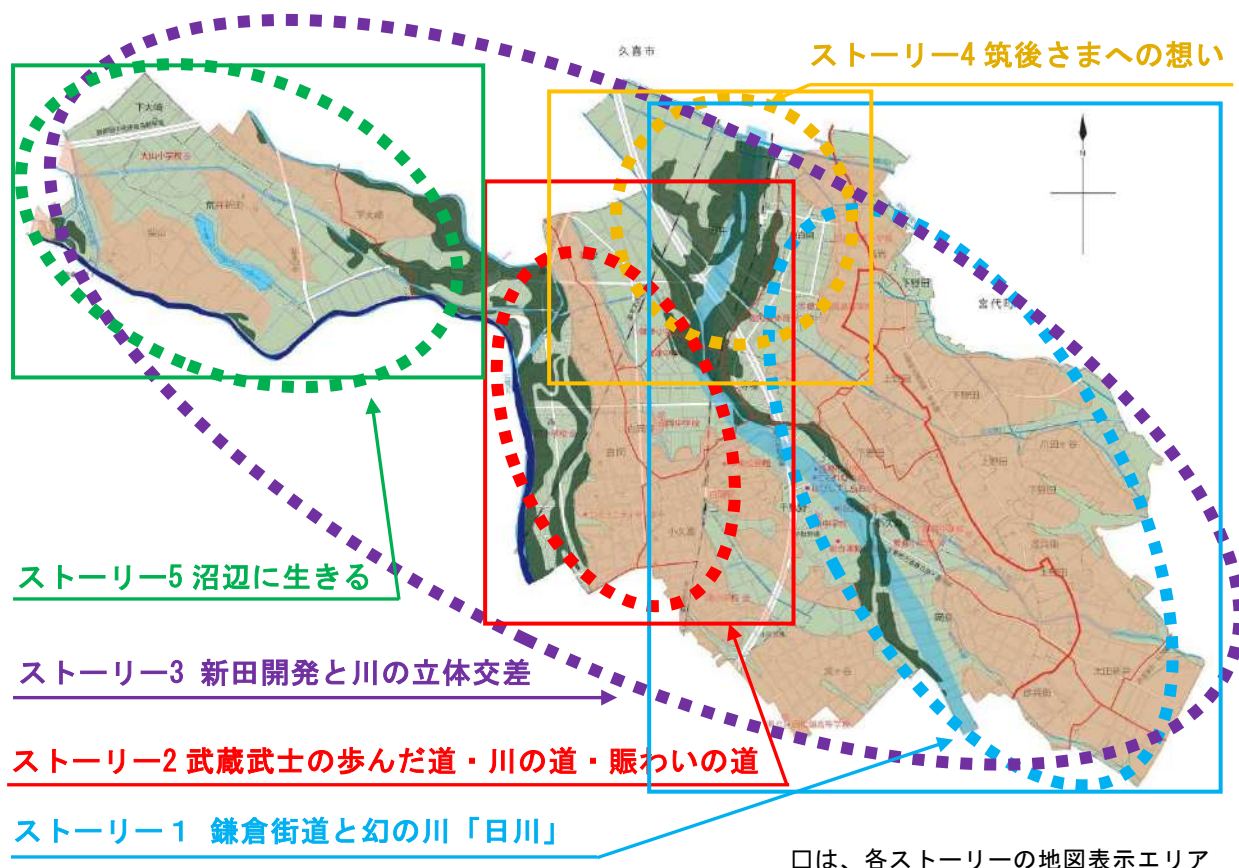
(3) 白岡市の関連文化財群

5つのストーリーを音楽にたとえてみましょう。それぞれのストーリーの奏でる音楽は一つの旋律として心地よい響きを持ち、序章からクライマックスへの物語を持ちます。そのストーリーをいくつか重ね合わせると、音の響きは格段に美しく広がり、聴く者の味わう感動もひとしおです。同様に各ストーリーに織り込まれた関連文化財群は、視点を変えたり、ほかの文化財と合わせて考えたりすることで、別のストーリーの中でも重要な意味を持ち、相互に補完しあうことで、見る者に新たな気付きをもたらします。

白岡市の関連文化財群では、5つのストーリーの中に重複して位置付けられる文化財があり、ストーリー相互に親和性や共通性が認められます。

ストーリー間に認められる親和性や共通性

番号	ストーリーの名称	地域性	主な時代性					キーワード				
			原始	古代	中世	近世	近現代	河川用排水	武士団	道	新田開発	人々の暮らし
1	鎌倉街道と幻の川「日川」	東部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道	中央部	○	○	○	○	○	○	○	○		○
3	新田開発と川の立体交差	全域				○	○	○			○	○
4	筑後さまへの想い	野牛地区				○	○	○			○	○
5	沼辺に生きる	西部				○	○	○			○	○



(4) 関連文化財群のストーリーと構成要素

ストーリー1 鎌倉街道と幻の川「日川」

関連文化財群のストーリー

市域東部に位置する大宮台地の慈恩寺支台を縦貫するように「鎌倉街道中道」に比定される道筋が残されています。沿線には、安楽寺、大徳寺、正伝寺、忠恩寺、上野田鷲神社、高岩天満神社など、中世起源の神社が並び、様々な伝承が残されています。この道筋をもとに近世には、日光御成道が整備され、江戸から11番目の一里塚が置かれました。

自然環境とのかかわりでは、台地の西側を中世期には利根川本流筋であった「日川」が流れ、西側の埼玉郡と東側の太田荘とを隔てています。

日川は、村々のつながりや信仰圏などにも大きな影響を及ぼしてきました。村々は、鎌倉街道でつながる岩槻や春日部との関係が強い傾向にあり、鎮守も日川西岸が久伊豆神社を祀っているのに対し、東岸では鷲神社を祀っており、神社分布の境界をなしていることがわかります。近代になると「日勝村」を構成するエリアの中核となります。江戸幕府の利根川東遷事業の結果、水流は途絶え、すでに川はありませんが、いまでも地域では親しみを込めて「日川筋」、「日川田んぼ」などと呼んでいます。

慈恩寺支台を開析し日川に開口する支谷の一つ「大日沼の谷」は、大徳寺の大日如来の御頭と御手を沈めておいたとの伝承を持ちます。この谷は、時代を遡ると、縄文時代から人々の暮らしの痕跡が残され、湧き水を使った木の実の処理などが行われていたことがわかっています。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	伝鎌倉街道中道	鎌倉時代に整備された3本の幹線のうちの1本と考えられています。古利根川の渡河地点に応じて、下野田地内で2筋に分かれていた可能性があり、一筋は高岩から現在の県道さいたま幸手線に沿って和戸へ抜ける道、もう一つは爪田ヶ谷から東条原を通して須賀へ抜ける道が想定されます。
2	安楽寺 薬師如来坐像 (市指定)	鎌倉街道沿いの中世寺院安楽寺に安置されており、胸板内面に「応仁二年(1468)祐栄法印 再興修理年代 朝日山本堂薬師如来(後略)」との墨書があります。
3	安楽寺 円空作菩薩形坐像 (市指定)	安楽寺の須弥壇に安置されていた像高11cm余の菩薩形坐像です。江戸時代前期の僧円空の手になるものです。円空が日光御成道沿いに残した一連の作品群の一つに数えられます。
4	大徳寺 大日如来坐像 (市指定)	大徳寺縁起によれば「元弘の乱」の折に、北条方の敗残兵に火をかけられ、大日如来の御頭と御手を「大日沼」に沈めて守ったとの伝承があります。昭和の修理の際に胎内から手が発見され、この伝承が確かめられました。
5	大徳寺縁起	前述の大日如来の伝承をはじめ、新田義貞、脇屋義助らにまつわる伝承や、寺の規模や伽藍に関する伝承などが記されています。
6	正伝寺 聖徳太子立像	正伝寺は岩付(槻)城主太田(北条)氏房が奉納したと伝えられる聖徳太子自作の面を納めた太子像を安置しています。
7	忠恩寺 忠恩寺文書 (市指定)	忠恩寺は渋江兼重为天喜2年(1054)に開基したと伝えられる寺で、天文22年(1553)岩付(槻)城主太田資正が発給した棟別免許状や永禄2年(1560)に上杉輝虎(後の謙信)に尋ねられた折に応えた内容として伝えられる「高岩山由来」(写本)、近世では徳川家からの朱印状9通などが伝えられています。
8	折原家金銅仏	野田村の草分けの家柄の家に伝えられる薬師如来立像です。初代が南朝の落武者として関西から来たときに、髷の中に入れてきたとの伝承があります。
9	忠恩寺 山門 (市指定)	朱塗りの八脚門で、享保年間の村絵図には、仁王門とあり、2層構造として描かれています。幾度かの修理を受け現在の形となったものと思われます。
10	忠恩寺 十三仏 (市指定)	安永8年(1779)の銘を持つ舟形の石塔です。十三仏の信仰は南北朝期から盛んになったといわれています。江戸中期の庶民の仏教信仰の様子を伝える資料です。
11	忠恩寺 九品仏 (市指定)	舟形光背を持つ9体の阿彌陀如来坐像と造像の経緯や造像に協賛した日川筋兩岸を中心とする48村の銘が記されています。
12	高岩村絵図	江戸時代中期享保年間(1716~1736)に描かれた村絵図が残されています。忠恩寺の様子のほか、当時の道筋や集落の様子を知ることができます。
13	赤砂利遺跡出土和鏡	善哉中学校の体育館改築工事に先立って行われた発掘調査で出土したものです。口禿の白磁小皿や櫛とともに墓坑から出土しました。大徳寺の寺域や、鎌倉街道中道沿いの集落の存在を裏付ける資料です。

14	清左衛門遺跡道路状遺構	現在の県道さいたま幸手線沿線で行った発掘調査で、大徳寺側へ延びる硬化面を伴うごく浅い溝状の遺構が検出されました。全体像が把握できたわけではありませんが、「道路」の痕跡である可能性があります。
15	石橋供養塔	爪田ケ谷の爪田ケ谷橋のたもとに建てられたもので、嘉永3年(1850)に架設したものを明治18年(1885)に加増したことなどが記されています。また、「南いわつきへ二里、しをんじへ老里十丁 北さつてへ二里、すぎとへ一里」など道しるべとしても利用されています。
16	清左衛門遺跡	縄文時代前期から晩期にかけての複合遺跡です。集落形成の中心となるのは、縄文時代中期末葉から晩期中葉で、「大日沼の谷」に面して縄文時代後期の水場遺構4基のほか、縄文時代晩期の墓坑群などが確認されました。集落本体は日川の支谷に面していますが、人の移動や交易には日川沿いの道筋が使われたことでしょう。また、土坑内に形成された地点貝塚の貝なども日川沿いに採集に出かけたものと思われます。
17	高岩天満神社奉納絵馬群 (市指定)	初見は文政11年(1828)、絵馬24面、扁額15面からなる奉納絵馬群です。学問の神様天神社らしく、俳諧、短歌、裁縫などの上達祈願絵馬が特徴的です。また、円面金箔押しの絵馬「神馬献上」などは秀逸です。
18	日光御成道 一里塚 (県指定)	日光御成道沿いに築かれた江戸から11番目にあたる一里塚です。東西両塚が残る県内唯一の事例です。杉並木が失われた今日、往時を伝える数少ない遺産です。
19	濱田家文書 (一部市指定)	上野田村の名主家であり、近世を中心とする村政資料が豊富です。日川田んぼ周辺が領主一橋家の「御捉飼場」であったことから、短筒火縄銃とその鑑札、銃借用の背景や地域の状況などのわかる古文書なども残されています。
20	澁谷家文書 (市指定)	岡泉村の村役人格の家で、近世・近代文書や典籍約750点から構成されます。近世の日川田んぼや日川関係の水利、普請その他の状況をよく表しています。特に、大正から昭和前期に日勝村長を務めた澁谷塊一の残した日勝村関係の文書群や、塊一と親交の深かった北原白秋との往復書簡などは貴重です。
21	上野田鷲神社	古くは高祖明神社といったようです。天文22年(1554)銘の鰐口が掲げられていたと伝えられ、中世「野田村」であった時代の草創であることがわかります。鷲神社を勧請するのは日川東岸の村の領域であったことの証です。
22	下野田鷲神社	野田村分村後に祀られたものと思われます。境内には、不二講の女孝心の供養塔があり、当時の民間信仰や道徳観を示す資料としても貴重です。
23	ひこべえの森	彦兵衛下小笠原地区に所在する1.2haほどの雑木林です。『武蔵国郡村誌』にも「上下小笠原林・民有に属す」と見えるもので、市内でも貴重な平地林です。林床には、カラタチバナやシュンランなどの絶滅危惧種も見られます。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		大徳寺の三十三間堂・大日如来伝説、正伝寺開山様信仰、正伝寺聖徳太子伝説
関連文化財群と関連の深い人物		脇屋義助、吉田将監、渋江兼重、太田資正、渋谷塊一、大長益善



高岩天満神社奉納絵馬・神馬献上



忠恩寺山門



早春のひこべえの森



大徳寺大日堂鋪地儀絵図 (浜田家文書)



一里塚



太田資正棟別免許状 (忠恩寺文書)



折原家金銅仏



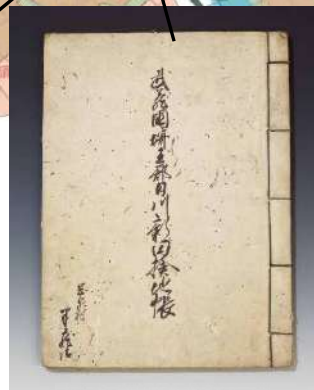
大徳寺縁起 (部分)



木造薬師如来坐像 (安楽寺)



現在の日川新田半蔵受地周辺



日川新田検地帳



日川新田半蔵受地周辺絵図 (澁谷家文書)

ストーリー2 武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道

関連文化財群のストーリー

篠津の台地上に人々が暮らし始めるのは、旧石器時代後期のことです。その後、荒川の砂鉄を原料に鉄生産を始めた人々が篠津の地に住み着きます。荒川に合流する星川や台地のすぐ東側を流下していた利根川本流筋の日川は、交通交易に絶好の環境であったはずで。

やがて中世初頭になると、利根川筋と荒川筋の最接近点であり鉄生産の拠点であった篠津に目をつけた豪族が土着します。武蔵七党に数えられる野与党鬼窪氏です。鬼窪氏は、白岡支台ほぼ全域を勢力下に治め、血縁のある氏族は周辺に拡大していきます。篠津から白岡にかけての台地西縁部には、中世起源の寺社とともに、多数の館跡が並びます。現在の篠津観音堂から篠津小学校前を通り寺塚へ抜ける道が「のよみち」と呼ばれるのは、中世からの古道であり、人々の生活の中に野与党がいまだに生きている証拠でもあります。

やがて近世を迎えると篠津の地は、日光街道粕壁宿と中山道鴻巣宿とを結ぶ脇往還の町場として栄えるとともに、元荒川の水運を利用して、近郊の木綿流通の拠点となったことが知られています。幕末には、木綿問屋「篠川」の財力を背景に、久伊豆神社の社殿彫刻や各耕地に残されている豪華な彫刻の5台の山車などが作られ、名実ともにこの地域の中心地として成長を遂げます。

この彫刻を手掛けたのは、野州阿蘇郡から来た彫工達でした。この中に「立川音吉(芳)」という人物がいました。当時はまだ二十歳の若者だったと思いますが、「篠川」は音吉を篠津に住まわせ、職人として一本立ちさせます。その音吉の孫「立川金禄」は、戦後、「軍鶏」を題材として日展入選22回を誇る彫刻家となります。

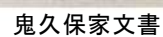
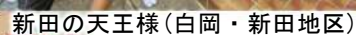
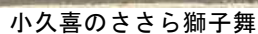
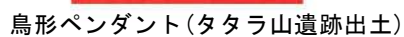
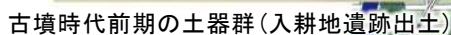
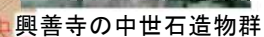
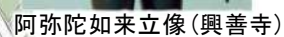
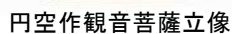
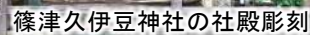
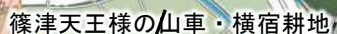
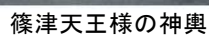
人や物資が集まり、商工業が発達すると「読み書き算盤」の必要性が高まります。そのようなとき、黒浜村に生まれた大野雅山が篠津で開塾します。大野塾は近隣から塾生を受け入れ、近代の学制施行後は篠津学校へと続き、地域の教育を担っていくこととなりました。

篠津の歴史は、河川からの恵み、河川交通と陸上交通などの流通の恵みを得たものであるといえます。古代から連綿と続く人々の営みが、「河川」「流通」「交流」などのキーワードをつなぎ、「芸術」や「学問」へと発展を遂げたのです。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	入耕地館跡	白岡八幡宮と別当寺正福院とを結ぶ位置にある14世紀から15世紀中頃の館跡です。観応の擾乱に際して出された高麗経澄軍忠状(町田家文書・埼玉県指定)にみられる「鬼窪にて旗揚げ」の推定地です。
2	鬼窪尾張繁政(南鬼窪氏)館跡	『新編武蔵風土記稿』の小久喜村の条に出てくる「旧家の者文平」が、先祖を鬼窪尾張繁政と称しています。発掘調査の結果でも16世紀後半の館であることが確認されています。
3	寿楽院	鬼窪尾張繁政が菩提寺として元亀2年(1571)に開基した寺院です。鬼窪尾張繁政館跡に隣接しています。
4	小久喜久伊豆神社とささら獅子舞(市指定)	小久喜村の鎮守として信仰を集めています。「鬼窪尾張繁政館跡」や「寿楽院」と隣接することから、鬼窪氏との関係が強いものと思われます。毎年4月に奉納される「小久喜の獅子舞」は地元では「クンキのささら」と呼ばれて親しまれています。
5	白岡八幡宮	建久6年(1195)、源頼朝の命を受けた鬼窪某が社殿を造営し、社領100貫文が寄進されたと伝えられます。
6	正福院	嘉祥2年(849)、白岡八幡宮、興善寺とともに創建と伝える古刹です。建久6年の八幡宮の社殿造営の際、真言宗に改宗したといいます。
7	興善寺	文亀2年(1502)、菖蒲城主佐々木氏綱を中興開基、季雲永岳禅師を中興開山として曹洞宗に改宗したと伝えられます。神山遺跡の発掘調査では、上幅7m、深さ3mの堀をめぐらせており、佐々木氏の館の一つとして機能していたことがうかがえます。
8	中妻遺跡	縄文時代及び古墳時代から中世にかけての複合遺跡です。8世紀前半の小鍛冶工房跡が検出されており、荒川の砂鉄を原料とした鉄の精錬が行われていたことがわかっています。中世館跡に伴うと見られる堀跡や建物跡も見つかっており、鬼窪氏にかかわる遺構群と考えられます。
9	神山遺跡出土金銅仏	興善寺の寺域から出土した天部形立像で、平安時代末期に遡るものと推定されます。
10	鬼久保家文書(市指定)	代々小久喜村の名主を務めた鬼久保家に伝わる近世から近代にかけての史料群で、3,648点からなります。近代では、白岡駅開設に係る史料などが興味的です。

11	木造達磨大師像 (市指定)	興善寺に安置された寄木作りの裳裾垂下像で、室町期の作と推定されます。煤けて漆黒ですが、背面や法衣の襷には緋色の彩色が残されています。
12	興善寺中世石造物群 (市指定)	板石塔婆 1、宝篋印塔(部分)6、五輪塔(部分)1 からなる資料群です。板石塔婆は、初発期の特徴を備えた厚みのある阿弥陀一尊種子が刻まれたもの、宝篋印塔は建武年間(1334～1338)銘 1 個体、延文 2 年(1357)銘のもの 2 個体など、14 世紀前半から半ばに位置するものを含みます。
13	鬼窪八幡宮鰐口(白岡八幡宮・市指定)	「武州寄西郡鬼窪八幡宮鰐口」「享徳五年丙子八月十五日聖秀尊」の銘を持ちます。享徳 5 年は康正 2 年のことで 1456 年に当たります。鎌倉公方方は康正への改元を認めず、享徳を使い続けている事例が見られます。この時期鬼窪郷が鎌倉公方方の勢力下にあったと見ることもできるかもしれません。
14	篠津久伊豆神社社殿 (市指定)	篠津久伊豆神社の本殿には、きわめて精緻な伽藍彫刻が施されています。安政元年から 5 年の歳月をかけて完成したと伝えられます。
15	篠津天王様の山車(5 台) (市指定)	篠津の各耕地には、いずれ劣らぬ彫刻を施した山車が伝えられています。久伊豆神社の社殿彫刻と同時期に順次作られたようで、野州阿蘇郡の立川流の宮大工の手になるものであることがわかっています。
16	篠津天王様の神輿 (市指定)	篠津の須賀神社に伝わるもので、元治元年(1864)の修理銘が残されています。平成の大修理の折に、串作村(現加須市)の飾り職の銘が見つかり、在地で設えられたことがわかりました。
17	円空作観音菩薩立像 (市指定)	元荒川に架かる「茅野の渡し」の渡し守を務めた家に残されたもので、同家では「先祖様」と呼んで簡素な厨子に納めて仏壇に安置しています。旅の僧侶が宿泊のお礼に残していったという伝承も残されています。
18	大野家文書	大野雅山は、嘉永 5 年(1852)篠津村に漢学塾を開きました。明治維新後学制が布かれると、大野塾を母体として篠津学校が開かれ雅山は篠津学校でも教鞭をとっています。幕末から維新の変革期の地域教育の様子を伝える史料群です。
19	観音堂笠付地藏 (市指定)	篠津観音堂に 2 体の地藏菩薩像が奉納されています。お地藏様といえば、頭を丸めた僧形であることが多いですが、この 2 体には、石造の笠が被せられています。しかも後から被せたものと思われ、人々の優しさと信仰の深さが感じられます。
20	元禄 15 年庚申塔	篠津道中橋の袂、青雲寺の近くに、元禄 15 年(1702)銘の庚申塔が残されています。青面金剛の浮彫立像のある側面に「東方さつてみち 西方かうのすみち」と刻まれています。天王様の神輿も道中橋まで来て引き返します。道中橋が篠津村の出入口に位置していたことを意味しています。
21	立川金禄の作品群	立川金禄は、篠津天王様の山車彫刻や久伊豆神社の社殿彫刻を手掛けた立川音吉(芳)の孫に当たります。金禄は、後に日展参与となる橋本高昇に師事し、第 1 回正統木彫家協会展に「軍鶏」を出品します。その後日展入選 22 回など彫刻家として活躍しました。
22	興善寺朱印状 (市指定)	興善寺は、天正 19 年(1591)徳川家康から寺領 15 石の寄進を受け、その後歴代 11 将軍の朱印状が伝えられています。
23	元荒川	綾瀬川と並ぶ荒川本流筋の一つです。大宮台地の白岡支台にぶつかり流れを南へ変えます。白岡支台での鉄生産の原料供給や流通に果たした役割は大きなものがあります。
24	日川	古代・中世では利根川の主要流路の一つとして、埼玉郡を東西に分ける領域境界となる重要な河川でした。篠津付近で荒川水系と最接近しており、篠津を交通交易の要衝たらしめた重要な河川でした。利根川東遷によって会の川が締め切られると水量が減少しました。
25	星川	篠津で元荒川と合流する荒川水系の河川です。上流には菖蒲や忍などの軍事や経済拠点があり、流路を使った交通交易に一定の役割を果たしていたものと思われます。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		篠津天王様、野与道、西光院の狸、ねずみ浄土、慈照院はチンピロリン、赤池、馬立、大野塾、篠川
関連文化財群と関連の深い人物		鬼窪氏、佐々木氏、菱沼、立川音吉(芳)、立川金禄、大野雅山



2021~2026

ストーリー3 新田開発と川の立体交差

関連文化財群のストーリー

市域全体に勾配のゆるい土地柄です。特に水田地帯では、4,000分の1といわれる(4Km進んで1m下がる)緩傾斜であることに加え、排水の悪い河川後背湿地や沼地が多いこと、さらに大山地区などでは埋没ロームの存在が排水問題に拍車をかけてきました。

この地域の近世以降の歴史は、河川改修と新田開発の歴史といっても過言ではありません。各用排水路はもちろん、これに伴う樋管、込樋、堰、橋などの構造物のほか、新田開発や災害、争論の様子などを示す村方の古文書類、争論の裁許状や裁許絵図などが残り、水の恵みと災いにかかる地域独特の状況が浮き彫りにされます。歳月を重ねながら、人々が知恵を出しあって折り合いをつけてきた結果、多数の用排水路が網の目のように配され、ところどころで、水路が立体交差する状況も生じました。サイフォンの原理を用いた「伏越」や掛け樋を用いた「背越」などの構造は、開削はもちろんその後の管理にも大きな労力が必要でした。市内には、こうした川の立体交差が柴山伏越をはじめ9か所知られています。

苦勞して開発した新田ですが、農民は大水や長雨による水損にも苦しめられています。田が水につからないように堤を築いたり水口を開閉したり日常の管理が重要でした。ひとたび出水すると、堤の上郷と下郷との間で堤を切るか切らないかの騒動が持ち上がります。しばしば争論となり、お上の裁定を仰ぐことになります。こうした争論に関する絵図や裁許状は当時の水利を知る上で貴重な資料となります。

排水路を掘り、後背湿地を切り拓き美田に変える作業の裏側には、先人たちの苦勞の歴史がありました。各用排水路の開削の結果生じた「川の立体交差」は、この地域の自然風土と人々の知恵との結晶だといえるでしょう。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	柴山伏越	享保12年(1728)見沼代用水の工事が始まります。見沼代用水は元荒川の下をサイフォンで潜り抜けるとともに、「掛渡井」で渡る工法が採られました。しかし掛渡井は、宝暦10年(1760)に廃止されます。これに伴って見沼通船は橋戸で積荷を陸送に積替えることとなり、橋戸は積替え基地として栄えました。
2	三十六間樋管	栢間沼の排水路である栢間(隼人)堀川が野通川と見沼代用水の下を越えて流下する地点です。逆流を防ぐため樋管の途中に段差が設けられています。越えたところが現在の隼人堀川の起点となっています。
3	二十六間樋管	星川の下を栢間(隼人)堀川が越えます。直後に栢間(隼人)堀川は、白岡支台を素掘りして約5m開削して横断します。
4	伏越橋	篠津の台地を横断した栢間(隼人)堀川が黒沼用水と交差します。伏越と掛け樋の両者が用いられました。
5	庄兵衛堰杵(市指定)	庄兵衛堀川旧流路に残された煉瓦製一部石製の堰杵です。庄兵衛堀川の水をここで堰き止め、野牛・高岩方面へ配水する機能を持っていました。明治40年竣工で、「上敷免製」の刻印煉瓦が用いられています。
6	白石様堀	正徳3年(1713)新井白石が野牛の排水のために開削した水路で、現在の野牛高岩落川の上流部にあたります。「殿様堀」とも呼ばれます。
7	見沼代用水	現在のさいたま市見沼区付近にあった見沼溜井を干拓するために、井澤弥惣兵衛が、開削した水路です。現在の行田市須加の利根川から取水する水路で、わずか8か月で完成させたといわれます。これによって、埼玉県東部に散在していた沼地の開発が加速されていくことになります。
8	黒沼用水	上大崎(現久喜市)の十六間堤の上流で見沼代用水から分水し、樋ノ口(現久喜市)を抜けて篠津地域を貫流する用水路です。篠津で隼人堀川と、岡泉で三ヶ村落堀と、太田新井で新堀と交差しています。
9	笠原用水	樋ノ口(現久喜市)で黒沼用水から別れ、市域の北東部を潤しています。爪田ヶ谷で姫宮落川と、上野田で野牛高岩落川と立体交差しています。
10	隼人堀川	大日沼の排水を目的に江戸前期に開削されたと伝えられています。その後、栢間堀川を含めて隼人堀川と呼ばれるようになります。市域を東西に貫流する基幹排水路として、現在も大きな役目を担っています。
11	姫宮落川	河原井沼(現久喜市)の排水を目的に近世前期に開削された水路です。市域の東部を流下し宮代町に抜けます。大河内金兵衛が開削したといわれ、「金兵衛堀」とも呼ばれます。
12	備前堀川	市域の北端を東流する水路です。江戸前期に関東郡代伊奈備前守が開削させたとされています。鴻荃(現加須市)に端を発し清久、河原井周辺(現久喜市)の排水路としての機能を果たしています。

13	庄兵衛堀川	河原井沼(現久喜市)の干拓時に排水路として開削されたものといわれています。三箇・台(現久喜市)付近を源とし、篠津で隼人堀川に合流しています。
14	山城堀	貞享元年(1684)岩槻藩主戸田山城守の命により小久喜、千駄野、実ヶ谷のほか蓮田市域の江ヶ崎、長崎などの地域の排水、水害防止と下流域の灌漑を目的に開削された水路で、古墨田川に排水されています。
15	新堀	山城堀は上郷の湛水排除が目的であったため、下郷との争論が絶えませんでした。このため、山城堀に代わる排水路として明治元年(1868)から開削工事が始められました。新堀は、太田新井で黒沼用水と立体交差し隼人堀川に排水されます。
16	白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許状(細井家文書)	寛文10年(1670)白岡村と小久喜村、千駄野村との間で行われた争論で、白岡村の排水を日川へ落とすことの是非を裁許したものです。双方の湛水、排水に関する争いとして、当時の治水の様子を知ることができる資料です。
17	白岡村新宿村水除堤争論裁許状(細井家文書)	寛文10年(1670)白岡村と新宿村(現蓮田市)との間で、旧星川流路沿いの排水と新田開発について争われたものです。判決は、白岡村の勝訴で、新宿村の新田を廃して排水路の確保を命じたものでした。当時排水に苦労していた様子がうかがわれます。
18	堤土置争論裁許状(田口家文書・市指定)	元禄5年(1692)に、上郷の新堀・小林・栢間(現久喜市)と下郷の柴山・丸谷(現久喜市)との間で争われた、水除堤のかさ上げや新設についての争論で、判決は上郷の勝訴でした。沼地の多い地域での排水は大問題であったことがわかります。
19	富士庫家文書	宝暦12年(1762)から着手された「彦兵衛新田」の開発に関する文書群です。町人請新田の様子がよくわかる史料です。
20	鬼久保家文書(市指定)	前掲
21	細井家文書	白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許状や白岡村新宿村水除堤争論裁許状を含む、近世から近代にかけての白岡村の村役人家に伝えられた史料群です。
22	澁谷家文書(市指定)	前掲
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		川や水路が集落の結界となることが多く、橋での道切りや災禍を流す行事、風習あり。篠津天王様ほか、あんばさま(高岩)論所堤、名尻堤、荒井新田、彦兵衛新田、亥開、岡泉新田(日川新田)、千駄野(小久喜新田)、大沼(柴山沼)ホツツケ、舟遊び、魚とり(釣)
関連文化財群と関連の深い人物		大河内金兵衛、戸田山城守、新井白石、伊奈備前守、井澤弥惣兵衛、山崎禮助、新兵衛・彦兵衛



堤土置争論裁許状(田口家文書)



白岡村新宿村水除堤争論裁許状(細井家文書)



日川新田半蔵受地周辺絵図(澁谷家文書)



白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許状(細井家文書)



ストーリー4 筑後さまへの想い

関連文化財群のストーリー

新井白石は、6代將軍徳川家宣の儒臣として様々な政策を繰り出します。正徳の朝鮮通信使来日に際して従五位下筑後守に任ぜられた白石の知行地は、はじめ比企郡の奈良梨村と越畑村と野牛村の3村で500石でしたが、通信使供応約の功績で相州高座郡に500石加増され、合計1,000石となります。この折白石は、奈良梨村と越畑村を返納し野牛村一村としたい旨願い出て許されています。この時の喜びは、『折たく柴(の記)』にも記されています。

丘陵部で水が冷たいうえに開発の余地がない奈良梨(ならなし)村と越畑(おっぱた)村に比べ、未開の後背湿地とはいえ、日川の運ぶ肥沃な土壌に支えられた野牛村は、うまく排水を行い開発すれば、村高以上の豊かな村にすることができると考えたのでしょう。

白石は、後背湿地の排水路「白石様(殿様)堀」を開削させ、見事な美田に変えたほか、救荒対策として「郷倉」を設け、食糧の備蓄を奨励しています。このほかにも、村方の争いごとに裁定を下した文書が残されているなど、村政にも大きな影響を与えていたことがうかがえます。

白石は、村の鎮守である久伊豆神社の扁額の題字を正徳の朝鮮通信使製述官の李磻(イヒョン)に揮毫してもらい、これをもとに作らせました。この扁額は下書きとともに伝えられているほか、白石5世の子孫新井成美が奉納した肖像画が観福寺に残されています。

このほかにも、白石の著作『折たく柴(の記)』の写本が伝えられているなど、自らの領地を思う白石の気持ちとこれに応える村人たちの心意気も感じられます。

白石に対する強い尊敬の念、顕彰の思いは、毎年白石の命日である5月19日の「筑後様まつり」として継承されて行きます。昭和10年代に途絶えますが、近年、途絶えていた行事が復活したことは、地域の歴史文化の興隆に大きく寄与するものとして評価に値します。

土地改良工事に伴って埋没種子から発生した古代ハスは、中の宮の蓮池で毎年見事な花を咲かせてくれます。白石の時代から連綿と受け継がれた圃場を大切に人々の気持ちが一つとなって咲かせた蓮の花だといえましょう。

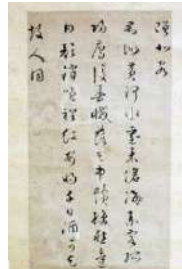
構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	白石様(殿様)堀	前掲
2	郷倉跡(記念碑)	新井白石が救荒対策として設けた「郷倉」の跡地です。旧法に基づいて埼玉県遺跡保存会指定となったことを記念して、昭和3年に「白石公報恩会」が設置した記念碑が建てられています。
3	笠原用水	前掲
4	庄兵衛堀川と庄兵衛堰柵	前掲
5	日川流路跡・自然堤防	古い航空写真などでみると日川の流路跡と見られる痕跡や自然堤防が確認できます。新白岡駅周辺の土地区画整理や圃場整備などで旧地形がわからなくなりつつありますが、当時の野牛村の様子を知る上で、地形を知ることは大切です。
6	姫宮落川	前掲
7	備前堀川	前掲
8	石橋供養塔	郷倉跡に1基の石橋供養塔があります。これはどこからか移設されてきたもので、すでにどこにあったのかわからなくなっていますが、この供養塔のものと思われる石材が、土地区画整理地内から見つかりました。現在は「白石様堀公園」入り口の敷石として見るすることができます。
9	野牛久伊豆神社扁額・下書き(市指定)	野牛久伊豆神社の扁額は、白石が正徳の朝鮮通信使来日のおり、製述官の李磻(イヒョン)に頼んで揮毫してもらった下書きを基に彫られたものです。下書きとともに大切に伝えられています。
10	新井白石自筆漢詩(市指定)	野牛村の名主家に4編の漢詩を装丁した軸が伝えられています。このうち最上段に置かれた一編が「贈北客」と題した白石の自筆と見られる漢詩です。最下段には「秋夜百感」と題した新井成美の漢詩も添えられています。新井家と野牛村との文化的交流を伝える資料といえます。
11	紙本着色新井白石画像(市指定)	観福寺に伝えられた新井白石の肖像画です。眉間に刻まれた深い皺や鋭い眼差し、一文字に結んだ口元から強い意志と清廉な心持ちがうかがえます。裏書から白石五世の孫新井成美によって3幅作られ、領地の寺に納められたものであるとわかります。
12	折たく柴(の記)	「折たく柴(の記)」は、白石が子孫に向けて書き残した三巻からなる伝記です。新井家のことや自身の功績などとともに、子孫への戒めなどが記されています。もちろん、野牛村を拝領したときの喜びも記されています。
13	大久保家文書(市指定)	野牛村の名主家で、初見は、天正5年(1577)の北条氏繁判物です。中世文書として貴重です。このほか、村人の争論に関する新井白石の裁許状や村政に関する資料も残されています。

14	久伊豆神社絵馬群	数は多くありませんが、伊勢参拝記念など大絵馬、掲額が残されています。
15	筑後様まつり	昭和10年代まで白石公報恩会が主体となって毎年5月19日の白石公の命日に感謝の念をこめて開催していたといいます。第2次世界大戦で途絶えていましたが、野牛文化財愛護会が中心となって平成30年に復活させました。地域の文化財を使って、新井白石と地域とを結ぶ新たな取り組みとして注目すべき行事です。
16	観福寺の宝篋印塔	観福寺の墓所にある宝篋印塔の台石には、安政の大地震と関東大震災で倒壊した塔を修復した記載が残されています。災害の記録として貴重な資料です。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		庚申講、御嶽講、おしっさま、鷹匠湯、片葉の葦、古代蓮
関連文化財群と関連の深い人物		新井白石、李磎



白石様堀



白石自筆漢詩



北条氏繁判物(大久保家文書)



野牛久伊豆神社扁額



扁額下書き



郷倉跡記念碑



折たく柴(の記)



蓮河原の古代ハス



復活した筑後様まつりの様子



紙本着色新井白石画像



野牛久伊豆神社

ストーリー5 沼辺に生きる

関連文化財群のストーリー

柴山沼を中心とする元荒川や星川の形成した沖積地や後背湿地に立地し、下流を埋没ロームで閉ざされているため排水が悪く、湛水に苦しめられてきました。柴山沼を囲む柴山、荒井新田地区には、柴山沼の内水氾濫に備えた「水塚」が多く残されています。県東部地域は元来水塚の多い地域ですが、多くの水塚は利根川や中川などの大河川の流域にあります。しかし、柴山沼や久喜市菖蒲町の栢間沼周辺の水塚は沼の内水氾濫に備えたものと考えられ、沼に近いほど高く、遠ざかると低くなる傾向を示します。

沼の周囲の村々の暮らしは排水に悩まされながらも、恩恵にもあずかっていたようです。柴山沼や皿沼周辺には「ホツケ」と呼ばれる「掘上田(ほりあげだ)」が発達し、掘り潰れの水路は集落内まで引き込まれ、舟による沼との往復や作物の運搬などに使われていたといえます。水害時にはこの舟で物資の輸送が行われたり、避難に使われたりしたといえます。現在も軒下に舟を下げてある家々が多数あります。

また、沼周辺の入会権に関する争論裁許絵図などが残されており、周辺各村が利用することのできる範囲などが決められていたことがうかがえます。この範囲では、「藻草刈」を行い、肥やしを作ったり雑魚を獲ったりすることが許されました。農閑期には、魚とりや釣などが盛んに行われていたようです。

特産の梨栽培が盛んになった理由も、地下水位が高くみずみずしい梨がとれることによるといいます。

また、近世から近代に見沼代用水を使った舟運で栄えた土地でもあります。野通川と元荒川との合流点近くの「橋戸」地区は、見沼通船の終点平野河岸から陸上交通への積替え拠点として栄えました。規模の大きな集落ではありませんが、かつては、多くの商店が軒を連ね町場が形成されたといえます。

石造りの蔵屋敷や野通川に架かる鉄橋、水制工などが当時の様子を今に伝えています。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	柴山伏越	前掲
2	見沼代用水	前掲
3	元荒川	前掲
4	星川	前掲
5	柴山伏越改造之碑	明治20年4月に建てられた碑で、撰文は中島撫山、篆額は埼玉県知事吉田清英によるものです。
6	野通川の水制工	橋戸集落の大栄橋上流で野通川が東に大きく蛇行します。この蛇行部に木杭を打ち込んだ水制工が見られます。
7	柴山沼(大沼)	星川、野通川、元荒川流域に形成された後背湿地群のひとつで、県内の自然湖沼では、伊佐沼(川越市)に次ぐ面積を持ちます。江戸中期の新田開発期に皿沼、笠原沼、河原井沼、黒沼などとともに関係され、徐々に縮小していきます。
8	皿沼	下大崎と荒井新田の間に所在した沼地です。江戸時代から「掘上田(ほつつけ)」として開発されます。近代になると山崎禮助によって大々的に開発されます。掘上田の堀潰れ水路は農閑期には魚とりなども行われました。
9	沼落堀	柴山沼からの排水路です。栢間堀(隼人堀)川に排水されます。
10	水塚群	柴山や荒井新田の集落には、柴山沼の内水氾濫に備えた「水塚」が残されています。利根川や江戸川流域の水塚と比べると高さは低いですが、水害に備える意識や水害の伝承は残されています。
11	三十六間樋管	前掲
12	栢間堀川	前掲
13	橋戸集落の建造物	見沼代用水を使った見沼通船は、柴山伏越の掛渡井を使って忍城下まで物資の運搬を行っていました。掛渡井廃止後は、上り下りの荷物は橋戸での積み替えが必要となったことから、橋戸は、物資の中継点として栄えました。このため、橋戸集落には、往時の繁栄の名残をとどめる建物が残されています。
14	井澤弥惣兵衛分骨墓	柴山伏越のたもとにある常福寺には、見沼代用水の開削を指揮した幕府勘定吟味役井澤弥惣兵衛為永の分骨墓があります。柴山伏越は規模の大きな建造物で、10年から20年に一度は伏替えが行われました。為永も常福寺から見沼代用水の安全を見守っていることでしょう。

15	旧大山民俗資料館(大山小学校旧校舎の一部)	旧大山民俗資料館は、昭和12年に建築した校舎の建替えに際して、その一部を移築改修して昭和56年7月に開館しました。主に民具を中心とした展示施設として平成29年9月まで一般公開していました。現在は、民俗資料の収蔵施設として維持していますが、木造の学校建築物としても貴重な建物です。
16	柴山諏訪八幡神社奉納絵馬(市指定)	柴山諏訪八幡神社は、菖蒲城主佐々木秀綱の創建と伝えられます。大絵馬50面が残されており、「源平合戦」「富士の巻狩」などのほか、「白蛇」や「誕生祝い」などの貴重なものも含まれます。
17	下大崎住吉神社奉納絵馬(市指定)	下大崎住吉神社は、慶長元年(1596)の創建と伝えられます。9面の大絵馬は、「直実と敦盛」「那須の与一」などの軍記物のほか、「釣舟」や「六歌仙」など作風の異なる絵師の手になると思われるものもあり注目されます。
18	下大崎全龍寺欄間彫刻	全龍寺には、立川金禄の手になる欄間彫刻が残されているほか、金禄が手がけた大型の油絵などが残されています。金禄は油絵も軍鶏を題材にしています。
19	岡安家金銅仏	下大崎村の村役人格の家に残された如来形の坐像です。仏壇の整理中に木製の仏像とともに厨子に納められていたといいます。南北朝期の作とみられます。
20	中島撫山墨跡群	大山地区の複数の個人宅に、久喜の漢学者で書家である中島撫山の作品が多数残されています。撫山の開く漢学塾「幸魂教舎」に近在の篤農家の子弟が学び、地域のリーダーとして育っています。こうした撫山の弟子たちが師匠の作品を買い、「幸魂教舎」の運営を支えたのでしょう。
21	堤土置争論裁許状	前掲
22	荒井新田の高札(市指定)	荒井新田村の名主家に5枚の高札が伝えられています。初見は天和2年(1682)の「切支丹宗門禁制」、続いて明和7年(1770)の「徒党強訴逃散禁制」そして、明治新政府によって出された五榜の掲示のうち「定三札」と呼ばれたものです。徳川幕府や明治新政府の政策が地方に伝達される状況がよくわかります。
23	入会沼争論絵図	正徳元年(1711)に、柴山沼の利用をめぐる柴山村・荒井新田村・丸谷村の間で起こった争論に関する絵図です。2年に及ぶ争論の結果、柴山沼は三村の入会地で、村ごとに「沼藻草銭」を納めることで決着しました。
24	川魚料理	柴山沼や皿沼、元荒川、野通川、星川の集まる柴山周辺では、川魚漁が盛んで、家庭でも食べられていたようです。また「橋戸」周辺にはウナギやコイ料理を出す川魚料理屋が営まれています。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		柴山天王様、柴山おししさま、下大崎とうろう、ナイダー、お囃子、いっとこ団子、蛇女房、住吉神社の石額、七不思議、魚とり、ほつつけ、揚舟、伏越の度胸試し、梨栽培
関連文化財群と関連の深い人物		井澤弥惣兵衛、山崎禮助、佐々木氏(菖蒲城主)、旗本南条氏、江原善兵衛



梨の花見(昭和初期ころ)



梨(新高)の収穫風景



梨栽培や出荷の用具(昭和30年代)



入会沼絵図



柴山沼周辺航空写真

被災水位のわかる
土蔵(荒井新田)

柴山沼の投網漁の様子



揚げ舟(柴山地内)



住吉神社奉納絵馬



井澤弥惣兵衛分骨墓(常福寺)



諏訪八幡神社奉納絵馬



堤土置争論裁許状(田口家文書)



現在の柴山伏越



元荒川常福寺橋周辺



柴山地内の水塚

2 関連文化財群の課題・方針・取組み

第5章で導き出した課題と基本方針に則りながら、5つの関連文化財群ごとの保存・活用に関する課題と方針そして取組みについて検討します。

関連文化財群① 鎌倉街道と幻の川「日川」

① 現状と課題

関連文化財群の設定がこの地域の文化財の総合的把握と一体的な保存・活用の出発点となります。課題を乗り越え成果に結びつける取組みが求められます。

- ・ 中世起源の寺社や「鎌倉街道」、「日川」を関連付けた調査が行われてきませんでした。
- ・ 各文化財について必要な修繕や保存処理などが行われていません。
- ・ 関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- ・ 地元と協働して文化財群を守る取組みが行われてきませんでした。
- ・ ストーリーの啓発手法の開発が必要です。

② 基本方針

基本方針は、第5章で導き出した4つの基本方針に沿ったものと、関連文化財群固有の方針に分けて設定します。関連文化財群① 鎌倉街道と幻の川「日川」に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針1 文化財を調べる

- ・ 中世寺社、中世遺跡、鎌倉街道、日川などの情報の蓄積を図ります。

◇基本方針2 文化財を守り伝える

- ・ 適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針3 文化財を知る

- ・ 関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針4 文化財をともに支える

- ・ 地域の関心を高め、「鎌倉街道」や「日川」などをともに守り伝える意識の醸成に努めます。

◆ストーリー固有の方針

- ・ 多様な啓発手法の検討、導入に努めます。

③ 保存と活用に関する取組み

既に第5章で示した取組みのほかに、5つの関連文化財群ごとに講ずべき取組みについて以下の通りとします。関連文化財群① 鎌倉街道と幻の川「日川」に関する取組みは以下の通りです。

* ゴシック体：再掲事業、明朝体：次期以降の計画反映事業、ゴシック体：今計画期間内に取組む事業

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
1	1	仏像・神像調査(再掲)	○	○	◎					
	2	建造物調査(再掲)	○		◎					
	5	中世資料総合把握調査(再掲)	○	○	◎					
	59	「日川」に関する情報の総合把握調査	○	○	◎					
	60	「鎌倉街道」に関する情報の総合把握調査	○	○	◎					
	61	正伝寺所蔵資料調査			◎					
2	62	仏像・神像の保存処理、修繕 大徳寺大日如来の仏手の保存処理を推進します。			◎					
	63	幻の川「日川」学習会	○	○	◎					
3	64	「日川」の恵み情報発信事業	◎	◎	◎					
	65	周遊ルートセルフガイドの発行 「鎌倉街道」を歩いて楽しめるコース設定とセルフガイドの発行、案内表示の設置に努めます。		◎	◎					
	47	文化財解説板の設置・改修(再掲)			◎					
4	32	文化財ボランティアの育成(再掲)	◎	◎	◎					
	57	「ちょボラ」活動の推進(再掲)	◎	◎	◎					
	58	白岡遺産地域協議会の設立支援(再掲)	◎	◎	◎					
◆	66	「大徳寺縁起」の普及		◎	◎					
	67	中世寺社巡り御朱印帳の発行		◎	◎					

関連文化財群② 武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道

① 現状と課題

関連文化財群② 武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道に関する現状と課題は以下の通りです。

- ・文化財同士を関連付けた調査検討が行われていません。
- ・古くから知られている文化財が多いですが、基礎データが蓄積されていません。
- ・篠津久伊豆神社の社殿彫刻と天王様の山車彫刻は、適切な保存処理が必要です。
- ・関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- ・文化財の解説板や文化財周遊コースの設定が必要です。
- ・篠津天王様のお囃子会や祭礼の運営協議会などの組織と協働した、文化財を守る取組が必要です。
- ・多様な要素をまとめる強固なストーリーと浸透力のある啓発手法の開発が必要です。

② 基本方針

関連文化財群② 武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針 1 文化財を調べる

- ・篠津、白岡地域の歴史的事象や文化財の総合的把握と情報の整理を促進します。

◇基本方針 2 文化財を守り伝える

- ・適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針 3 文化財を知る

- ・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針 4 文化財とともに支える

- ・「篠津天王様」や「白岡八幡宮」など、これまでも市民の心の拠りどころであった文化財に一層磨きをかけ、地域の歴史文化に誇りを持つ市民意識の醸成に努めます。

◆ストーリー固有の方針

- ・多様な啓発手法の検討、導入に努めます。

③ 保存と活用に関する取組み

関連文化財群② 武蔵武士の歩んだ道・川の道・賑わいの道に関する取組みは以下の通りです。

基本 方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年 次	2年 次	3年 次	4年 次	5年 次
1	68	鉄生産関連遺跡の把握促進 中妻遺跡、タタラ山遺跡のほか、炭焼窯の検出された遺跡などの確認、鍛造薄片の成分分析などの実施、近隣製鉄遺跡との対比を促進。			◎					
			目標値			鉄生産遺跡及び出土鉄製品の集成・類型化				
	5	鬼窪氏と中世遺跡群総合調査(再掲)			◎					
	69	篠津天王様の山車及び篠津久伊豆神社社殿彫刻等総合調査	○		◎					
	9	諸家文書調査(再掲)			◎					
	70	立川金禄作品の所在確認調査 立川金禄作品の所在確認と作品図録の作成を促進。	◎	◎	◎					
			目標値			市内の作品所在把握				
2	71	篠津久伊豆神社社殿彫刻の保存			◎					
	72	篠津天王様の山車模型作成			◎					
3	41	多様なニーズに即した講座の開催(再掲)	○		◎					
	73	トレカ「絵馬カード」であそぼ！開催 篠津久伊豆神社や白岡八幡宮等の奉納絵馬をカード化し、ルールを定めたカードゲームを製作するなど、遊びの中で文化財に親しむ企画を検討。			◎					
	47	文化財解説板の設置・改修(再掲)			◎					
4	32	文化財ボランティアの育成(再掲)	◎	◎	◎					

	57	「ちょボラ」活動の推進(再掲)	◎	◎	◎					
基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
4	58	白岡遺産地域協議会の設立支援(再掲)	◎	◎	◎					
◆	74	鬼窪氏顕彰の仕組み作り 名前のわかる一族のキャラクターを作成し普及活動のマスコットに使うなど、鬼窪氏の積極的PRに努める。	○	◎	◎					
	75	興善寺の豆まきの支援 「鬼はご随意」という掛け声の豆まきのPRとユニークベニユーの導入支援。市観光協会や地元市民団体等と協働して実施。	◎	◎	◎					
			目標値			観光協会等との協働				
	76	「観応の擾乱」時の入耕地館の再現 高麗経澄軍忠状に見える鬼窪での旗揚げの様子 のジオラマ製作を促進。			◎					
77	生涯学習講座「大野塾で使われた教材で勉強してみよう」の開講 四書五経や庭訓往来などを使った講座を企画。	○		◎						

関連文化財群③ 新田開発と川の立体交差

① 現状と課題

関連文化財群③ 新田開発と川の立体交差に関する現状と課題は以下の通りです。

- ・文化財同士を関連付けた調査検討が行われていません。
- ・河川や河川構造物などは、専門的知識のある指導者の指導を要します。
- ・必要な修繕や保存処理が行われてきませんでした。
- ・関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- ・地元と協働して文化財群を護る取組みが行われていません。
- ・ストーリーの啓発手法の開発が必要です。

② 基本方針

関連文化財群③ 新田開発と川の立体交差に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針1 文化財を調べる

- ・近世の新田開発や水害、水争いに関する情報集積を進めます。

◇基本方針2 文化財を守り伝える

- ・適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針3 文化財を知る

- ・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針4 文化財とともに支える

- ・地域の関心を高め、「新田開発」や「川の立体交差」などをともに守り伝える意識の醸成に努めます。

◆ストーリー固有の方針

- ・多様な啓発手法の検討、導入に努めます。

③ 保存と活用に関する取組み

関連文化財群③ 新田開発と川の立体交差に関する取組みは以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
1	2	建造物調査(再掲)	○		◎					
	9	諸家文書調査(再掲)	◎		◎					
	10	古文書整理(再掲)	○		◎					
	78	河川用排水路の築造、改修等に関する情報の整理			◎					
	79	橋、堰、樋樋その他の河川構造物の悉皆調査			◎					
2	80	水争裁許絵図や沼、河川に関する絵図の集成と適切な管理	◎		◎					
		絵図の集成と適切な管理、複製の作成を進める。	目標値			絵図 10 面の複製作成				
	81	庄兵衛堰枠の管理	◎	◎	◎					
		堰枠内に堆積した土砂の浚渫やレンガの劣化防止措置。浚渫は土木建設業者に委託して実施。劣化防止措置については、調査の上必要な措置を講じる。	目標値			浚渫の実施				
3	65	周遊ルートのセルフガイドの発行(再掲)			◎					
	41	多様なニーズに即した講座の開催(再掲)	○		◎					
	47	文化財解説板の設置・改修(再掲)			◎					
4	32	文化財ボランティアの育成(再掲)	◎	◎	◎					
	57	「ちょボラ」活動の推進(再掲)	◎	◎	◎					
	58	白岡遺産地域協議会の設立支援(再掲)	◎	◎	◎					
◆	82	「絵図」展の開催	○		◎					
	83	他のストーリーとの橋渡し役としての仕組み作り 関連文化財群が市内全域に広がる特性を活かし、ストーリー相互のネットワークのハブとなる仕組み作りを促進。		○	◎					
			目標値			ストーリーを結びつけるイベントの開催				

関連文化財群④ 筑後さまへの想い

①現状と課題

関連文化財群④ 筑後さまへの想いに関する現状と課題は以下の通りです。

- ・文化財同士を関連付けた調査検討が行われてきませんでした。
- ・個別の文化財に関する詳細調査や科学的調査が不十分です。
- ・必要な修繕や保存処理が行われてきませんでした。
- ・関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- ・文化財の解説板や文化財周遊コース設定が必要です。
- ・地元で行われている文化財群を守る取組みに対する積極的支援が行われていません。
- ・文化財保護ボランティアの育成が必要です。
- ・ユニークベニユーの導入や積極的情報発信など地元の文化財愛護活動の取組み支援強化が必要です。

② 基本方針

関連文化財群④ 筑後さまへの想いに関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針1 文化財を調べる

- ・新井白石とその関連文化財群の総合的把握に努めます。

◇基本方針2 文化財を守り伝える

- ・適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針3 文化財を知る

- ・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針4 文化財をともに支える

- ・清廉なイメージの新井白石と白岡市のイメージを重ね、市民とともに白石の事跡顕彰と文化財の保存活用を図ります。

◆ストーリー固有の方針

- ・多様な手法、ユニークベニユーの積極的導入を図り、普及・活用を促進します。

③ 保存と活用に関する取組み

関連文化財群④ 筑後さまへの想いに関する取組みは以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
1	9	諸家文書調査(再掲)	◎		◎					
	10	古文書整理(再掲)	○		◎					
	84	矢部家「折たく柴(の記)」の来歴調査 筆写元や筆写時期などの確認調査の実施。	○		◎					
			目標値			筆写元や筆写時期などの確認				
	85	「紙本着色新井白石画像」の科学的分析			◎					
2	86	大久保家文書「北条氏繁判物」の修繕 軸装であるが、痛みが進行しており、表装の修繕が必要。また、市内に残る数少ない中世文書の活用のため複製を作成。	○		◎					
			目標値			「北条氏繁判物」の修繕・複製製作				
	81	庄兵衛堰柵の管理(再掲)	◎	◎	◎					

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
3	65	周遊ルートセルフガイドの発行(再掲)			◎					
	41	多様なニーズに即した講座の開催(再掲)	○		◎					
	47	文化財解説板の設置・改修(再掲)			◎					
4	87	野牛文化財愛護会の活動支援 筑後様まつりをはじめとする地域活動の支援。	○	◎	◎					
			目標値			地域活動の支援				
	88	筑後様まつりの支援 児童生徒の参加やユニークメニュー導入の支援。	○	◎	◎					
			目標値			筑後様まつりの支援				
	32	文化財ボランティアの育成(再掲)	◎	◎	◎					
◆	57	「ちょボラ」活動の推進(再掲)	◎	◎	◎					
	89	白石の人物紹介や事績のアニメ作成			◎					
	90	朝鮮通信使の末裔との交流会			◎					
	91	白石関連グッズの作成			◎					
	92	白石ゆかりの地域との交流会 新井家の所領であった村を持つ自治体や白石ゆかりの地域を結んだ交流事業の開催促進。		◎	◎					
			目標値			交流事業の開催へ向けた調査着手				
	93	鶴岡市藤沢周平記念館との交流展 白石を主人公とした「市塵」の著者藤沢周平の遺稿等を所蔵する記念館との交流展示などの企画及びタイアップ事業の実施促進。		◎	◎					
			目標値			藤沢周平記念館との交流展準備着手				

関連文化財群⑤ 沼辺に生きる

① 現状と課題

関連文化財群⑤ 沼辺に生きるに関する現状と課題は以下の通りです。

- ・ 柴山沼周辺で行われてきた漁撈活動に関する調査が行われてきませんでした。
- ・ 大山地区全体に関する諸家文書の把握が不十分です。
- ・ 橋戸地区に関する総合的調査が必要です。
- ・ 旧大山民俗資料館の活用方針が不明確です。
- ・ 大山地区や柴山沼を題材とした学習メニューが不足しています。
- ・ 「文化財群」として把握した教育普及事業が必要です。
- ・ 魅力ある個別の文化財がありますが、群としての認識が薄く統一感がありません。
- ・ 多様なプログラム展開の可能性を持つ文化財が多いですが、うまくコーディネートできていません。

② 基本方針

関連文化財群⑤ 沼辺に生きるに関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針1 文化財を調べる

- ・柴山沼をめぐる暮らしと文化に関する文化財の総合的把握に努めます。

◇基本方針2 文化財を守り伝える

- ・適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針3 文化財を知る

- ・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針4 文化財をともに支える

- ・地域の関心を高め、柴山沼や橋戸、伏越など多様な文化財群をともに守り伝える意識の醸成に努めます。

◆ストーリー固有の方針

- ・それぞれの文化財の持つ魅力を最大限に引き出し活用し、地域の活性化に務めることで、地域文化財の魅力、保護の重要性の認識につなげます。

③ 保存と活用に関する取組み

関連文化財群⑤ 沼辺に生きるに関する取組みは以下の通りです。

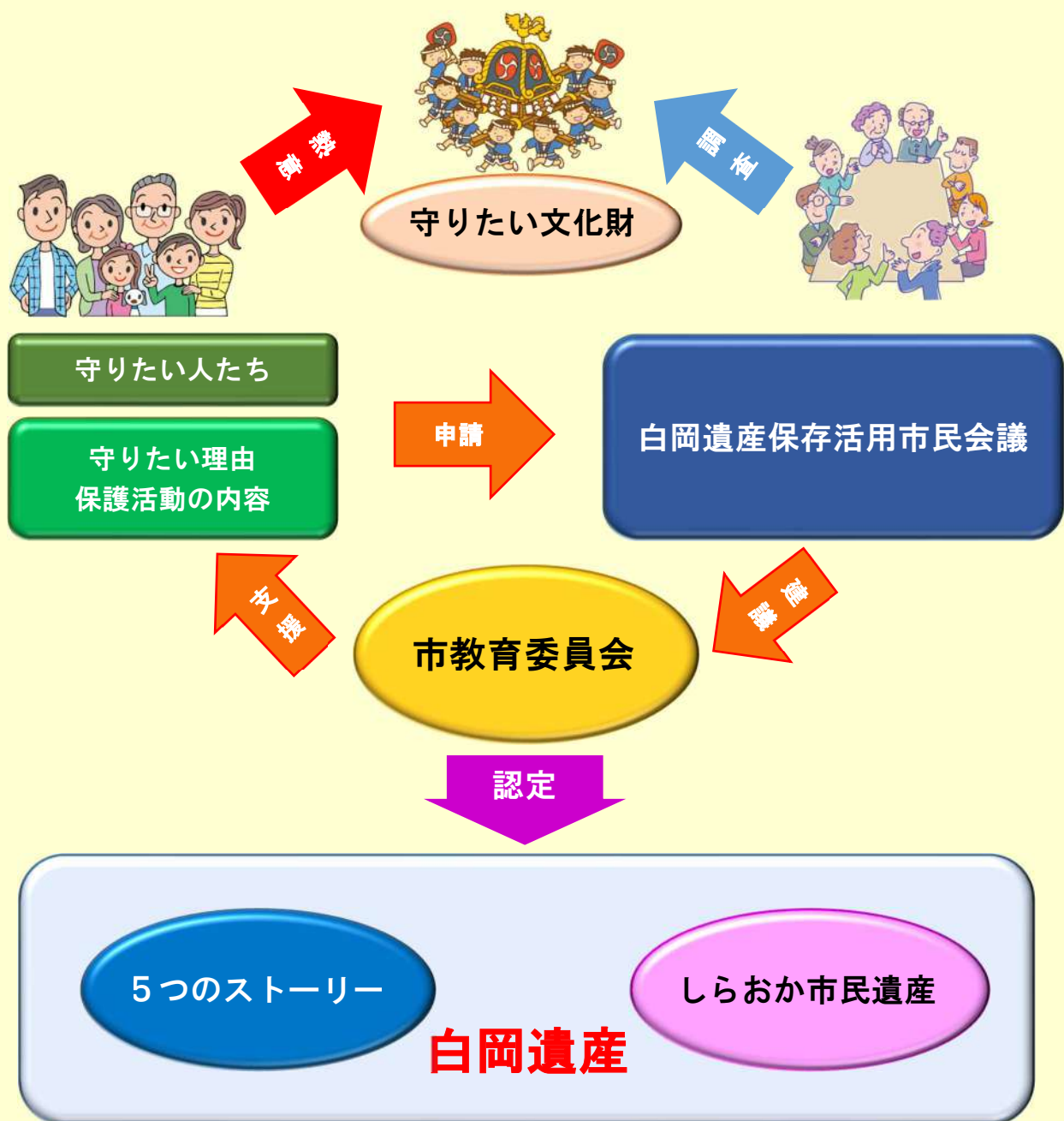
基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
1	9	諸家文書調査(再掲)	◎		◎					
	10	古文書整理(再掲)	○		◎					
	94	漁具、漁撈調査(再掲)	○		◎					
	95	柴山沼、元荒川等水辺環境調査	○		◎					
	96	水塚群総合調査 塚、塚上の建物、水塚に関する伝承等の総合調査の実施。	○		◎					
			目標値			水塚総合調査の実施着手				
	8	民具調査・整理(再掲)	○	○	◎					
	97	橋戸地区歴史文化総合調査	○	○	◎					
2	98	旧大山民俗資料館(元大山小学校校舎)の復元整備		○	◎					
3	65	周遊ルートのセルフガイドの発行(再掲)			◎					
	41	多様なニーズに即した講座の開催(再掲)	○		◎					
	47	文化財解説板の設置・改修(再掲)			◎					
4	32	文化財ボランティアの育成(再掲)	◎	◎	◎					
	57	「ちょボラ」活動の推進(再掲)	◎	◎	◎					
	58	白岡遺産地域協議会の設立、支援(再掲)	◎	◎	◎					
◆	99	復元整備した木造校舎を使ったフィルムコミッションの推進		◎	◎					
	100	用水路を使ったカイボリ体験 水を落とした秋に実施していた「カイボリ」の体験会。水利組合や農協、地域団体との協働で実施。	○	◎	◎					
			目標値			「カイボリ」体験会運営準備				
	101	柴山沼での投網漁体験	○	◎	◎					

3 市民提案型の関連文化財群「しらおか市民遺産」の位置付け

ここまで、文化財の総合的な保存と活用を行うモデルとして5つの関連文化財群を示しその保存・活用のための課題・方針・取組みについて示してきました。

本章の冒頭で述べた通り、関連文化財群設定の目的は、「地域の文化財を地域の手で護る」仕組み作りとその気風作りの礎とすることです。ここから発展して、規模は小さくても、身の回りにある後世に伝えたい文化財や是非守りたい文化財があれば、一定のルールに従って提案できる仕組みを作ります。これに沿って認定された関連文化財群を「しらおか市民遺産」(以下「市民遺産」と称します)とします。

提案者は関連文化財群を保護する組織を作り、保護活動にかかる計画を作成して仮称「白岡遺産保存活用市民会議」に申請します。「白岡遺産保存活用市民会議」はこれを受けて必要な調査や協議を行い、条件を満たせば、市教育委員会に建議し認定を受けるものとします。



認定を受けた関連文化財群は、前述の5つのストーリーとともに「白岡遺産」として、市民の「宝」として保護されます。

申請する関連文化財群は、5つのストーリーと重複するものがあったとしても差し支えありません。「市民遺産」の仕組みは、関連文化財群が増えることはもちろんですが、関連文化財群を守ろうとする人たちや組織を増やしていくことがとても大切だと考える仕組みだからです。

いずれ、市民の皆さんが何かしらの「市民遺産」の保護にかかわっています、という社会になれば、そのとき、白岡市は、真に「地域の文化財を地域の手で守るまち」になれたということができるでしょう。

①「しらおか市民遺産」設置のための課題と方針

市民遺産の仕組みはゼロからの構築ですので、それがどのようなもので、どのように認められ、どのように保存・活用されるのかなど、一連の「約束」を定める必要があります。

それに従って、市民の皆さんにご理解いただき、申請してみようという雰囲気づくりが重要です。

さらに、市民遺産が、しっかりと保護されるように個別の支援策の可否や継続的な状況把握なども視野に入れる必要があります。特に市民遺産に関する方針を以下の通り定めます。

◇しらおか市民遺産に関する方針

- ・市民遺産の認定、保護に関する例規等を作成します。
- ・「白岡遺産保存活用市民会議」の適切な運営を支援します。
- ・周知、普及策を徹底します。
- ・継続的、組織的支援の徹底を図ります。

②「しらおか市民遺産」に関する取組み

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
市民遺産に関する方針	102	市民遺産等に関する例規の整備			◎	→				
	31	白岡遺産保存活用市民会議の設置(再掲)	◎	◎	◎		→	→	→	→
	103	市民遺産等に関する情報発信	○	◎	◎		→	→	→	→
	104	市民遺産等に関する相談、支援	◎	◎	◎		→	→	→	→
	51	しらおか市民遺産制度の登録促進(再掲)	◎	◎	◎		→	→	→	→
			目標値			制度の創設と3件の登録				

第7章 文化財の防災と防犯

1 市内における過去の災害の記録

(1) 地震に関する記録

白岡市を含む埼玉県東部地域は、地震に関して特筆すべき記録が残されている地域ではありません。しかしながら、過去数回の地震による被害の記録が残されています。首都直下型地震や東海、東南海地域を震源とする大規模地震の際の被害は小さなものとはいえ、警戒を怠るわけにはいきません。

① 安政2年(1855)の大地震の記録

2つの注目すべき記録が残されています。

ひとつは、野牛観福寺にある明和3年(1766)銘の宝篋印塔が、安政2年の地震で倒壊し、これを安政5年になってようやく復旧できたとの追刻が台石に残されています。実はこの塔は、大正12年(1923)の関東大震災でも崩れ、このときも大正14年に再建されたことが、追刻されています。



追刻のある宝篋印塔（観福寺）



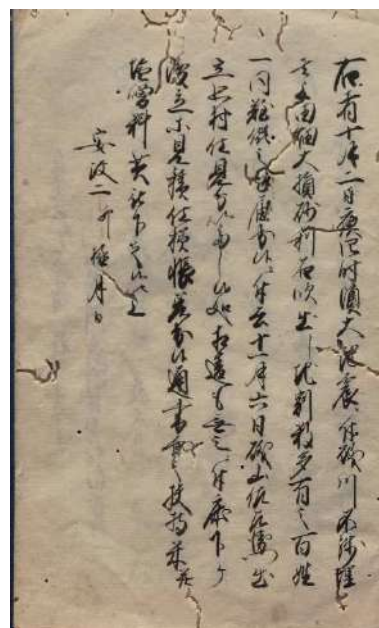
安政地震で倒壊したことを知らせる追刻

もうひとつ、白岡市の村役人であった細井家文書の中に、安政2年の地震に関する記録が残されています。

「磯川」は、白岡支台の裾に沿って流下していた河川で、星川の旧流路と思われるものです。元荒川とともに沖積地を形成し、篠津村、白岡村、新宿村（現蓮田市）などの各村が田畑をもっていました。この磯川が残らず埋まり、田畑は地割れし砂利が噴出したと記録しています。現在の元荒川沿いの沖積地では、液状化現象が発生する可能性が高いことを示しています。

同じく細井家文書の中の別の記録には、

右は十月二日夜四時頃大地震に付き磯川残らず埋まり、その上田畑大損、砂利噴出し地割れ数多くこれあり（後略）



安政地震の被害の記録

「御地頭所様^二而御殿并御土蔵共屋根壁共破候得」との記述も見られ、甚大な建物被害があったことも明らかです。

② 関東大震災の記録

野牛観福寺の記録については、前述の通りです。関東大震災の記録は『埼玉縣市町村誌』などに詳しい記載がありますが、市域での被害状況を確認しておくと、篠津村では全壊 20 戸、半壊 2 戸、死者 8 人、日勝村では、全壊 2 戸、半壊 1 戸、大山村では、全壊 2 戸との記録が残されています。おそらくは、さらに多くの被害が出ていたものと推測されます。被害の大きかった篠津中学校の校庭付近では、多数の地割れが確認され、砂が噴出していたといわれています。このときも、沖積地では液状化現象が発生していたことがわかります。

直接の被害情報ではありませんが、関東大震災の折に避難して来た被災者に対し、食糧を振舞うなどの救護活動を行ったとして、太田新井青年団と下野田青年会が後日、日勝村教育会から表彰された記録も残されています。

③ 西埼玉地震の記録

昭和 6 年（1931）9 月 21 日、比企郡小川町付近を震源とする西埼玉地震が発生しました。市域での被害は、大山村（当時）で 1 戸が倒壊したことが記録されています。この地震では、篠津小学校の職員室、教室 4 室の入った建物が半壊しています。幸い児童に被害はありませんでしたが、篠津村では、復旧は困難と判断し改築を決定しています。

(2) 主な水害に関する記録

市域は、これまでも述べてきた通り水の恩恵も受けてきましたが、水の災いも少なからず受けてきた歴史があります。大小さまざまな水害記録が残されており、すべてを記載することはできませんが、主なものとして、2 件の水害記録について確認しておきます。

① 明治 43 年の大水

明治時代には、大きな被害のあった水害が少なくとも 3 回記録されています。中でも最大の被害を出したのが、「明治 43 年の大水」と呼ばれるもので、今でも被害状況を語り継いでいる人々がいます。

例えば、篠津村の馬立地区では「着の身着のまま自宅の屋根に非難したり、篠津村役場の 2 階へ逃れたりした。あまりに大勢が避難したので役場の 2 階が抜け落ちそうになり、お互いに「動くな」とか「静かにしろ」と声を掛け合うほどだった。」とか、大山村では「8 月 11 日の午後には多くの家が床上浸水となり、屋根直下まで水が来た。家財道具、食糧はことごとく水没した。2 階建ての家には近所の人々が非難し、屋根や 2 階の窓が舟の乗り降り場になっていた。」などの話が伝わっています。

また、新築間もない大山小学校では、床上 1m まで浸水し、壁は無残に崩れ落ち、うずたかく積もった泥土の処理に窮して床を切り開いて床下へ落としたほどであったといわれています。

被害は、ローム台地の上にも及んでおり、日勝村千駄野の弓木家の長屋門には、地表か



長屋門に残された修復痕

ら 120cm ほどのところに浸水によって崩れた壁を修復した痕跡が残されていたといえます。

② カスリン台風による水害

昭和 22 年(1947)年 9 月のカスリン台風による水害も大きな被害をもたらしています。



カスリン台風による浸水被害（上野田付近）

県内では、多くの河川で堤防が決壊し甚大な被害を引き起こしていますが、市域の被害は、利根川の堤防が現在の加須市大利根地内で決壊したことによります。被害の詳細は『昭和 22 年埼玉縣水害誌』に譲りますが、市域の被害の概略をまとめておきます。

市域東部の浸水被害は甚大で、太田新井、岡泉、彦兵衛の高台をのぞきほぼ全域で浸水したといえます。特に上野田、爪田ケ谷では、姫宮堀川が爪田ケ谷地内で 30 間に渡って決壊したため浸水面積

も広大にわたりました。

篠津では、篠津小学校周辺の浸水が激しく、高台の篠津久伊豆神社周辺には、非難してきた馬が何頭もつながれていたといえます。

野牛でも、総出で、久喜境の備前堀川の土手に土俵を積んだが防ぎきれず大半が冠水してしまったといえます。ただ、水がくるまでに時間があつたので、食糧は床上に台を重ねてその上に置いたり、たなぎ（中 2 階）へ上げたりしておいたと伝えられています。

このほか、明治 43 年の大水のあと水塚を造った家や、厚く土盛りして母屋を作った家では被害が少なかったとか、舟や筏で通行するときは、水田の上は楽に漕げたが、水路の上を通過するときは流れが強く危なかった、東北線の線路は一段高くなっていたので冠水しなかったの、白岡駅方面への通路となったなどの話を聞くことができました。

反面、大山地区の荒井新田では、水は河原井、台（ともに現久喜市）で止まりこちらへはこなかった。除堀（現久喜市）の親戚のところへ舟で食糧を届けたなどの話が聞け、被害が少なかったことがわかります。

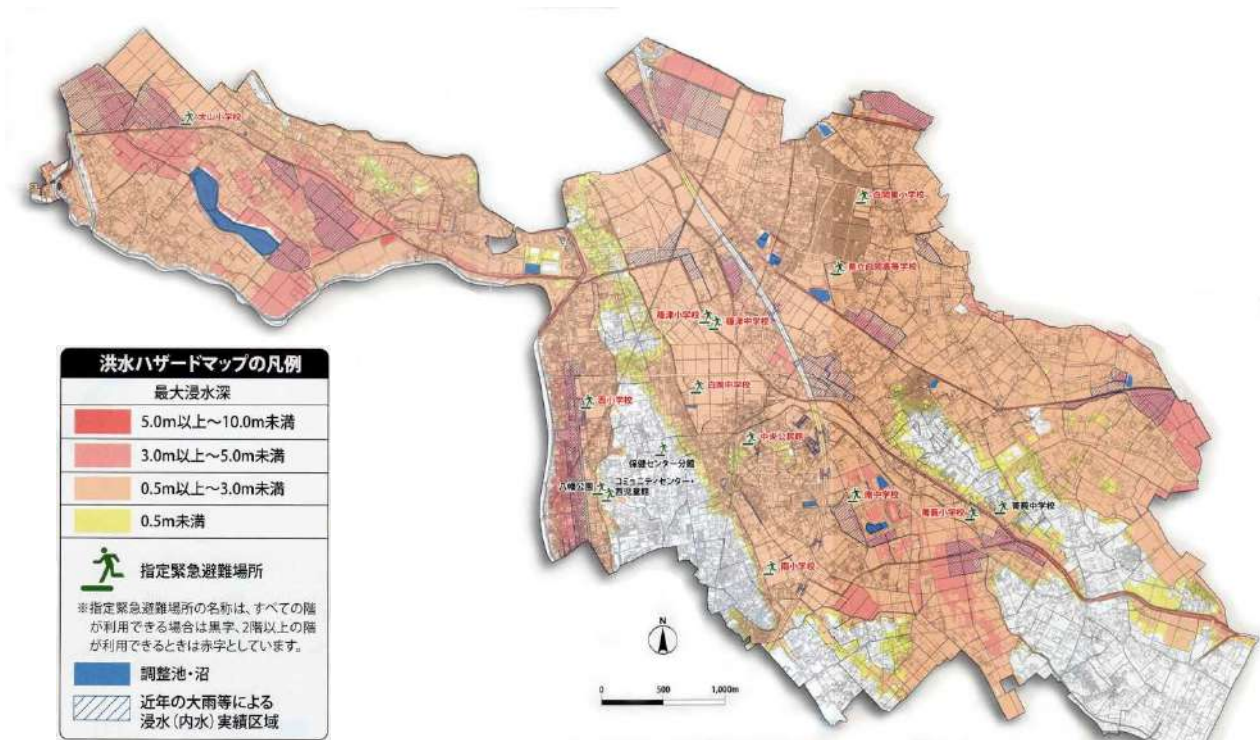
2 災害時の危機管理

① ハザードマップ

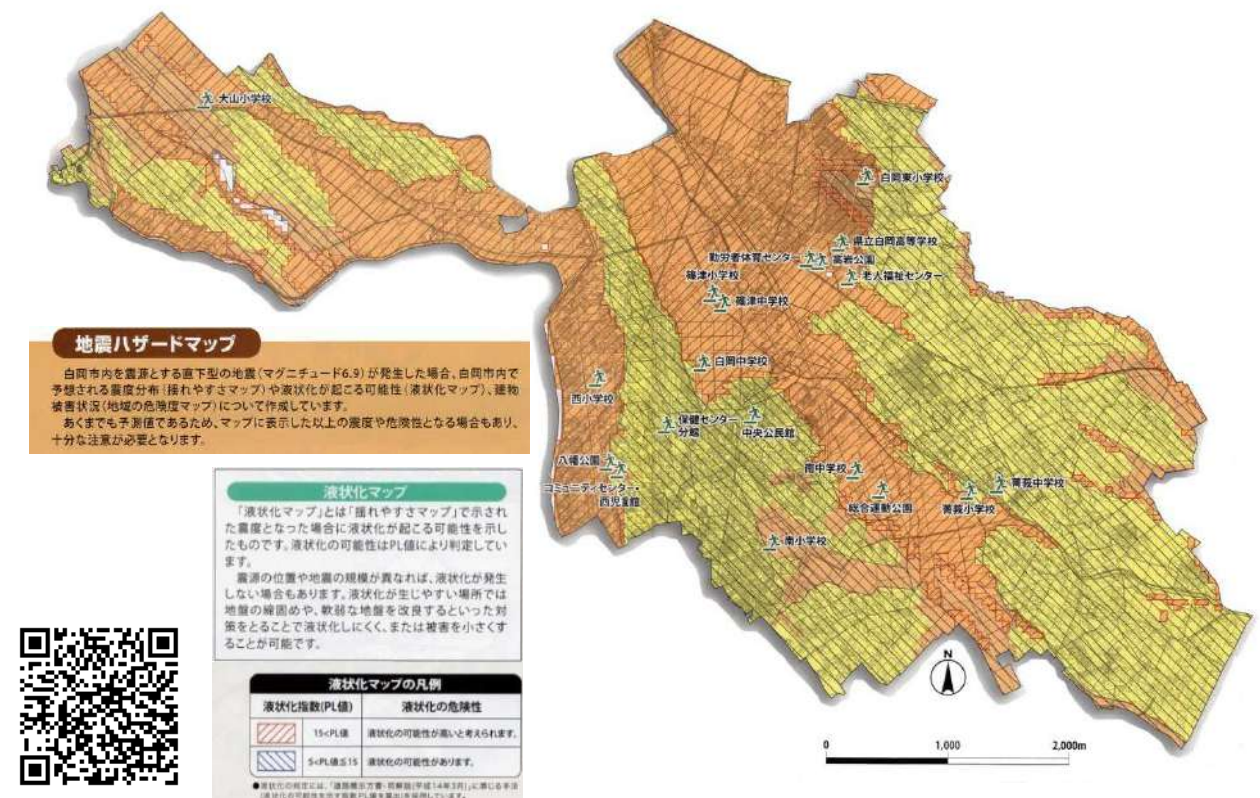
白岡市の洪水ハザードマップ（平成 30 年 3 月作成）は、利根川、小山川、荒川を対象としています。リスクの高い利根川、荒川の氾濫の場合、大宮台地の白岡支台及び慈恩寺支台の標高 12m～11m 地点以下の地域では浸水の危険性が高いことがうかがえます。

また、地震に関するハザードマップは、市内を震源とする直下型地震（マグニチュード 6.9）が発生した場合の揺れやすさや液状化のマップとして作成したものです。ローム台地の上では、震度 6 弱程度、沖積低地では震度 6 強が想定されており、沖積低地では液状化の可能性が高いと考えられます。

利根川洪水ハザードマップ



揺れやすさ・液状化マップ



*：当市では、利根川のほか、荒川、小山川の洪水ハザードマップ（平成30年3月作成）が作成されている。
 なお、ハザードマップについては、最新版を確認願いたい。

② 災害時の危機管理

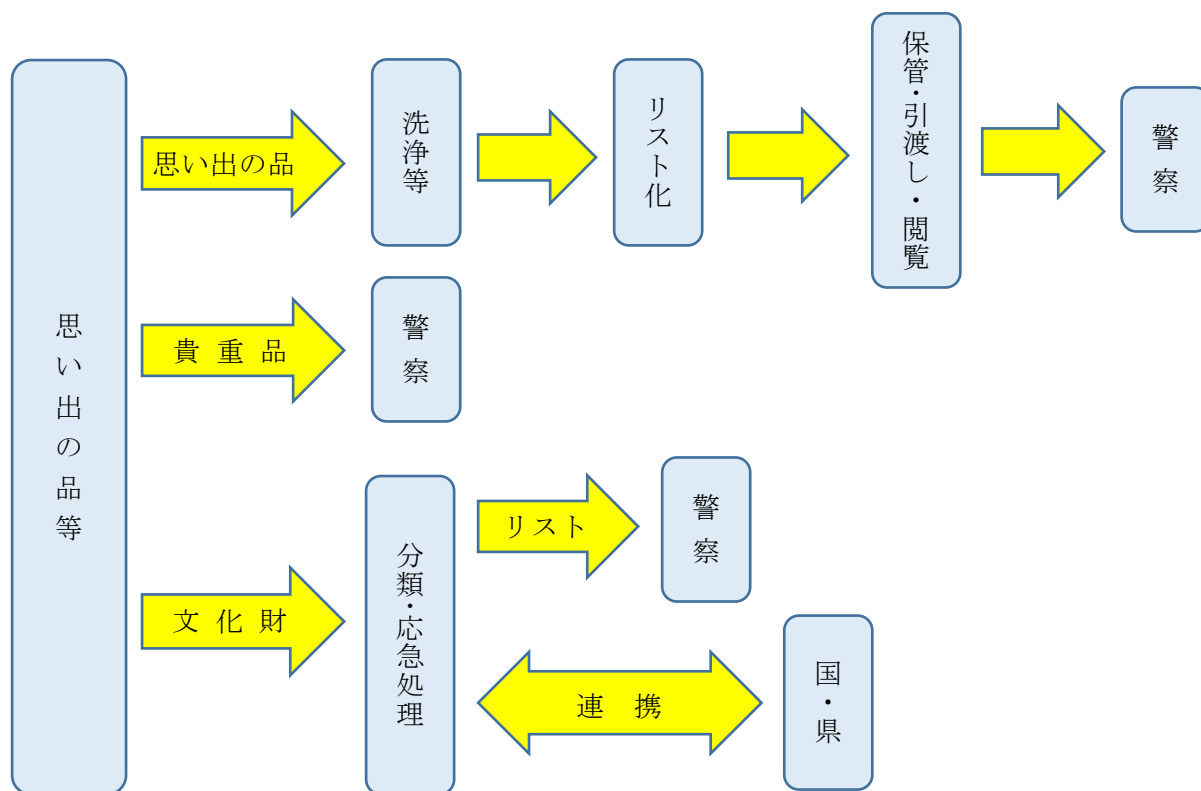
生涯学習センター歴史資料展示室の収蔵庫は、センター3階にあり、ハザードマップで想定される0.5m～3.0mを十分にクリアできますが、3か所ある館外収蔵施設のうち2か所では、浸水を免れない可能性が高い状況です。既に、脆弱な資料はセンター収蔵庫での保管に切り替えています。残る資料に関しても重要なもの、脆弱なものから順次、センター収蔵庫あるいは、水没しない収蔵施設への移送を実施します。

民間収蔵資料に関しては、災害情報をできるだけ早く正確に把握できるよう心掛け、注意喚起を行うことはもちろんですが、平時から、文化財所有者（管理者）向けの研修会を開くなどの取組が重要です。

災害が発生してしまった場合、学び支援課職員は、避難所の開設や避難者の支援が第一優先の業務となり、文化財レスキューはその後の対応となることが市防災マニュアルに定められています。市の文化財担当者や埼玉県を始め、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会、埼玉県文化財保護協会、埼玉県博物館連絡協議会などの組織から文化財レスキューが派遣されるまでの間の被災文化財の応急処置が大きな課題です。

また、万が一被災してしまった場合、多量に排出される災害ごみに文化財が混入しないように、「白岡市災害廃棄物処理計画」の中に「文化財・貴重品」を含む「思い出の品」の項目を設け、文化財レスキュー等と連携して回収・保存処理チームを作成し分類・応急処理を行うなどの対応策を明文化しました。

白岡市災害廃棄物処理計画（令和2年）・「思い出の品等」の回収及び引渡しフロー

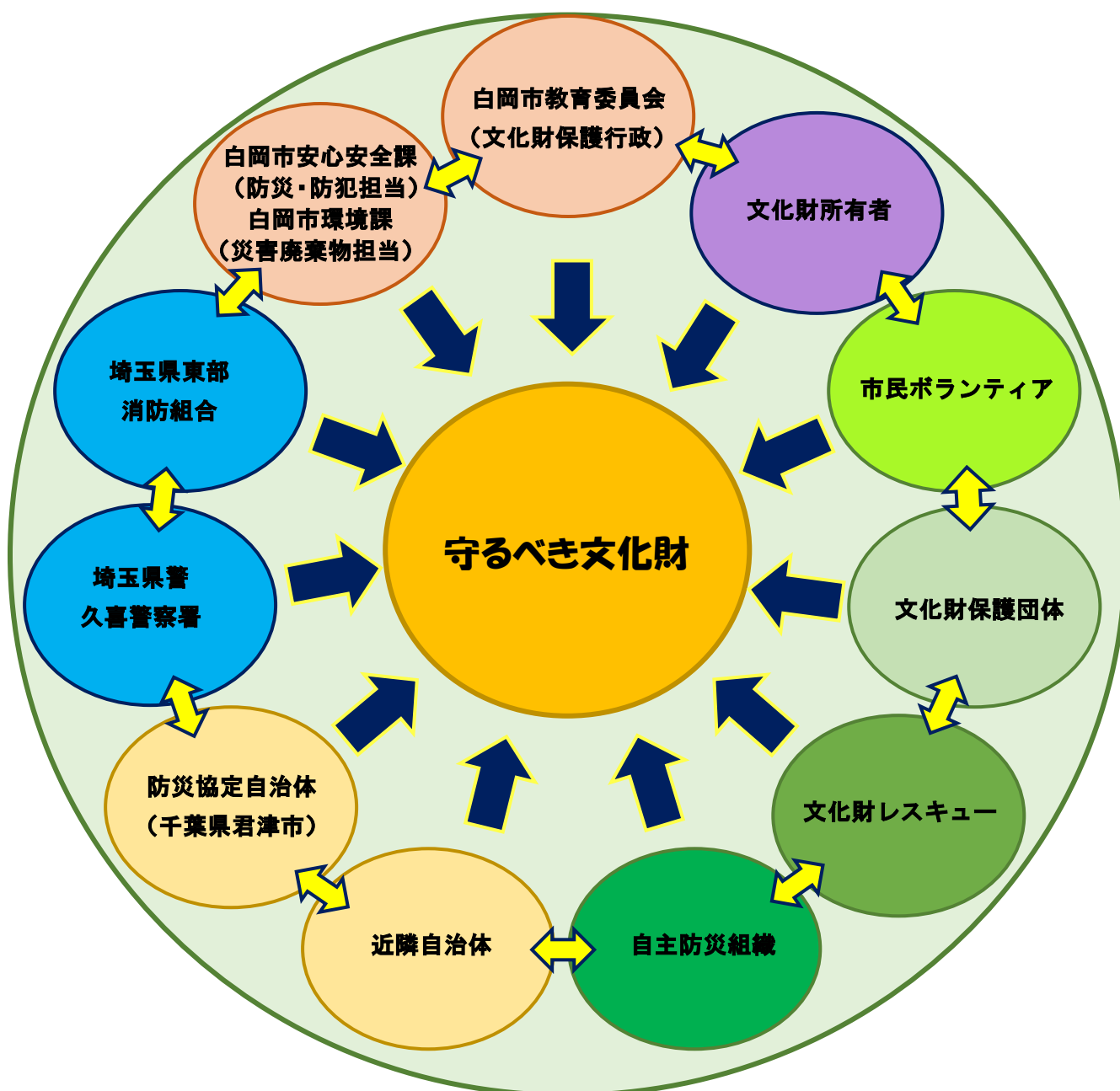


3 文化財の防災・防犯に関する体制と体制整備の方針

これまで、幸いなことに、市内の文化財が盗難被害にあったという事例は耳にしません。しかし、寺社の^{さいせん}賽銭泥棒の被害などはしばしば話題に上りますし、近隣の事例では、無住の神社の放火被害なども報告されています。

いつどのような犯罪被害に巻き込まれるかわからない状況だともいえます。普段から警察や地元自治会などと連携しながら文化財の防災・防犯体制の構築を推進し、被害を未然に防ぐ取組を進めることが重要です。

白岡市の文化財を災害・犯罪から守るネットワーク



それぞれの部署が主体的に判断し最良の活動ができるよう、日頃から意識を高め準備をします。

第8章 文化財の保存・活用の推進体制

1 文化財保存・活用の推進体制の課題

白岡市における文化財の保存と活用を図る取組は、教育委員会生涯学習部学び支援課が担っています。所掌する業務と体制は以下の通りです。

専門知識を要する様々な業務を数少ないスタッフでまかなう状況が続いていることに加え、歴史資料展示室の開設に伴い、文化財保護行政と博物館事業を同じスタッフが兼務しています。今後は、細分化の方向にある業務を担当する専門職員を含むスタッフの充実と、業務を統括し、中長期的な事業計画の管理を行う専門職の管理職の育成が課題です。

別の視点から見れば、職員以外の研究者や市民が気軽に地域研究に取り組める環境が整い、自発的な調査研究が進展する仕組みが構築できれば、おのずと専門職の負担軽減につながります。歴史資料展示室の客員研究員や市民研究員などの制度の構築も課題といえます。

一方、文化財の保存と活用について、中立の立場から学術的な検討を行う諮問機関である市文化財保護審議会の意見を聞くとともに、行政とは異なる視点でサポートしてくれる民間団体を育成・支援していく必要があります。

こうした外部団体はもちろん、市内部の理解を進め事業連携や協働事業の取組を進めることで結果的に文化財に関わる部局や人数を増やす取組につなげることができます。

- ・誰でもが地域研究に取り組むことができる環境が準備できていません。
- ・庁内他部局の理解促進と事業連携が図られていません。
- ・関係諸団体との事業連携が図られていません。

2 体制整備の基本方針

白岡市の文化財保存・活用の推進体制整備に関する基本方針は、第5章でまとめた基本方針2の文化財を守り伝えるに含めて考えるものとし、以下の通りとします。

- ①開かれた地域研究体制の構築を促進します。
- ②文化財保存活用地域計画に関する庁内勉強会や事業連携のテーブルを設け、庁内関係課の理解促進を図ります。
- ③市内の関係団体や専門家との連携を図ります。
- ④行政とは全く別な視点から文化財の保存活用に取組むボランティア組織の育成や連携を促進します。

① 文化財の保存・活用の推進体制に関する取組

文化財の保存・活用の推進体制に関する措置（P75 から再掲）

基本方針	No	事業名	ストーリーとの関係	主な取組主体			取組年度				
				市民	地域	行政	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
2	28	非常勤の研究員等の任用制度の創設	1～5	○	○	◎					
	29	市民学芸員制度の創設	1～5			◎					
	30	文化財保存活用地域計画関連事業庁内勉強会の開催 行政内部の理解を促進し、事業連携や協働事業の取組を進める。	1～5		○	◎					
	31	白岡遺産保存活用市民会議の設置 様々な団体や個人に参加いただき自由な発想で文化財の保存と活用に関する議論を深める機会を創設。	1～5	○	○	◎					
	32	文化財ボランティアの育成（再掲）	1～5	○	○	◎					
	33	文化財愛護賞の創設 文化財の保存活用に貢献した個人や団体を顕彰し、文化財愛護やふりさと作りの意識の醸成を図る。	1～5	◎	◎	◎					

② 白岡市の文化財保存活用推進体制

白岡市の文化財保存活用推進体制

白岡市教育委員会	
●白岡市教育委員会 生涯学習部 学び支援課 文化振興担当 ・地域計画に係る主な業務内容：文化財の調査、保護及び活用／文化財の指定及び解除／指定文化財の管理／指定文化財の修繕に関する補助金の交付及び指導助言／文化財保護審議会委員、文化財調査専門員及び文化財保護指導委員に関する事務／文化財関係団体に関する事務／歴史資料展示室常設・企画展示／展示室の資料の利用に関する事務／資料の寄贈及び寄託の受入れ／文化財関連の教育普及事業／文化財関連施設・設備の管理／埋蔵文化財の発掘調査及び出土遺物の整理・報告 等 担当職員：3名（うち埋蔵文化財担当専門職員2名、歴史資料担当会計年度任用職員1名） ・取組内容：地域計画全体のマネジメント、すべての事業への主体的関与	
●白岡市教育委員会 学校教育部 教育指導課 指導担当 ・地域計画に係る主な業務内容：教育計画、教育課程等の教務に関すること／学習指導、教科領域等に関すること／教職員の研修及び教育研究会等に関すること／学校支援に係る地域協力者（学校応援団等）に関すること／社会科副読本編集及び情報教育等の教育課題に関すること 等 ・取組内容：児童生徒にかかる教育普及活動、博学連携の取組、教職員研修にかかる取組 ・関与の期待される事業：30、38、39、40、57、88 ほか	
白岡市	
●総合政策部 安心安全課 防災担当 ・地域計画に係る主な業務内容：防災及び災害対策に関すること／防災会議及び地域防災計画に関すること／自主防災組織の設立育成に関すること／埼玉東部消防組合に関すること／消防団に関すること／その他防災に関すること 等 ・取組内容：文化財の防災対策及び災害時の文化財レスキュー等 ・関与の期待される事業：24、25、27、30	

●総合政策部 安心安全課 防犯担当

- ・ **地域計画に係る主な業務内容**：防犯対策に関すること／防犯灯に関すること／犯罪被害者支援に関すること／交通安全対策の総合的企画及び調整に関すること／その他防犯・交通安全に関すること 等
- ・ **取組内容**：文化財の防犯対策、文化財周遊コースの交通安全対策等
- ・ **関与の期待される事業**：20、21、22、23、30、50

●市民生活部 商工観光課 商工振興担当

- ・ **地域計画に係る主な業務内容**：商工振興の企画及び総合調整に関すること／商工団体に關すること／特産品の振興に関すること／その他商工に関すること 等
- ・ **取組内容**：歴史文化を題材にした商品開発や文化財イベント、保存・活用事業の支援
- ・ **関与の期待される事業**：19、30、49、55、56、75、88、91

●市民生活部 商工観光課 観光交流担当

- ・ **地域計画に係る主な業務内容**：観光交流の企画及び総合調整に関すること／観光団体に關すること／観光情報の発信に関すること／その他観光交流に関すること 等
- ・ **取組内容**：関連文化財群周遊コースの設定や情報発信、文化財イベントの支援
- ・ **関与の期待される事業**：30、31、32、49、50、53、56、65、75、88、92、99、100

●市民生活部 環境課 環境保全担当

- ・ **地域計画に係る主な業務内容**：環境保全の総合的企画及び調整に関すること／環境基本計画に関すること／自然環境保全に関すること／環境美化活動に関すること／その他環境保全に関すること 等
- ・ **取組内容**：文化財を取り巻く環境、景観等の保全
- ・ **関与の期待される事業**：4、30、95

●都市整備部 街づくり課 都市計画担当

- ・ **地域計画に係る主な業務内容**：都市計画の企画及び総合調整に関すること／都市計画マスタープランに関すること／景観法、埼玉県景観条例に基づく届出等に関すること／その他都市計画に関すること 等
- ・ **取組内容**：文化財を取り込む周遊コースの整備や文化財を活かしたまちづくり
- ・ **関与の期待される事業**：30、50

白岡市文化財保護審議会

- ・ **審議事項**：文化財の保存及び活用に関する重要事項
- ・ **委員数**：7名以内（文化財6類型のほか保存科学など文化財に係る専門家）
- ・ **取組内容**：地域計画に係る指導助言、文化財指定、白岡遺産認定にかかる指導助言 ほか
- ・ **関与の期待される事業**：13、14、17、31、33、35、46、51、56 ほか

白岡市文化財保存活用地域計画策定協議会

- ・ **所掌事項**：文化財保存活用地域計画の作成及び進行管理
- ・ **委員数**：15名以内（(1) 文化財の所有者／(2) 文化財に関係する機関・団体の代表者／(3) 歴史及び文化財に関し識見を有する者／(4) 商工に関係する機関・団体の代表者／(5) 観光に関係する機関・団体の代表者／(6) 埼玉県職員／(7) 白岡市職員／(8) その他教育委員会が必要と認める者）
- ・ **取組内容**：地域計画の進行管理及び次期計画の作成
- ・ **関与の期待される事業**：17、31、46、51、56 ほか

協力団体
○白岡市観光協会 ・ 取組内容：関連文化財群周遊コースの設定や情報発信、文化財イベントの企画、運営、支援 ・ 関与の期待される事業：31、32、49、50、53、56、65、75、88、92、99、100 ○白岡市商工会 ・ 取組内容：関連文化財群等を題材とした商品開発、情報発信 ・ 関与の期待される事業：19、49、55、56、75、88、91
その他の民間団体
○白岡獅子博物館 ・ 活動内容：各地の獅子舞に関する資料の収集・公開・普及活動 ・ 職員数：2人 ○白岡の歴史を語る会（平成12年1月発足） ・ 活動内容：白岡市の歴史文化に関する学習活動 ・ 会員数：51人 ○野牛文化財愛護会（平成27年6月発足） ・ 活動内容：新井白石に関する文化財の保存及び新井白石の顕彰 ・ 会員数：45人 ○小久喜さら獅子舞保存会（昭和44年10月発足） ・ 活動内容：小久喜さら獅子舞の継承活動 ・ 会員数：35人

3 連携協働を促す体制づくりと財源の確保

白岡市の文化財の保存と活用を進めるために、様々な立場の関係者それぞれが持つ知識・情報や物的・人的資源を持ち寄り、協力しながら諸課題に対処し、必要な取組を推進することが重要です。こうした取組の効果的な推進のためにも本計画を有効に用い、立場の異なる団体同士が視線をそろえて同一の目的意識を共有できるようにするステージ作りが求められます。

また、本計画に位置付けた取組の事業化に当たっては、白岡市の厳しい財政状況を踏まえ、優先順位をつけ、しっかりとした年次計画を作成し、国・県との連携及び市内の調整を行い必要な財源を確保します。

文化庁の補助制度の活用はもとより、地方創生推進交付金やその他の関係省庁の補助制度の活用や民間ファンドの活用なども視野にいたした運営を心掛けます。

市民や地域活動団体の取組に関しては、地元企業の協力獲得の推進のほか、クラウド・ファンディングなどの活用、収益事業を含めた活動なども視野にいたした柔軟な取組の支援を心掛けます。

4 目指すべき姿の実現に向けてそれぞれが果たすべき役割

これまで述べてきた地域の文化財を地域の手で守る取組を実現するためには、行政はもとより、文化財の所有者（管理者）、愛護団体、地域など文化財に関わる人々が、それぞれの立場でできる役割を果たすことが大切です。今、私たちは小さな一歩を踏み出す必要があります。

◇行政が果たすべき役割

行政には、市域全体の文化財を保存・活用していくための仕組み作りやルール、方針の整備が求められます。文化財に関する情報を集約し広く情報発信することや他の行政課題との調整、文化財の所有者（管理者）や文化財愛護活動や学習活動を行う団体、ボランティア活動を行う団体などの適切な育成や支援なども果たすべき役割として挙げられます。

《具体的事例》

- 条例や規則の整備・運用
- 文化財保存活用地域計画の策定・運用
- 文化財に関する調査や情報収集
- 文化財保存・活用にかかる協働・連携のためのネットワークの整備・支援
- 啓発普及・情報発信
- 文化財に関する防災・防犯活動、啓発活動 ほか

◇有識者（専門的知識を持った個人や団体）が果たすべき役割

市の文化財保護審議会などをはじめとする有識者には、文化財の保存状況や適切な修理などの保存管理に関する指導助言や、行政の実施する調査活動等への指導助言、文化財指定や保存・活用施策に関する意見具申などのほか、文化財保存活用施策全体に関する検証や評価などの役割も期待されます。

《具体的事例》

- 文化財保存活用地域計画の検証や評価
- 文化財保護施策に関する諮問に対する答申や建議
- 文化財行政に関する指導助言
- 文化財保存・活用に関する人材育成
- 市民活動に関する助言や支援 など

◇文化財所有者（管理者）が果たすべき役割

文化財の所有者（管理者）には、文化財の適切な保存、管理と継承が求められます。また、可能な範囲での公開や行政と協力しての情報発信なども重要な役割です。また、団体である場合、適切な組織運営や後継者育成活動も期待されます。

《具体的事例》

- 所有する文化財の適切な保存・管理
- 行政との緊密な情報交換
- 適切な情報発信や展示公開 など

◇文化財保存活用支援団体、ボランティア組織等が果たすべき役割

適切な文化財保護、愛護活動や啓発普及活動を行う市民団体には、文化財の所有者と利用者、そして行政との橋渡し役としての活動が期待されます。地域の文化財を地域で守り伝える活動の原動力として、文化財の保存と活用を支えていただくとともに、日常の見回り活動や維持管理活動、文化財利用者の案内などのほか、万が一災害が起こったときの初動活動の役割なども期待されます。

《具体的事例》

- 文化財所有者（管理者）と行政との連絡調整
- 文化財保存活用に関するネットワークへの参加、協力
- 地域における文化財保護、愛護活動の実践

◇市民が果たすべき役割

文化財に興味を持ち積極的に学ぼうとする人や日常生活や身近に文化財が所在する市民の方々も、地域の文化財の保存・活用の重要な担い手といえます。人それぞれ文化財に関するかわり方は異なっても、様々な立場の市民が文化財を中心に集い、交流の輪が広がるのが文化財の保存・活用の第一歩となります。

《具体的事例》

- 身近な文化財や地域の歴史文化に関心を持つ
- 気付いたことを周囲の人に話し、関心を持つ人の輪を広げる
- 文化財愛護活動や学習会に参加する
- 文化財保存・活用活動に協賛する ほか

資料編

● 第1章 2(3)生態系 ①植生・植物 ひこべえの森で見られる植物一覧

No	科	標準和名	備考	No	科	標準和名	備考
1	マツ科	アカマツ		51	ユズリハ科	ユズリハ	
2	スギ科	スギ		52	ミカン科	サンショウ	
3	ヒノキ科	ヒノキ		53	ウルシ科	ヌルデ	
4	カバノキ科	アカシデ		54	モチノキ科	イヌツゲ	
5		イヌシデ		55	ニシキギ科	コマユミ	
6	ドクダミ科	ドクダミ		56		ツルウメモドキ	
7	センリョウ科	センリョウ		57	ミツバウツギ科	ゴンズイ	
8		フタリシズカ		58	ブドウ科	ナツズタ	
9	ブナ科	クヌギ		59		ノブドウ	
10		クリ		60		ヤブガラシ	
11		コナラ		61	ミズキ科	アオキ	
12		シラカシ		62		ミズキ	
13	ニレ科	エノキ		63	ウコギ科	ウド	
14		ケヤキ		64		カクレミノ	
15		ムクノキ		65		タラノキ	
16	クワ科	ヒメコウゾ		66		ヤツデ	
17		クワクサ		67		キズタ	
18	アサ科	カナムグラ		68	ヤブコウジ科	カラタチバナ	NT
19	モクレン科	コブシ		69		マンリョウ	
20	モチノキ科	アオハダ		70		ヤブコウジ	
21	マツブサ科	サネカズラ		71	カキノキ科	カキノキ	
22	クスノキ科	クスノキ		72	エゴノキ科	エゴノキ	
23		シロダモ		73	モクセイ科	ネズミモチ	
24		ヤマコウバシ		74	アカネ科	アカネ	
25		タブノキ		75		ヘクソカズラ	
26	アケビ科	アケビ		76		ヤエムグラ	
27	ツズラフジ科	アオツヅラフジ		77	ムラサキ科	キュウリグサ	
28	ツバキ科	チャノキ		78	クマツヅラ科	クサギ	
29		ヒサカキ		79		ヤブムラサキ	
30		ヤブツバキ		80	ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	
31	ユキノシタ科	アジサイ	植栽	81		タチイヌノフグリ	
32	バラ科	ウワミズザクラ		82		ヒメオドリコソウ	
33		イヌザクラ		83		トキワハゼ	
34		ヤマザクラ		84	ナス科	ヒヨドリジョウゴ	
35		クサボケ		85		アメリカイヌホウズキ	
36		カマツカ		86	サクラソウ科	コナスビ	
37		ノイバラ		87	シソ科	ホトケノザ	
38		ビワ		88		ヒメオドリコソウ	
39		ヘビイチゴ		89	スイカズラ科	ウグイスカグラ	
40	マメ科	カラスノエンドウ		90		ガマズミ	
41		クズ		91		スイカズラ	
42		ヌスビトハギ		92		ニワトコ	
43		ネムノキ		93	キク科	オオジシバリ	
44		ヤブマメ		94		オニタビラコ	
45		ヤマフジ		95		コオニタビラコ	
46		レンゲ		96		オオアレチノギク	
47	トウダイグサ科	アカメガシワ		97		コセンダングサ	
48		トウダイグサ		98		セイヨウタンポポ	
49		エノキグサ		99		カントウタンポポ	
50		コニシキソウ		100		セイタカアワダチソウ	

No	科	標準和名	備考	No	科	標準和名	備考
101		ツワブキ	植栽	140		ホウチャクソウ	
102		ノゲシ		141		ヤブラン	
103		ノハラアザミ		142	ヒガンバナ科	スイセン	植栽
104		ノボロギク		143		ヒガンバナ	
105		ハキダメギク		144	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	
106		ハハコグサ		145		ニガカシュウ	
107		ハルジオン		146	ツユクサ科	ツユクサ	
108		ヒメジオン		147	ラン科	シュンラン	VU
109		ヒメムカシヨモギ		148	イラクサ科	ヤブマオ	
110		タカサブロウ		149	タデ科	イヌタデ	
111		ブタクサ		150		ミズヒキ	
112		ヨモギ		151		スイバ	
113		ヨメナ		152		ギシギシ	
114	イネ科	アズマネザサ		153	ナデシコ科	ハコベ	
115		イヌムギ		154		ウシハコベ	
116		オヒシバ		155		ノミノフスマ	
117		メヒシバ		156		オランダミミナグサ	
118		アキノエノコログサ		157	ケシ科	ムラサキケマン	
119		イヌビエ		158	アブラナ科	タネツケバナ	
120		ノガリヤス		159		イヌガラシ	
121		コメヒシバ		160		ナズナ	
122		エノコログサ		161	カタバミ科	カタバミ	
123		スズメノカタビラ		162	スミレ科	タチツボスミレ	
124		スズメノテッポウ		163		アカネスミレ	
125		チヂミザサ		164		ニョイスミレ	
126		モウソウチク		165	ウリ科	アマチャズル	
127	ショウガ科	ミョウガ		166		カラスウリ	
128		ヤブミョウガ		167	セリ科	オヤブジラミ	
129	キツネノマゴ科	キツネノマゴ		168		セリ	
130	オオバコ科	オオバコ		169		ヤブニンジン	
131	ヤシ科	シュロ		170		チドメグサ	
132	サトイモ科	ウラシマソウ		171	ゼンマイ科	ゼンマイ	
133	ユリ科	コバギボウシ		172	ホウライシダ科	ミズワラビ	EN
134		サルトリイバラ		173	ハナヤスリ科	フユノハナワラビ	
135		ジャノヒゲ		174	キョウチクトウ科	テイカカズラ	
136		タチシオデ		175	カヤツリグサ科	ヒメカンスゲ	
137		ノビル		176	コバノイシカグマ科	ワラビ	
138		カタクリ	VU・播種	177	ゼンマイ科	ゼンマイ	
139		ツルボ		178	イワデンダ科	イヌワラビ	

*NT：準絶滅危惧、VU：絶滅危惧Ⅱ類、EN：絶滅危惧ⅠB類（カテゴリー評価は『埼玉県の希少野生生物植物編植物編 2011』による。）

● 第1章 2(3)生態系 ③鳥類 白岡市内で確認されたことのある鳥類一覧

No	種	標準和名	確認地	摘要	No	種	標準和名	確認地	摘要
1	キジ科	キジ	ひこべえの森		39	カワセミ科	カワセミ	運動公園	
2		コジュケイ	ひこべえの森		40	キツツキ科	コゲラ	ひこべえの森	
3	カモ科	コハクチョウ	柴山沼	NT1	41		アカゲラ	ひこべえの森	
4		ヒドリガモ	元荒川		42	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	ひこべえの森	NT2
5		マガモ	元荒川		43	モズ科	モズ	ひこべえの森	
6		カルガモ	元荒川		44	カラス科	カケス	ひこべえの森	
7		ハシビロガモ	元荒川		45		オナガ	ひこべえの森	
8		オナガガモ	元荒川		46		コクマルガラス	柴山沼	
9		コガモ	元荒川		47		ミヤマガラス	柴山沼	
10	カイツブリ科	カイツブリ	柴山沼		48		ハシボソガラス	柴山沼	
11		カンムリカイツブリ	柴山沼	VU	49		ハシブトガラス	柴山沼	
12	ハト科	キジバト	ひこべえの森		50	シジュウカラ科	コガラ	ひこべえの森	NT2
13		シラコバト	高岩	EN 国天	51		ヤマガラ	ひこべえの森	
14		カワラバト(ドバト)	運動公園		52		シジュウカラ	ひこべえの森	
15	ウ科	カワウ	運動公園		53	ヒバリ科	ヒバリ	ひこべえの森	
16	サギ科	ゴイサギ	運動公園		54	ツバメ科	ツバメ	ひこべえの森	
17		アオサギ	柴山沼		55	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	ひこべえの森	
18		ダイサギ	柴山沼		56	ウグイス科	ウグイス	ひこべえの森	
19		チュウサギ	柴山沼	VU	57	エナガ科	エナガ	ひこべえの森	
20		コサギ	柴山沼	NT2	58	メジロ科	メジロ	ひこべえの森	
21	クイナ科	バン	柴山沼	NT2	59	チメドリ科	ガビチョウ	ひこべえの森	外来
22		オオバン	柴山沼	NT1	60	ヨシキリ科	オオヨシキリ	運動公園	NT2
23	カッコウ科	ホトギス	八幡宮		61	ムクドリ科	ムクドリ	ひこべえの森	
24		カッコウ	八幡宮	NT2	62	ヒタキ科	トラツグミ	ひこべえの森	NT
25	チドリ科	タゲリ	運動公園	NT2	63		シロハラ	ひこべえの森	
26		イカルチドリ	元荒川		64		アカハラ	ひこべえの森	
27		コチドリ	プール前		65		ツグミ	ひこべえの森	
28	シギ科	クサシギ	運動公園		66		ジョウビタキ	ひこべえの森	
29		イソシギ	運動公園	VU	67		エゾビタキ	運動公園	
30	カモメ科	ユリカモメ	元荒川		68	スズメ科	スズメ	ひこべえの森	
31		コアジサシ	運動公園	CR	69	セキレイ科	ハクセキレイ	元荒川	
32	タカ科	トビ	柴山沼	DD	70		セグロセキレイ	元荒川	
33		ハイタカ	ひこべえの森	NT2	71	アトリ科	カワラヒワ	ひこべえの森	
34		オオタカ	ひこべえの森	VU	72		マヒワ	ひこべえの森	
35		サシバ	ひこべえの森	CR	73		シメ	ひこべえの森	
36		ノスリ	ひこべえの森	NT2	74	ホオジロ科	ホオジロ	ひこべえの森	
37		フクロウ	ひこべえの森	NT2	75		カシラダカ	ひこべえの森	
38	フクロウ科	アオバズク	ひこべえの森	NT2	76		アオジ	ひこべえの森	DD

*CR：絶滅危惧 1A 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型（種本来の特性として脆弱な要素をもつ種）、NT2：準絶滅危惧 2 型（生息状況の推移から判断して種の存続への圧迫が強まっていると判断される種、NT1・NT2 は埼玉県独自のカテゴリ）、DD：情報不足、(カテゴリ評価は『埼玉県レッドデータブック動物編 2018』による。)

● 第2章(2)埋蔵文化財

市内の埋蔵文化財包蔵地一覧

No.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	摘 要
1	諏訪八幡神社遺跡	柴山字宮野	集落跡	縄文早～後、古墳前、中～近世	縄文中期主体地点と後期主体地点とがある模様。発掘調査実施の正泉寺では近世～近代廃棄土坑から多量の遺物。
2	宮野遺跡	柴山字宮野	集落跡	縄文中・後、古墳前	
3	稻荷崎遺跡	柴山字稻荷崎	集落跡	縄文中、古墳前	
4	柏崎遺跡	柴山字柏崎	集落跡	縄文前・後	
5	しま岡遺跡	荒井新田字しま岡	集落跡	縄文前・後	遺跡名「しま」は山篇に寿。
6	上荒井ヶ崎西遺跡	荒井新田字上荒井ヶ崎	集落跡	縄文早・中・後	
7	上荒井ヶ崎遺跡	荒井新田字上荒井ヶ崎	集落跡	縄文早・中	
8	下荒井ヶ崎遺跡	荒井新田字下荒井ヶ崎	集落跡	縄文早・中・後、弥生末～古墳前、中世	
9	皿沼遺跡	下大崎字屋敷前	集落跡	縄文中・後、古墳前	埋没台地上の複合遺跡。縄文中～後期、古墳前期。
10	屋敷回遺跡	下大崎字屋敷回	集落跡	古墳前	
11	天神山西遺跡	下大崎字屋敷回	集落跡	古墳前	
12	天神山遺跡	下大崎字屋敷回	集落跡	縄文早、古墳前、奈良、平安	
13	天神山東遺跡	下大崎字屋敷回	集落跡	縄文早～中	
14	タタラ山遺跡	白岡字山	集落跡	旧石器、縄文草創～晩、古墳前、奈良、平安	縄文早期条痕文期から前期花積下層期にかけての拠点集落。特に花積期は70件を超える集落。良好な住居跡一括遺物、石製装飾品多数。
15	山遺跡	白岡字山	集落跡	旧石器、縄文早～後、奈良、平安、中世、近世	縄文中期後半の拠点集落。第3地点では炭焼窯跡を検出、1基は分析により8～9世紀。
16	新屋敷遺跡	白岡字茶屋	集落跡	縄文早～後、平安	中近世の陣屋跡(館跡)との伝承あり。
17	茶屋遺跡	白岡字茶屋	集落跡	縄文早・前、古墳前	縄文前期後半、古墳時代前期の集落遺跡。中世館跡の可能性も高い。第1地点では諸磯式と浮島式が相伴出土。第6地点ではS字状口縁台付甕が出土。
18	入耕地遺跡	白岡字茶屋	集落跡 館跡	旧石器・縄文早・後・晩、古墳前、中世、近世	縄文後～晩期の環状盛土を持つ集落、古墳時代前期の集落、中世館跡。白岡八幡宮と正福院との中間に位置することから野与党鬼窪氏関連の館跡と推定される。
19	正福院貝塚	白岡字茶屋	集落跡 貝塚、寺院跡	縄文前～晩、古墳前、中世	市指定史跡。貝塚は地点貝塚と斜面貝塚があるが未調査。正福院本堂の発掘調査では黒浜期の住居2を検出。
20	白岡東遺跡	白岡字東	集落跡	縄文早・前・後、中～近世	
21	神山遺跡	白岡字東・篠津字神山	集落跡 寺院跡	縄文前～後、古墳前、中・後、奈良、中世、近世	縄文、古墳前期の集落及び中世寺院。遺跡内の中世寺院・興善寺に関わる遺構・遺物群。第4地点では幅7m、深さ2.6mの大溝検出。
22	中妻遺跡	篠津字中妻	集落跡	縄文早～後・古墳前、奈良、平安、中世、近世	縄文早期、前期の集落、古墳後期、奈良・平安期の集落。墨書土器(坏)、布目瓦片出土。第10地点で精錬鍛冶を行った可能性の高い鍛冶工房跡を検出。
23	志部遺跡	篠津字志部	集落跡	奈良、平安	
24	西下谷遺跡	白岡字西下谷	集落跡	縄文中、古墳前	
25	七カマド遺跡	白岡字東下谷	集落跡	縄文後、中世～近代	溝跡1条(中・近世)、中世陶器、鉄滓
26	神辺遺跡	小久喜字神辺	集落跡	縄文後、近世	
27	沖山遺跡	小久喜字沖山	集落跡	縄文中	
28	沖山西遺跡	小久喜字沖山	集落跡	縄文中、奈良、平安、中～近世	縄文中期後半の集落遺跡であるほか、奈良・平安期の炭焼窯跡3基を検出。

No.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	摘 要
29	馬場遺跡	小久喜字馬場	集落跡	縄文中、近世	
30	西ノ谷西遺跡	実ヶ谷字西ノ谷	集落跡	縄文前・中	
31	西ノ谷遺跡	実ヶ谷字西ノ谷	集落跡	縄文中、奈良、平安	
32	川端遺跡	実ヶ谷字川端	集落跡	縄文中	
33	宮前西遺跡	実ヶ谷字宮前	集落跡	縄文中・後	
34	宮前遺跡	実ヶ谷字宮前	集落跡	縄文中	
35	鶴巻遺跡	実ヶ谷字鶴巻	集落跡	縄文中、奈良、平安	縄文中期・奈良平安期の集落。墨書土器出土。
36	前田遺跡	実ヶ谷字前田	集落跡	縄文中～晩	縄文中期後半～晩期の集落遺跡。縄文晩期の良好な遺物包含層。環状盛土の可能性あり。安行Ⅲb期の墓坑群検出。
37	東遺跡	実ヶ谷字東	集落跡	縄文中・晩	
38	西山遺跡	実ヶ谷字西山	集落跡	縄文中	
39	寺裏遺跡	実ヶ谷字寺裏	集落跡	縄文前～後、奈良、平安	
40	八幡遺跡	千駄野字八幡	集落跡	旧石器、縄文中	
41	四ツ谷西遺跡	千駄野字四ツ谷	集落跡	縄文	
42	四ツ谷遺跡	千駄野字四ツ谷	集落跡	古墳前	
43	原東遺跡	太田新井字原	集落跡	縄文後	
44	原遺跡	太田新井字原	集落跡	縄文中、近世	
45	原西遺跡	太田新井字原	集落跡	縄文後	
46	太田神社遺跡	太田新井字原	集落跡	縄文前・後、近世	
47	土橋山遺跡	太田新井字土橋山	集落跡	縄文後	
48	外記山遺跡	彦兵衛字外記山	集落跡	縄文後	
49	本田下遺跡	岡泉字本田下	集落跡 貝塚、墓	縄文早～後、中世、近世	縄文早期～後期の集落遺跡。早期炉穴群、前期黒浜期の地点貝塚あり。第1地点では、住居内貝塚(中期加曾利EⅢ)を確認。中世墓穴群。
50	大山遺跡	岡泉字大山	集落跡	縄文早	
51	丸山遺跡	岡泉字丸山	集落跡	縄文前・後、中世	
52	神台遺跡	岡泉字神台	集落跡	縄文中、古墳前、奈良、平安、中～近世	
53	台下遺跡	岡泉字台下	集落跡	縄文中・後、近世	
54	下道遺跡	岡泉字下道	集落跡	縄文中～晩	
55	清左衛門遺跡	彦兵衛字清左衛門	集落跡	縄文前～晩、中世	縄文前期～晩期の集落。特に後期初頭以降集落拡大。「大日沼の谷」に木組みの水場遺構を持つ。谷頭を囲むように晩期墓穴群検出。人面土板・土偶、石棒、石冠など祭祀遺物多数。
56	赤砂利遺跡	上野田字赤砂利	集落跡 寺院跡	縄文中・後、中世、近世	縄文中期集落、中世寺院大徳寺跡。中世貿易磁器(白磁・青磁)・中世陶磁器(常滑系・瀬戸美濃系皿・東播系)・中世和鏡(菊双鳥鏡)など出土
57	宿赤砂利遺跡	下野田字宿赤砂利	集落跡	縄文	埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査。
58	本村遺跡	上野田字本村	集落跡	縄文中・後、平安	
59	宿本村遺跡	下野田字宿本村	集落跡	縄文後、奈良、平安、近世	
60	宮山遺跡	上野田字宮山	製鉄跡	時期不明	製鉄遺跡。

No.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	摘 要
61	大町遺跡	高岩字大町	集落跡	縄文、平安、近世	
62	忠恩寺遺跡	高岩字寺下	集落跡	奈良、平安、中世	
63	西田端遺跡	高岩字西田端	集落跡	縄文中、平安	
64	高岩本村遺跡	高岩字本村	集落跡	縄文中	
65	上宿遺跡	高岩字上宿	集落跡	平安	
66	新田遺跡	爪田ケ谷字新田	集落跡	縄文中、中世	
67	新田東遺跡	爪田ケ谷字新田	集落跡	縄文前、中～近世	
68	萩原遺跡	爪田ケ谷字萩原	集落跡	平安、中～近世	
69	諏訪遺跡	爪田ケ谷字諏訪	集落跡	中世？	「諏訪山館」とも。
70	中通遺跡	爪田ケ谷字中通	集落跡	縄文中、中世	
71	本田西遺跡	爪田ケ谷字本田	集落跡	縄文中・後	
72	本田東遺跡	爪田ケ谷字本田	集落跡	縄文中・後	
73	州崎遺跡	爪田ケ谷字州崎	集落跡	縄文後	宮代町No.37と連続。
74	原遺跡	爪田ケ谷字原	集落跡	中～近世	
75	鶴ヶ曾根東遺跡	下野田字鶴ヶ曾根	集落跡	縄文中、近世	
76	鶴ヶ曾根西遺跡	下野田字鶴ヶ曾根	集落跡	縄文後	
77	上小笠原遺跡	彦兵衛字上小笠原	集落跡	縄文後、中～近世	縄文後期前半の集落遺跡。径 10m超の大型住居跡を伴う。
78	下小笠原遺跡	彦兵衛字下小笠原	集落跡	縄文中・後	
79	向野谷遺跡	太田新井字向野谷	集落跡	縄文中	
80	下野谷西遺跡	太田新井字下野谷	集落跡	縄文後、近世	
81	下野谷遺跡	太田新井字下野谷	集落跡	縄文中、中～近世	
82	下野谷東遺跡	太田新井字下野谷	集落跡	縄文後	
83	堂ヶ島西遺跡	太田新井字堂ヶ島	集落跡	縄文中・後	
84	堂ヶ島東遺跡	太田新井字堂ヶ島	集落跡	縄文前・中	
85	南鬼窪氏館跡	小久喜字中村	城館跡	旧石器、縄文中・晩、中世、近世	鬼窪尾張繁政の館跡。16世紀。館跡を区画する大規模な堀を検出。また中世埋納銭約2000枚を確認。第5地点では古代の炭焼窯検出。
86	海老島遺跡	太田新井字海老島	集落跡	縄文早～後、平安	埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査。

● 第2章(4) 既往調査の整理 ① 白岡町文化財資料調査

白岡町文化財資料調査の成果一覧

刊行年月	書名	調査報告内容
S50.12	白岡町の文化財1集	有形文化財 古文書(細井家文書ほか5件) 日川開発関係、遺跡・遺物類、神社仏閣、金石文 無形文化財 ささら獅子舞 大山詣 民俗資料 山車 庚申塔 記念物 天然記念物
S52.3	白岡町の文化財2集	有形文化財 古文書(浜田寅男家文書ほか3件) 石造物調査 (地藏、馬頭観音、供養塔、宝篋印塔、庚申塔) 神社調査 (住吉神社) 無形文化財 (新田のおしさま) 民俗調査 屋号(岡泉、小久喜、爪田ヶ谷、白岡、高岩、下大崎、柴山) 年中行事(太田新井、上野田、岡泉、実ヶ谷、千駄野、白岡、篠津、寺塚、高岩) 方言
S53.3	白岡町の文化財3集	有形文化財 古文書(大久保静一家文書ほか3件) 石造物調査 (地藏、馬頭観音、供養塔、宝篋印塔、不動明王、筆子塔) 水路・沼調査 (柴山沼、皿沼、庄兵衛堀、黒沼、笠原沼) 柴山伏越調査 民俗調査 屋号(上野田、下野田、太田新井、野牛、寺塚、篠津) 年中行事(柴山) 講(柴山、篠津、白岡、野牛、高岩、寺塚、小久喜、千駄野、上野田、太田新井) 伝説・言伝、子どもの遊び調査
S54.3	白岡町の文化財4集	有形文化財 古文書(浜田亮太郎家文書ほか7件) 石造物調査 (板石塔婆) 民俗調査 屋号(実ヶ谷) 年中行事(下大崎 N 家、野牛 N 家、白岡 H 家、新田のおしさま) 産育(小久喜、太田新井、爪田ヶ谷、白岡、柴山) 民間知識(俗信、民間療法、その他) 天然記念物 (岡泉、太田新井、爪田ヶ谷、実ヶ谷、上野田、下野田、柴山、下大崎、白岡、寺塚、野牛) 梨調査 (栽培法、伝播系譜)
S55.3	白岡町の文化財5集	地名調査 (全地区、大字、小字、小名)
S56.3	白岡町の文化財6集	有形文化財 古文書(田口家文書ほか7件) 民俗調査 年中行事調査(全地区) 民家調査(加藤豊吉家ほか9件)
S57.3	白岡町の文化財7集	神社仏閣信仰関係総合調査(日勝地区)
S57.10	白岡町の文化財8集	神社仏閣信仰関係総合調査(篠津・大山地区)

● 第2章(4)既往調査の整理 ②白岡町史編さん事業に係る調査 白岡町史刊行物一覧

刊行年月	書名	シリーズ名	調査報告内容
S57.3	地誌	白岡町史資料1	基礎資料として、新編武蔵国風土記稿と武蔵国郡村誌のうち、白岡に関する部分を抽出再録
S58.3	原始・古代Ⅰ (遺跡分布調査)	白岡町史資料2	調査期間 S57.1~4 町域全体の分布調査によって、84遺跡を確認
S58.3	民俗Ⅰ(大山地区の民俗)	白岡町史資料3	調査 S57 年度 調査内容:社会生活、作物の生産、年中行事、祭りと信仰、人の一生、身の回りの生活史、昔話と伝説、水と暮らし 調査範囲:柴山、荒井新田、下大崎
S58.3	白岡町社寺堂庵書上		白岡町史資料1 地誌に再録した新編武蔵国風土記稿と武蔵国郡村誌及び、社寺堂庵明細帳を基に、市域の神社、仏閣の変遷を把握
S58.	民俗Ⅱ(篠津地区の民俗)	白岡町史資料4	調査 S58 年度 調査内容:社会生活、篠津宿のいとなみ、生産生業、年中行事、信仰、人の一生、身の回りの生活史、昔話と伝説 調査範囲:篠津、野牛、高岩、寺塚、白岡
S59.	ふるさと白岡		普及版、市民の関心を高め円滑な調査と資料・情報収集を意図して発行。全戸配布
S60.3	篠津地区文書目録	白岡町史調査報告書1	調査 ~S59.12 内容:21家2,090点の諸家文書(近世、近代、典籍)また、社寺、講中等所蔵の信仰関係文書74点の目録 調査範囲:篠津、野牛、高岩、寺塚、白岡
S61.2	新聞・公報 (新聞にみる白岡のできごと)	白岡町史資料5	所収期間:明治11年~昭和49年 収録紙は、坂東日報、埼玉新報、武蔵新報、五県新聞、国民新聞、東武新報、東京日日新聞、朝日(東京朝日)新聞、読売(読売報知)新聞、埼玉新聞 目録及び主要記事の集成 日勝村公報再録
S61.3	日勝地区文書目録	白岡町史調査報告書2	調査 ~S60.12 内容:8家2,537点の諸家文書(近世、近代、典籍)また、社寺、講中等所蔵の信仰関係文書7点の目録 調査範囲:上野田、下野田、爪田ケ谷、太田新井、彦兵衛
S61.3	金石Ⅰ	白岡町史資料6	調査:S57.4~60.12(市域の悉皆調査)調査対象:S29.8 までの造立 内容:板石塔婆135基、五輪塔55基・宝篋印塔40基(寛永年間まで・いずれも部分を含む)、金工品(梵鐘5・半鐘20・鐃口8・記録を含む)、筆子塔67基、開山、中興開山等墓石23基
S62.1	自然(ふるさとの風土)	白岡町史資料7	調査:S60.10~61.9(樹木調査) 内容:自然現況 自然環境と植生 ふるさとの森と緑屋敷林、社寺林、斜面林20か所、巨樹・銘木40件 生活と動植物(景観、季節の食と動植物、遊びと動植物、動植物の地方名)動植物今昔
S62.3	民俗Ⅲ(日勝地区の民俗)	白岡町史資料8	調査 ~S61 年度 調査内容:社会生活、生産生業、年中行事、信仰、人の一生、身の回りの生活史、昔話と伝説、交通交易、芸能 調査範囲:岡泉、千駄野、小久喜、美ヶ谷、太田新井、上野田、下野田、爪田ケ谷、彦兵衛
S62.3	原始・古代Ⅱ (個人所蔵遺物調査)	白岡町史資料9	調査 S60~61 年度 調査内容:個人所蔵遺物24家 国学院大学入耕地遺跡発掘調査報告再録、国学院大学考古学資料館所蔵遺物、興善寺所蔵遺物、
S62.10	近世文書Ⅰ(近世文書にみる白岡のできごと)	白岡町史資料10	調査 ~S61 年度 内容:諸家文書の内、水争いなどをはじめ当時の村々の様子のわかる資料132点を年代、地域別に収録。
S63.1	金石Ⅱ(石仏・供養塔)	白岡町史資料11	調査:S57.4~60.12(市域の悉皆調査)調査対象:S29.8 までの造立 内容:石仏(阿弥陀如来14基、観音菩薩13基、馬頭観音61基、勢至菩薩1基、虚空蔵菩薩2基、地藏菩薩88基、不動明王7基(脇侍含む)、庚申塔80基、その他8基)、供養塔(巡拝塔19基、廻国塔6基、読誦塔13基、光明真言塔5基、念仏供養塔9基、名号塔3基、石橋・敷石供養塔6基、二十三夜塔2基、その他3基)
S63.3	金石Ⅲ(神社奉納石・記念碑)	白岡町史資料12	調査:S57.4~60.12(市域の悉皆調査)調査対象:S29.8 までの造立 内容:神社奉納石(鳥居19基、幟立23基、標柱12基、燈籠37基、手洗石29基、狛犬・眷属9基、力石41基、石段・敷石11基)、諸社諸神(稻荷社12基、天神・天満社17基、山嶽信仰21基、その他の諸神36基)、記念碑(社寺本屋改修記念碑17基、奉納寄進記念碑20基、参拝記念碑22基、慰霊・従軍記念碑8基、交通・土地・用水記念碑4基、その他の記念碑10基)
H1.3	白岡町史 通史編 上巻		原始~近世
H2.3	白岡町史 民俗編		調査期間:S57~61 年度 内容 白岡町史資料民俗Ⅰ~Ⅲを基に編集
H3.3	写真で見る白岡町の近現代	白岡町史資料13	調査:H1.8~H2 年度 内容:空から見る白岡、人々の暮らし、信仰と文化、産業と経済、教育、政治と行政、水利と災害、社会と福祉、消防、交通と通信、兵事と戦争 写真提供者(団体)85 掲載写真 147
H3.8	日勝村誌	白岡町史資料14	内容:「日勝村誌」(T14 発行)を再録
H4.9	白岡町史 通史編 下巻		近代~現代(昭和29年まで)

● 第2章(4)既往調査の整理 ③埋蔵文化財発掘調査 発掘調査報告書一覧

No.	刊行年	執筆者名、文献名、など	シリーズ名	発行者
1	1951	樋口清之 永峰光一「埼玉県南埼玉郡篠津白岡入郷地遺跡発掘調査略報」	『若木考古』5号	國学院大学
2	1983	『血沼遺跡発掘調査報告書』	白岡町文化財調査報告書 第1集	白岡町教育委員会
3	1984	『茶屋遺跡』	白岡町埋蔵文化財調査報告書第2集	白岡町教育委員会
4	1985	『三番耕地・十八番耕地・十二番耕地・神山』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第43集	埼玉県埋蔵文化財調査事業団
5	1987	『タタラ山遺跡』	白岡町タタラ山遺跡調査会調査報告	タタラ山遺跡調査会
6	1987	『鶴ヶ曽根西遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅰ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第3集	白岡町教育委員会
7	1988	『神台遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第4集	白岡町教育委員会
8	1989	『本田下遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅲ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第5集	白岡町教育委員会
9	1990	『山遺跡』	白岡町遺跡調査会調査報告書第1集	白岡町遺跡調査会
10	1990	『下道遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅳ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第6集	白岡町教育委員会
11	1994	『正福院貝塚』	白岡町遺跡調査会調査報告書第2集	白岡町遺跡調査会
12	1996	『タタラ山遺跡(第3地点)』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅴ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第7集	白岡町教育委員会
13	1996	『入耕地遺跡(第2地点)』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅵ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第8集	白岡町教育委員会
14	1996	『赤砂利遺跡』	白岡町遺跡調査会調査報告書第3集	白岡町遺跡調査会
15	1996	『南鬼窪氏館跡(第1地点・第2地点)』	白岡町遺跡調査会調査報告書第4集	白岡町遺跡調査会
16	1997	『鶴巻遺跡』	白岡町遺跡調査会調査報告書第5集	白岡町遺跡調査会
17	1998	『前田遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅶ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第9集	白岡町教育委員会
18	1998	『茶屋遺跡(第2地点・第3地点)』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅷ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第10集	白岡町教育委員会
19	1999	『海老島遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第256集	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
20	1999	『山遺跡(第4地点)』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅸ	白岡町埋蔵文化財報告書第11集	白岡町教育委員会
21	2003	『タタラ山遺跡(第5地点・第6地点)』町内遺跡群発掘調査報告書Ⅹ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第12集	白岡町教育委員会
22	2004	『赤砂利遺跡(第2地点)』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅠ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第13集	白岡町教育委員会
23	2005	『タタラ山遺跡(第7地点)』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅡ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第14集	白岡町教育委員会
24	2006	『諏訪八幡神社遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅢ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第15集	白岡町教育委員会
25	2007	『入耕地遺跡(第5地点・第6地点)』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅣ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第16集	白岡町教育委員会
26	2008	『新屋敷遺跡・中妻遺跡(第1地点)・鶴巻遺跡(第2地点)・清左衛門遺跡(第1地点)・赤砂利遺跡(第3地点・第4地点)・大町遺跡』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅤ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第17集	白岡町教育委員会
27	2008	『茶屋遺跡(第4地点・第5地点・第6地点)』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅥ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第18集	白岡町教育委員会
28	2008	『タタラ山遺跡—第2地点—』	白岡町遺跡調査会調査報告書第6集	白岡町遺跡調査会
29	2008	『山遺跡—第2地点—』	白岡町遺跡調査会調査報告書第7集	白岡町遺跡調査会
30	2009	『清左衛門遺跡(第2地点)』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅦ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第19集	白岡町教育委員会
31	2010	『タタラ山遺跡—第4地点—』	白岡町遺跡調査会調査報告書第8集	白岡町遺跡調査会
32	2010	『入耕地遺跡—第1・3地点—』	白岡町遺跡調査会調査報告書第9集	白岡町遺跡調査会
33	2011	『山遺跡(第7地点)』町内遺跡群発掘調査報告書ⅩⅧ	白岡町埋蔵文化財調査報告書第20集	白岡町教育委員会
34	2012	『入耕地遺跡—第4・7地点—』	白岡町遺跡調査会調査報告書第10集	白岡町遺跡調査会

No.	刊行年	執筆者名、文献名、など	シリーズ名	発行者
35	2012	『中妻遺跡(第2・4・8地点)』町内遺跡群発掘調査報告書XIX	白岡町埋蔵文化財調査報告書第21集	白岡町教育委員会
36	2013	『上小笠原遺跡(第1・2・3地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XX	白岡市埋蔵文化財調査報告書第22集	白岡市教育委員会
37	2014	『前田遺跡(第2地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXI	白岡市埋蔵文化財調査報告書第23集	白岡市教育委員会
38	2015	『沖山遺跡(第1地点)・沖山西遺跡(第1・2・3地点)・大町遺跡(第2地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXII	白岡市埋蔵文化財調査報告書第24集	白岡市教育委員会
39	2015	『清左衛門遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第416集	(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
40	2016	『中妻遺跡(第9・10・11・12・17地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXIII	白岡市埋蔵文化財調査報告書第25集	白岡市教育委員会
41	2017	『七カマド遺跡(第1地点)・赤砂利遺跡(第5・7・10・11地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXIV	白岡市埋蔵文化財調査報告書第26集	白岡市教育委員会
42	2018	『入耕地遺跡(第8・9・11地点)・正福院貝塚(第2地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXV	白岡市埋蔵文化財調査報告書第27集	白岡市教育委員会
43	2018	『赤砂利・宿赤砂利遺跡』	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第443集	(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
44	2019	『入耕地遺跡(第10・12地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXVI	白岡市埋蔵文化財調査報告書第28集	白岡市教育委員会
45	2020	『神山遺跡(第2・3・4・7・8地点)』市内遺跡群発掘調査報告書XXVII	白岡市埋蔵文化財調査報告書第29集	白岡市教育委員会

● 第2章(4)既往調査の整理 ④埼玉県の調査 白岡市の関係する埼玉県調査報告書一覧

刊行年月	書名	シリーズ名	調査期間	調査主体・発行者
S54.3	埼玉県民俗地図	民俗文化財緊急分布調査報告書	S52～S53	埼玉県教育委員会
S56.3	埼玉県板石塔婆調査報告書 本文・図版編、資料編(1・2) 付録		S51～S56	埼玉県教育委員会
S57.3	県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書	埼玉県歴史の道調査報告書	S56～S57	埼玉県立教育委員会
S57.3	埼玉の文化財 -史跡編-	埼玉の文化財シリーズ 4	S57	埼玉県教育委員会
S57.3	埼玉の人形芝居用具(上巻)	埼玉県人形芝居用具緊急調査報告書	S46	埼玉県教育委員会
S58.3	埼玉の人形芝居用具(下巻)	埼玉県人形芝居用具緊急調査報告書	S46	埼玉県教育委員会
S59.3	日光御成道	歴史の道調査報告書 第2集	S58～S59	埼玉県教育委員会
S59.3	埼玉の近世社寺建築 -埼玉県近世社寺建築緊急調査報告書-	埼玉県有形文化財調査報告 I	S57	埼玉県教育委員会
S59.10	埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書 I 目録編 II 解説・史料編		S54～S59	埼玉県立文書館
S59.3	唐臼	埼玉県民俗工芸緊急調査報告書第1集	S57～S58	埼玉県立民俗文化センター
S60.3	曲物	埼玉県民俗工芸緊急調査報告書第2集	S57～S59	埼玉県立民俗文化センター
S61.3	刳物	埼玉県民俗工芸緊急調査報告書第3集	S58～S60	埼玉県立民俗文化センター
S60.3	埼玉県大正建造物緊急調査報告書	埼玉県有形文化財調査報告 II	S56～S58	埼玉県教育委員会
S61.3	埼玉の祭り	埼玉県祭礼基本資料収集調査報告書	S57～S59	埼玉県教育委員会
S62.3	美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書Ⅲ		S52～S55	埼玉県立博物館
S60.3	埼玉の鍛冶(所在調査結果一覧別冊有)	埼玉県民俗工芸調査報告書 第3集	S58～S59	埼玉県立民俗文化センター
S61.3	埼玉のかわら	埼玉県民俗工芸調査報告書 第4集	S58～S59	埼玉県立民俗文化センター
S62.3	埼玉の桐細工	埼玉県民俗工芸調査報告書 第5集	S60～S61	埼玉県立民俗文化センター
S62.10	埼玉の城館跡		S41～S42	埼玉県教育会編 国書刊行会発行
S63.3	埼玉の中世城館跡		S58～S62	埼玉県教育委員会
S63.3	埼玉県の諸職	埼玉県諸職関係民俗文化財調査報告書	S61～S62	埼玉県教育委員会
H2.3	埼玉県神社関係古文書調査報告書		S62～H1	埼玉県教育委員会

発行年月	書名	シリーズ名	調査期間	調査主体・発行者
H 3. 3	元荒川の水運	歴史の道調査報告書 第13集	H2.~H3	埼玉県教育委員会
H 4. 3	埼玉の中世寺院跡		S63~H3	埼玉県教育委員会
H 4. 3	埼玉県の民俗芸能	埼玉県民俗芸能緊急調査報告書	H2~H3	埼玉県教育委員会
H 5. 2	中川水系-I 争論・II 自然- 中川水系関係年表 別表	中川水系総合調査報告書 1	H1~H4	埼玉県
H 5. 2	中川水系-III 人文-	中川水系総合調査報告書 2	H1~H4	埼玉県
H 6. 3	埼玉県古墳詳細分布調査報告書		H1~H5	埼玉県教育委員会
H 6. 3	埼玉のオビシヤ行事	埼玉のオビシヤ行事調査事業報告書	H4~H5	埼玉県教育委員会
H8.	平成8年 彩の川の一里塚基礎調査報告書			埼玉県南部河川改修事務所
H 8. 2	埼玉の祭り囃子VI(北埼玉・南埼玉・北葛編)	埼玉県民俗芸能調査報告書 第12集	H6~H7	埼玉県立民俗文化センター
H 9. 1	埼玉の祭り・行事	埼玉の祭り・行事調査事業報告書	H6~H8	埼玉県教育委員会
H 9. 3	埼玉の草屋根葺き	埼玉県民俗工芸調査報告書第12集	H7~H8	埼玉県立民俗文化センター
H10. 2	埼玉人物事典		H5~H9	埼玉県教育委員会
H10. 3	埼玉県中世石造物調査報告書 I 本文・資料編 II 図版編		H4~H9	埼玉県教育委員会
H13. 2	埼玉県の歴史的土木構造物		H12	埼玉県建設コンサルタント技術研修協会
H25. 3	埼玉の夏祭り調査概報 I -北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾-		H24	埼玉県立歴史と民俗の博物館
H29. 3	埼玉県の近代和風建築	埼玉県近代和風建築総合調査報告書	H26~H28	埼玉県教育委員会

● 第2章(4)既往調査の整理 ⑤埼玉県東部地区文化財担当者の調査

埼玉県東部地区文化財担当者会調査報告書一覧

刊行年月	書名	シリーズ名	調査期間	調査報告内容
H5.3	埼玉の民具	埼玉地区文化財担当者会報告書第1集	H2~3	所蔵民具調査
H8.2	埼玉の道しるべ	埼玉地区文化財担当者会報告書第2集	H4~5	道しるべ調査
H13.3	埼玉の縄文前期	埼玉地区文化財担当者会報告書第3集	H6~10	縄文時代前期遺跡調査
H13.3	埼玉のまつり・行事	埼玉地区文化財担当者会報告書第4集	H9~11	祭礼・行事調査
H17.3	埼玉の酒文化	埼玉地区文化財担当者会報告書第5集	H12~16	酒造・流通・用具調査
H19.5	埼玉の遺跡	埼玉地区文化財担当者会報告書第6集	H15~17	遺跡分布状況調査
H25.12	埼玉・北埼玉の水塚	埼玉地区文化財担当者会報告書第7集	H17~24	水塚、水害調査
H27.11	埼玉県東部地区の交通	埼玉県東部地区文化財担当者会報告書第8集	H22~27	交通史調査

● 第2章(4)既往調査の整理 ⑥その他の調査

刊行年月	書名・調査名	調査主体	調査期間	調査報告内容
H25.1	中島撫山と白岡	白岡市(町)教育委員会	H24~25	中島撫山墨跡・記念碑調査

●第4章 (1) 市民参画による文化財の把握 「みんなで作ろう白岡遺産ワークショップ」ワークシート

白岡遺産のストーリーづくりワークシート1

テーマ 鎌倉街道と中世寺院

1 地域の概要(想定する白岡遺産のストーリーや関連文化財群の所在する地域の概要をまとめましょう)			
把握した文化財や文化資源	(1) 自然・地理的環境	・市域は、中央部を流下した旧日川によって大きく2分されていると見ることができる、東側は、大宮台地の慈恩寺支台に位置し、岩付方面から伸びる伝鎌倉街道中道に沿って中世起源の寺社が並ぶ。 ・西側は、大宮台地の白岡支台に位置し、武蔵七党の野与党鬼窪氏の本願地であることから、やはり、中世起源の寺社が多い。	
	(2) 社会的環境	・鎌倉街道中道をもとに近世に整備された日光御成道は、現在県道さいたま幸手線として市域東部の交通の基幹となっている。 ・白岡・篠津は、市域の中央部に位置し、白岡八幡宮や正福院、興善寺など古社、古刹の集まる地域で、現在の県道さいたま・栗橋線沿線にあたる。	
	(3) 歴史的背景	・慈恩寺支台側は、中世以来太田荘に属し、岩付太田氏等とのつながりが深い。 ・白岡支台側は、騎西領に属し鬼窪氏ゆかりの館跡群から発すると思われる鎌倉街道といわれる道筋が存在する。	
	2 文化財総合把握調査(想定する白岡遺産のストーリーや地域に所在する文化財や文化資源を総合的に把握しましょう)		
		①建造物(構造物)	伝鎌倉街道中道、安楽寺、大徳寺、正伝寺、忠恩寺、高岩天満神社、上野田鷲神社、太田神社、一里塚、義理橋、往還橋、六兵衛橋、上野田浅間神社、米津氏手水鉢、入耕地館跡、鬼窪尾張繁正館跡、白岡八幡宮、正福院、興善寺、篠津久伊豆神社、中妻遺跡、神山遺跡
		②史跡・名勝	日光御成道、石橋(供養塔)、八幡宮のカヤ、イヌザクラ、正福院貝塚
		③有形文化財(未指定文化財を含む)	安楽寺薬師如来坐像、安楽寺円空仏、忠恩寺山門、十三仏、九品仏、忠恩寺文書、大徳寺大日如来、高岩天満神社絵馬、安楽寺十三仏龕、赤砂利遺跡和鏡、清左衛門遺跡道路状遺構、濱田家文書、澁谷圀彦家文書、鬼久保家文書、木造達磨大師、興善寺中世石造物群、白岡八幡宮鰐口、金銅仏、興善寺朱印状
		④無形文化財(未指定文化財・まつり・行事を含む)	
		⑤集落・地名	大日沼、清左衛門、赤砂利、宮山、日川宮市、紅葉大門、大日、彦兵衛、堂磯、八幡磯、天神磯、タタラ山、鷹匠橋、金剛橋、鎌倉街道、実丁野、陣屋屋敷、陣屋山、岡屋敷、茶屋
⑥言伝え・昔話		大徳寺の三十三間堂、大徳寺脇屋義助、大徳寺大日如来伝説、正伝寺開山様、正伝寺聖徳太子、野与道、赤池	
⑦人物		吉田将監、渋江兼重、太田資正、鬼窪氏、佐々木氏	
⑧生活文化(衣食住・技・遊び・知恵)			
⑨その他(地域のお宝)			
(2)文化財・文化資源などの特徴と概要(文化財の歴史的・地理的な分布状況や、構造・様式的な特徴などをまとめましょう)			
・中世起源の寺社や文化財は、「日川筋」を挟んで東側の慈恩寺支台側と西側の白岡支台側に大別できる。東側は、鎌倉街道中道を軸とした寺社及びその関連文化財群が目立ち、中世後期には、岩付太田氏との関係が強い。 ・西側では、寺社はもちろんであるが、鬼窪氏の本拠地として、館跡が目立つ。交通路としては、荒川が使われたと考えられる。鬼窪氏のほか、菖蒲城佐々木氏の影響力も大きい。			
3 地域の歴史文化の特徴(自然的・地理的環境や社会的状況、歴史的背景及び文化財の概要・特徴を踏まえ、地域の歴史文化の特徴を簡潔にまとめましょう)			
・市域の歴史文化を考えると、中世期に一つ大きなピークがある。旧日川は、太田荘と埼玉西側との境、星川をたどると、上流の菖蒲、騎西、忍へつながるルートが浮かび上がる。中世においても川筋が大きなキーワードとして浮かび上がる。			

白岡遺産のストーリーづくりワークシート2

テーマ 用排水路と川の立体交差

1 地域の概要(想定する白岡遺産のストーリーや関連文化財群の所在する地域の概要をまとめましょう)		
(1)	自然・地理的環境	・市域の西側蓮田市境を元荒川が、北側久喜市境を星川が流下する。また、かつては、市域のほぼ中央部を利根川水系の「日川」が南流していたことが知られている。 ・市域には、大山地区の柴山沼、皿沼に代表される沼地や後背湿地が広く分布していた。
	(2) 社会的環境	今日、圃場整備が行われ、田畑だけでなく、水路や道路の整備が行われ、農業環境は飛躍的に改善している。反面、田植えや稲刈り、水路の藻刈りなどを村の共同作業としておこなう気風は失われつつある。 また、近年は、農業後継者不足から休耕地が増えていることも問題である。
	(3) 歴史的背景	江戸期の新田開発は、何回かの波があり、その都度市域でも連動した動きがある。初期の動きは、伊奈備前守が主導した河川改修、用排水整備など。2度目となる享保期の新田開発の影響が大きい。見沼、黒沼、笠原沼などの開発やこれに伴う用排水路整備である。
2 文化財総合把握調査(想定する白岡遺産のストーリーや地域に所在する文化財や文化資源を総合的に把握しましょう)		
把握した文化財や文化資源	①建造物(構造物)	庄兵衛堰樁、柴山伏越、三十六間樋管、二十六間樋管、白石様堀、見沼代用水黒沼用水、笠原用水、隼人堀川、姫宮落、備前堀、庄兵衛堀、山城堀、新堀
	②史跡・名勝	
	③有形文化財(未指定文化財を含む)	日川水除堤争論裁許絵図、古川水除堤争論裁許絵図、堤土置争論裁許絵図、富士庫純一家文書、鬼久保家文書、細井昇家文書、澁谷園彦家文書
	④無形文化財(未指定文化財・まつり・行事を含む)	川や、水路が集落の結界となることが多く、橋での道きりや災禍を流す行事、風習あり。篠津天王様ほか、あんばさま(高岩)
	⑤集落・地名	論所堤、名尻堤、荒井新田、彦兵衛新田、亥開、岡泉新田(日川新田)、千駄野(小久喜新田)、大沼(柴山沼)
	⑥言伝え・昔話	
	⑦人物	大河内金兵衛、戸田山城守、新井白石、伊奈備前守、井沢弥惣兵衛、山崎礼助、新兵衛・彦兵衛
	⑧生活文化(衣食住・技・遊び・知恵)	ホツケ、舟遊び、魚とり(釣)
	⑨その他(地域のお宝)	川の立体交差
(2)文化財・文化資源などの特徴と概要(文化財の歴史的・地理的な分布状況や、構造・様式的な特徴などをまとめましょう)		
・各用排水路はもちろん、これに伴う樋管などの構造物のほか、新田開発や、災害、争論の様子などを示す村方の古文書類や争論の裁許状や裁許絵図などが残り、水の恵みと災いにかかる地域独特の状況が浮き彫りにされる。歳月を重ねながら、人々が知恵を出しながら折り合いをつけてきた結果、多数の用排水路が網の目のように配され、ところどころで、水路が立体交差する状況も生じた。		
3 地域の歴史文化の特徴(自然的・地理的環境や社会的状況、歴史的背景及び文化財の概要・特徴を踏まえ、地域の歴史文化の特徴を簡潔にまとめましょう)		
・勾配のゆるい土地で、排水の悪い後背湿地や沼地の多い地域に排水路を掘り、田畑を切り拓いてきた歴史がある。河川や用排水路の立体交差を行う土木技術や構造物も地域の特徴を示す。人々が難しい土地経営や治水利水の折り合いをつけるために残した裁許状や絵図も土地の性質を反映する歴史文化である。		

白岡遺産のストーリーづくりワークシート3

テーマ 柴山沼と大山地区

1 地域の概要(想定する白岡遺産のストーリーや関連文化財群の所在する地域の概要をまとめましょう)

(1) 自然・地理的環境

- ・市域西部に当たる。エリア中央には柴山沼が位置し、南側に元荒川、北側に星川が流下する。
- ・柴山沼の西側（久喜市菖蒲町）には栢間沼が、東側にはかつて皿沼があった。
- ・外見上平坦で水田と梨園が広がる。柴山、荒井新田、下大崎の集落はそれぞれローム台地上に位置するが、関東造盆地運動によって沈降した埋没ローム台地である。

(2) 社会的環境

- ・梨産地として有名だが、後継者不足で作付面積減少。
- ・市街地から距離があり、人口の通減傾向が続いている。
- ・農地が多い。圏央道白岡・菖蒲 IC が置かれたことで、物流拠点としての活用が始まっている。

(3) 歴史的背景

- ・近世は、旗本領。柴田氏、天野氏、南条氏、川副氏など。
- ・明治 22 年の合併で大山村（大崎村の「大」と柴山村の「山」から命名）
- ・見沼代用水柴山伏越は有名。見沼通船の積み替え拠点橋戸を中心に栄えた。

2 文化財総合把握調査(想定する白岡遺産のストーリーや地域に所在する文化財や文化資源を総合的に把握しましょう)

把握した文化財や文化資源	①建造物(構造物)	・柴山伏越、常福寺橋、水塚群、三十六間樋管、栢間堀、橋戸集落の建造物 野通川の水利工、旧大山小学校校舎、水塚
	②史跡・名勝	・井沢弥惣兵衛分骨墓、柴山伏越
	③有形文化財 (未指定文化財を含む)	・柴山諏訪八幡神社奉納絵馬、下大崎住吉神社奉納絵馬、下大崎全龍寺欄間彫刻他 岡安良家金銅仏、岡安家・江原家等中島撫山墨跡、田口家文書（水争い裁許絵図）、 荒井新田高札
	④無形文化財 (未指定文化財 ・まつり・行事を含む)	・柴山天王様、柴山おししさま、下大崎とうろう、ナイダー、お囃子
	⑤集落・地名	・柴山、荒井新田、下大崎、橋戸、皿沼、陣屋、高札場、水神下、瀬、前沼、後沼 屋敷回、船着場、
	⑥言伝え・昔話	・いっとこ団子・蛇女房・住吉神社の石額・七不思議
	⑦人物	・井沢弥惣兵衛・山崎禮助・佐々木氏（菖蒲城主）・旗本南条氏・江原善兵衛
	⑧生活文化 (衣食住・技・遊び・知恵)	・魚とり・ほっつけ・揚舟・柴山おししさま・伏越の度胸試し
	⑨その他 (地域のお宝)	・柴山沼（大沼）・旧大山小学校校舎・梨・伏越

(2)文化財・文化資源などの特徴と概要(文化財の歴史的・地理的な分布状況や、構造・様式的な特徴などをまとめましょう)

- ・柴山沼を中心とする元荒川や星川の形成した沖積地や後背湿地に立地するため、絶えず排水に苦勞してきた。このため、元禄水争い裁許絵図が残されているほか、柴山や荒井新田には水塚や揚舟が数多く残される。柴山沼の下流は、ローム台地によって区画され排水が良くない。下大崎では「蒔田」耕作も行われていたという。
- ・反面、小魚や藻など沼の恩恵を得てきた。梨生産が盛んな理由も、地下水位が高くみずみずしい梨が採れることによる。
- ・市域全体にわたるが、近世の新田開発の歴史の産物として用排水路が非常に多い。大山地区では、栢間堀や沼落堀、上田用水など生活に密着した水路が多いことも特徴。かつては、柴山沼に通じる専用水路を持つ

3 地域の歴史文化の特徴(自然的・地理的環境や社会的状況、歴史的背景及び文化財の概要・特徴を踏まえ、地域の歴史文化の特徴を簡潔にまとめましょう)

- ・近世期の新田開発は、柴山沼や皿沼をめぐる開発の歴史と直結している。見沼代用水や栢間堀などの開削や「ほっつけ」など湿地開発を通して、水の災いから逃れ水の恵みを受ける暮らしが根付いた。見沼通船など舟運も人々の暮らしに大きな恩恵をもたらした。
- ・主産業である農業でも、稲作のほか、梨栽培が発達した。

白岡遺産のストーリーづくりワークシート4

テーマ 野牛地区と新井白石

1 地域の概要 (想定する白岡遺産のストーリーや関連文化財群の所在する地域の概要をまとめましょう)		
(1)	自然・地理的環境	・市域北部、久喜市境に当たる。旧日川流路とその自然堤防にあたる。 ・広い後背湿地を使った稲作が盛ん。市内ではおいしいお米の産地として有名。 ・「蓮河原」の地名が残る。古代ハス生育地。 ・集落は、南北に細長い自然堤防上に立地。
	(2) 社会的環境	・昭和62年にJR宇都宮線新白岡駅が開業。これに伴う区画整理事業の実施による急速な宅地化。地名の変更も行われる。 ・地区の西側を東北自動車道、北側を圏央道が通過するほか東北新幹線の高架も通過する。 ・都市計画道路野牛・柴山線開通により市外からも新白岡駅利用者が集まる。
	(3) 歴史的背景	・18世紀初頭、旗本新井白石の領地となり、その後も新井氏領として幕末を迎える。 ・新井白石の領地経営の影響が強く残り、白石様堀、郷倉などの遺跡とともに、多くの関連文化財が残る。 ・日川周辺の後背湿地を開発するために、大小の排水路が多い。久喜市境には備前堀、寺塚・篠津境に姫宮落、地区内を斜行する白石様堀などのほかにも多くの水路が設けられた。
2 文化財総合把握調査 (想定する白岡遺産のストーリーや地域に所在する文化財や文化資源を総合的に把握しましょう)		
(1) 把握した文化財や文化資源	①建造物(構造物)	笠原用水、庄兵衛堀(堰枠)、日川、姫宮落、備前堀
	②史跡・名勝	殿様(白石様)堀、郷倉跡(記念碑)、久伊豆神社、観福寺(宝篋印塔・漂着神)
	③有形文化財(未指定文化財を含む)	白石肖像画、久伊豆神社扁額・下書、直筆漢詩、折り焚く柴の記、久伊豆神社絵馬群、大久保家文書、石橋供養塔、道しるべ
	④無形文化財(未指定文化財・まつり・行事を含む)	庚申講、御嶽講、おしっさま、筑後様まつり
	⑤集落・地名	野牛(柳生)、蓮河原、内舞台、橋場、散財、沖ノ前、内出、菖蒲田、石宮、南谷、中沖、藤井、北谷、稲荷田、中ノ宮
	⑥言伝え・昔話	鷹匠湯、片葉の葦
	⑦人物	新井白石、伊奈備前守
	⑧生活文化(衣食住・技・遊び・知恵)	
	⑨その他(地域のお宝)	古代蓮、石橋供養塔、道しるべ
(2)文化財・文化資源などの特徴と概要 (文化財の歴史的・地理的な分布状況や、構造・様式的な特徴などをまとめましょう)		
・開村は近世初期、南北に伸びる自然堤防を中心に集落が営まれ、村域中ほどに野牛久伊豆神社と観福寺がある。江戸中期に領主となった新井白石もこの社寺を尊崇していたものと思われ、同社の扁額は白石が正徳の朝鮮通信使製述官の李磻(イヒョン)に揮毫してもらったものである。観福寺には白石の肖像画が残されている。このほか、名主家に残された自筆の漢詩、折り焚く柴の記の写本などが残される。 ・土地改良工事に伴って埋没種子から発生した古代ハスは、中の宮の蓮池で毎年見事な花を咲かせている。		
3 地域の歴史文化の特徴 (自然的・地理的環境や社会的状況、歴史的背景及び文化財の概要・特徴を踏まえ、地域の歴史文化の特徴を簡潔にまとめましょう)		
・日川流路に位置する野牛は、水利などの関係から、北隣の久喜市域の村々や、南隣の篠津村、寺塚村などのかかわりが深く、明治期以降も久喜や篠津と連携してきた。庄兵衛堀から灌漑用水を引く「庄兵衛堰」が篠津・野牛・高岩の3村境におかれたのも両村の共同意識の表れと思える。 ・新井白石の新田開発により村高が上がり、救荒対策などを施した白石に対する強い尊敬の念は「筑後様まつり」として継承されてきた。途絶えていた祭りの復活は地域文化の興隆に大きく寄与するものと思われる。		

白岡遺産のストーリーづくりワークシート5

テーマ 篠津の繁栄と教育

1 地域の概要(想定する白岡遺産のストーリーや関連文化財群の所在する地域の概要をまとめましょう)

(1) 自然・地理的環境

- ・市域中央北部に位置し、大宮台地白岡支台を中心に展開する。
- ・台地は、関東造盆地運動の影響を受け、北進するほど低くなる。久喜市境では標高11mほどとなる。
- ・台地西側は、荒川水系の元荒川と星川が、東側は利根川水系の日川が流下する。両水系の最接近地点にあたる。

(2) 社会的環境

- ・昭和40年代初頭に県道大宮（現さいたま）・栗橋線が開通。地区西側の水田域は区画整理が行われ、住宅街と商業区域に変貌を遂げた。
- ・台地上の集落部分も土地区画整理事業の対象となっていたが、昭和末逆線引きとなる。
- ・地区の東側に広がる水田地帯は、耕作放棄地が目立ち始めている。

(3) 歴史的背景

- ・台地上には、旧石器時代からの人々の暮らしの痕跡が残される。奈良・平安時代に製鉄遺跡が営まれた。
- ・鉄生産と荒川、利根川両水系の結節点であることから、中世初頭までには、野与党鬼窪氏が土着し白岡地域を含む中世の興隆期を迎える。
- ・江戸期は、日光街道粕壁宿と中山道鴻巣宿とを結ぶ脇往還の町場として栄えるとともに、元荒川の水運を利用して、近郊の木綿流通の拠点となった。
- ・幕末には、木綿問屋「篠川」の財力を背景に、久伊豆神社の社殿彫刻や各耕地に残されている豪華な彫刻の5台の山車などが作られ、地域の中心に成長する。

2 文化財総合把握調査(想定する白岡遺産のストーリーや地域に所在する文化財や文化資源を総合的に把握しましょう)

(1) 把握した文化財や文化資源	①建造物(構造物)	篠津久伊豆神社、栢間堀、高台橋、二十六間樋管、黒沼用水、伏越橋、道中橋
	②史跡・名勝	高台橋の菜の花、浅間様、茅野の渡し、中妻遺跡
	③有形文化財(未指定文化財を含む)	篠津久伊豆神社社殿、篠津天王様の山車(5台)・神輿、観音堂笠付地蔵、菱沼溪斎碑文、知足霊神之碑、元禄5年庚申塔、立川金禄の軍鶏、円空仏、大野家文書、
	④無形文化財(未指定文化財・まつり・行事を含む)	篠津天王様、庚申講、初山、
	⑤集落・地名	上宿、横宿、宿、下宿、神山、中妻、馬立、姥神、志部、追出、四本木、野与道、
	⑥言伝え・昔話	西光院の狸、ねずみ浄土、慈照院はチンピロリン、赤池、馬立、御多羅世
	⑦人物	鬼窪氏、菱沼、立川音吉(芳)、立川金禄、大野雅山
	⑧生活文化(衣食住・技・遊び・知恵)	
	⑨その他(地域のお宝)	篠津天王様、大野塾

(2)文化財・文化資源などの特徴と概要(文化財の歴史的・地理的な分布状況や、構造・様式的な特徴などをまとめましょう)

- ・篠津は、荒川水系と利根川水系が最接近する位置にあり、河川の砂鉄を原料とした鉄生産が興り、河川交通の要衝としての価値に着目した鬼窪氏が本拠としたことで、中世期には、台地西側を中心に館や寺院が並ぶ。近世になっても街道を結ぶ町場として、さらに物流拠点の一つとしての位置を確立していく。富の象徴は、久伊豆神社や天王様の山車彫刻に表れている。また、人が集まることで学問が盛んになり大野塾を生む。大野塾は近隣から塾生を受け入れ、近代の学制施行後の篠津学校へと続く。

3 地域の歴史文化の特徴(自然的・地理的環境や社会的状況、歴史的背景及び文化財の概要・特徴を踏まえ、地域の歴史文化の特徴を簡潔にまとめましょう)

- ・篠津の歴史は、河川からの恵み、河川交通と陸上交通などの流通の恵みを得たものであるといえる。古代から連続と続く人々の営みが、「河川」「流通」「交流」などのキーワードでくることが出来る。
- ・市域の村々の中核であり、近・現代の自治体合併の歴史の中でも常に中心を占める。これも「流通」「交流」に立脚したものと理解することができる。

●第5章(1)生涯学習講座 過去10年間の文化財関係の生涯学習講座（一般対象）一覧

開催年度	講座名	内容	実績
平成22年	町民アカデミー「郷土文化」ジャンル	民俗学への誘い～庶民の生活と祈り・願い～	4回
	〃 「しらおか学」ジャンル	白岡の近現代史講座	4回
平成23年	町民アカデミー「郷土文化」ジャンル	清左衛門遺跡を探る	4回
	〃 「しらおか学」ジャンル	白岡再発見講座～お散歩気分であち巡り～	4回
平成24年	町民アカデミー「しらおか学」ジャンル	白岡町の指定文化財を学ぶ	4回
平成25年	ペアーズアカデミー「しらおか学」ジャンル	新・白岡町の指定文化財を学ぶ	4回
	〃 「しらおか学」ジャンル	白岡人物伝1	4回
平成26年	ペアーズアカデミー「歴史学」ジャンル	旅と信仰	4回
	〃 「しらおか学」ジャンル	白岡人物伝2	4回
平成27年	ペアーズアカデミー「歴史学」ジャンル	伝えたい埼玉の歌一歳時歌・仕事歌・遊び歌一	4回
	〃 「しらおか学」ジャンル	白岡の交通を知ろう(河川・古道・鉄道)	4回
平成28年	ペアーズアカデミー「歴史学」ジャンル	掘り起こされた白岡の原始・古代	4回
	〃 「しらおか学」ジャンル	社寺の歴史と文化を学ぶ1	4回
平成29年	ペアーズアカデミー「しらおか学」ジャンル	社寺の歴史と文化を学ぶ1	4回
	フライデーナイトペアーズ	縄文時代の白岡(少人数講座)	3回
平成30年	ペアーズアカデミー「しらおか学」ジャンル	埼玉東部の民俗	4回
	ミュージアム・ゼミナール(少人数講座)	縄文時代人の道具と暮らし	3回
令和元年	ペアーズアカデミー「歴史学」ジャンル	埼玉古墳群を知る	2回
	〃 「しらおか学」ジャンル	絵馬に託した祈りと願い～白岡の大絵馬・小絵馬～	4回
	ミュージアム・ゼミナール(少人数講座)	①縄文人の生活環境～特に植物利用を中心に～	3回
		②国家形成期の白岡～原始から古代へ、古代から中世へ～	3回
		③江戸時代の庶民の暮らし	3回

* ペアーズアカデミー：パレット型の生涯学習体系「ペアーズしらおか」の基幹講座。ペアーズは特産の梨(Pear)になぞらえたもの。

過去10年間の文化財関係の生涯学習講座（児童・生徒・親子対象）一覧

開催年度	講座名	内容	実績
平成22年	土器作り教室	土器作り・勾玉作り	2回
平成23年	ジュニア学芸員講座	土器作り・拓本を採ろう、土器を飾ろう、勾玉を作ろう	4回
平成24年	ジュニア学芸員講座	土器にふれよう・拓本を採ろう、土器を飾ろう、勾玉を作ろう	4回
平成25年	ジュニア学芸員講座	土器にふれよう・拓本を採ろう、土器を飾ろう、勾玉を作ろう	4回
平成26年	知ってさわって縄文講座	土器にふれよう、遺跡に行こう、縄文新聞を作ろう	3回
平成27年	知ってさわって縄文講座	ドングリクッキーを作ろう	1回
平成28年	知ってさわって縄文講座	網代編みで籠を作ろう	1回
平成29年	知ってさわって縄文講座	まが玉ペンダントを作ろう	1回
平成30年	親子おもしろミュージアム	まゆだまだんご作り	1回
令和元年	親子おもしろミュージアム	手作り天体望遠鏡で「お月見」	1回
	「こもれびの森」まつり	あんぎん編みコースター作り	1回

●第5章 (2) 出前講座 過去10年間の出前講座一覧

開催年度	講座名	内容	主催者	回数
平成22年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	2回
	職員出前講座	市内史跡巡り	母子愛育会ほか	5回
平成23年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	1回
	職員出前講座	市内史跡巡り	新白岡悠悠会ほか	5回
平成24年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	2回
	職員出前講座	市内史跡巡り	ボランティア連絡会ほか	4回
平成25年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	1回
	職員出前講座	市内史跡巡り	市社会福祉協議会ほか	5回
平成26年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	2回
	職員出前講座	市内史跡巡り	母子愛育会ほか	5回
平成27年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	2回
	職員出前講座	市内史跡巡り	母子愛育会ほか	3回
平成28年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	2回
	職員出前講座	市内の文化財解説や史跡巡り等	母子愛育会ほか	3回
平成29年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	2回
	職員出前講座	市内の文化財解説や史跡巡り等	母子愛育会ほか	6回
平成30年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	1回
	職員出前講座	市内の文化財解説や史跡巡り等	大山塾ほか	7回
令和元年	白岡巡り	市内の寺社・文化財の解説	市観光協会	1回
	職員出前講座	市内の文化財解説や史跡巡り等	母子愛育会ほか	7回

●第5章 (3) 展示施設での普及事業 生涯学習センター歴史資料展示室の企画展示一覧

開催年度	展覧会名	内容	会期
平成30年	白岡の至宝～護り伝える地域の文化～	指定文化財を中心に一部指定候補資料を加えた展示	H30.10.1～12.16
令和元年	子供たちの暮らし～育ち・遊び・学ぶ～	民俗・歴史・考古各分野横断的に資料を収集、館蔵資料中心の展示	R1.9.3～10.18

定例展示解説会「ハンズ・オン・デイ」一覧

開催年度	内容	回数	備考
平成 30 年	石斧を持ってみよう	2回	
	古銭の干拓に挑戦	1回	こもれびの森まつり
	開館特別展展示解説	1回	
	縄文土器の縄目模様のヒ・ミ・ツ	2回	
	石皿、磨石でドングリをすり潰してみよう	2回	
	黒曜石のナイフで肉を切ってみよう	2回	
令和元年	縄目だけじゃない！縄文土器の模様	2回	
	試してみよう！縄文時代の「浮子」は本当に浮くか？	2回	
	これが昔の教科書 結構面白いかも！	2回	新教科書展示タイアップ
	石皿でくるみを割ってみよう！	2回	
	竿ばかりで重さを量ってみよう！	2回	
	篠竹鉄砲で遊んでみよう！	2回	
	十日夜のわら鉄砲をたたいてみよう！	2回	
	ミュージアムクイズ	2回	こもれびの森まつり
	古銭の拓本をとってみよう	2回	
	こまをまわして遊びましょう	2回	
	昔の道具に触ってみよう！	2回	季節展示「変わってきた人々の暮らし」タイアップ

過去に開催した文化財関連展示会一覧

開催年度	展示会名	会場	会期
平成 9 年	立川金禄展～現代地方仏師の技と芸術～	中央公民館講堂	H9.8.21～26
平成 10 年	縄文の造形―芸術の源流を訪ねて―	中央公民館講堂	H10.8.22～30
平成 11 年	中世の白岡とその周辺―中世遺跡の発掘成果から―	中央公民館講堂	H11.9.2～14
平成 12 年	写真でみる白岡町のいま・むかし	中央公民館講堂	H12.8.17～29
平成 15 年	野牛領主新井白石と朝鮮通信使	中央公民館講堂	H15.8.21～26
平成 16 年	町制施行 50 周年記念展 写真で見る白岡の文化財	中央公民館講堂	H16.8.26～31
平成 21 年	開設 100 年！写真で見る白岡駅	白岡駅町民ミニギャラリー	H22.1.29～2.17
平成 22 年	白岡の祭礼	白岡駅町民ミニギャラリー	H23.2.10～27
平成 23 年	写真展 発掘物語しらおか	白岡駅町民ミニギャラリー	H24.2.6～14
平成 24 年	市制施行記念 白岡市の指定文化財展	はびすしらおか	H24.9.25～10.1
平成 25 年	パネル展 新井白石と白岡	白岡駅市民ミニギャラリー	H26.2.25～3.5
	埋蔵文化財ミニ展示 中妻遺跡出土品	市庁舎ミニ展示コーナー	H25.4 ～通年
平成 28 年	埋蔵文化財ミニ展示 入耕地遺跡出土品	市庁舎ミニ展示コーナー	H28.4 ～通年

他機関への出品・貸出、資料提供等 過去5年間の出品・貸出、資料利用・提供等一覧

開催年度	提供形態	資料名等	貸出先	件数
平成 27 年	資料利用・提供	紙本着色新井白石画像(写真)ほか	NHK 製作局ほか	3件
平成 28 年	資料利用・提供	紙本着色新井白石画像(写真)ほか	鶴岡市立藤沢周平記念館ほか	4 件
平成 29 年	資料出品・貸出	紙本着色新井白石画像ほか	山梨県立博物館ほか	2件
	資料利用・提供	梨の共同出荷の写真画像ほか	NHK さいたま放送局ほか	7件
平成 30 年	資料出品・貸出	足踏み脱穀機ほか	大山小学校	1件
	資料利用・提供	紙本着色新井白石画像(写真)ほか	㈱テレビジョンフィールドほか	6件
令和元年	資料出品・貸出	イノシシ形土製品ほか	県立歴史と民俗の博物館ほか	4件
	資料利用・提供	荒井新田の高札(写真)ほか	同志社大学ほか	5件

●第5章 (4) 教育普及資料の作成 過去に作成した主な教育普及用資料一覧

発行年度	資料名	部数	備考
平成 8 年	白岡町遺跡マップ	3,000 部	
平成 9 年	立川金禄展 図録	300 部	
平成 10 年	縄文の造形展 図録	300 部	
平成 11 年	中世の白岡とその周辺展 図録	300 部	
	大むかしの白岡 旧石器・縄文時代編	4,500 部	市内各小学校に配布
	白岡町遺跡マップ	3,000 部	H8 初刷 改訂版
平成 12 年	写真でみる白岡のいま・むかし展 図録	500 部	
	大むかしの白岡 弥生～平安時代編	4,500 部	市内各小学校に配布
平成 13 年	大むかしの白岡 中世編	4,500 部	市内各小学校に配布
	白岡町歴史ハイキングマップ	2,000 部	
平成 14 年	白岡町遺跡マップ	3,000 部	H8 初刷 3 訂版
平成 15 年	野牛領主新井白石と朝鮮通信使展 図録	500 部	
平成 16 年	写真で見る白岡の文化財展 図録	500 部	
平成 18 年	白岡町歴史ハイキングマップ	3,000 部	H13 初刷 改訂版
平成 20 年	タタラ山遺跡と縄文人の暮らし	500 部	報告会資料
平成 22 年	「開設 100 年！写真で見る白岡駅」図録	500 部	
平成 24 年	白岡市の指定文化財展 図録	2,000 部	市写真連盟協力
	中島撫山と白岡	1,000 部	
平成 25 年	白岡市遺跡マップ	3,000 部	新装版
平成 30 年	白岡の至宝展 図録 - 白岡ミュージアムブックレット1-	300 部	
令和元年	子供たちの暮らし展 図録 - 白岡ミュージアムブックレット2-	300 部	

歴史資料展示室調査報告書等一覧

発行年度	資料名	部数	備考
平成 30 年	紀要1	300 部	歴史資料展示室調査研究報告等
令和元年	紀要2	300 部	〃

●第5章 (5) 学校教育との連携 過去10年間の歴史学習支援事業一覧

開催年度	内容	学校名	対象学年	回数
平成 22 年	白岡町の古いものについて	西小学校	3年生	1回
平成 23 年	縄文時代から古墳時代の白岡	白岡東小学校	6年生	1回
平成 24 年	白岡市の歴史について	西小学校	4年生	1回
平成 27 年	古い道具と昔の暮らし・地域のお祭りの様子	西小学校	3年生	2回
	縄文時代から歴史時代	南小学校	6年生	1回
	地域のお祭りの様子	菁莪小学校	3年生	3回
平成 28 年	縄文時代から弥生時代	白岡東小学校	6年生	1回
	古い道具と昔の暮らし・地域のお祭りの様子	西小学校	3年生	2回
平成 29 年	古い道具と昔の暮らし・地域のお祭りの様子	西小学校	3年生	2回
	古い道具と昔の暮らし・地域のお祭りの様子	南小学校	3年生	2回
	地域のお祭りの様子	白岡東小学校	3年生	3回
平成 30 年	古い道具と昔の暮らし・地域のお祭りの様子	西小学校	3年生	2回
令和元年	古い道具と昔の暮らし	西小学校	3年生	1回

●第5章 (6) 図書館との連携 過去10年間の図書館連携事業一覧

開催年度	事業名	内容	実績
平成 22 年	図書館歴史講座	私が選ぶ埼玉の女性 10 名ほか	2回
平成 23 年	図書館歴史講座	楽托日記(中島撫山)を読む	2回
平成 24 年	図書館歴史講座	①幕末の白岡の村々 ②見沼代用水の開削	2回
平成 25 年	図書館歴史講座	①日光社参と日光御成街道 ②山城堀と古墨田川及び新堀の関係	2回
平成 26 年	図書館歴史講座	①白岡ゆかりの文学作品 ②古文書に見る江戸時代の白岡	2回
平成 27 年	図書館歴史講座	①今どきの図書館・博物館 ②古文書にみる白岡の歴史	2回
平成 28 年	図書館歴史講座	古文書にみる白岡の歴史～白岡に大洪水はやってくる?～	2回
平成 29 年	図書館歴史講座	古文書にみる白岡の歴史	2回
平成 30 年	図書館歴史講座	①正徳の柴山沼絵図 ②鷹狩絵図	2回
	図書企画展示	歴史資料展示室開催講座に合わせた図書展示	2回
令和元年	図書館歴史講座	①『新編武蔵風土記稿』を読む ②昔はそうだった常識・非常識～こんなに違う白岡の田んぼと畑～ ③白岡の江戸時代を伝える資料～石塔・古文書を調べてみたら～	3回
	図書企画展示	歴史資料展示室企画展示に合わせた図書展示	1回

●第5章(7) 東部地区文化財担当者会巡回展 過去に開催した東部地区文化財担当者会等巡回展一覧

開催年度	展示会名	会場	会期	備考
平成13年	埼玉のまつり・行事	中央公民館講堂	H13.8.28～9.4	
平成18年	埼玉の酒文化	市庁舎1階市民ラウンジ	H18.11.17～30	
平成21年	埼玉の遺跡	市庁舎1階市民ラウンジ	H21.8.10～21	
平成22年	埼玉の偉人	市庁舎1階市民ラウンジ	H22.11.8～19	県巡回展受け入れに併せ町内の人物も展示
平成26年	埼玉・北埼玉の水塚	市庁舎1階市民ラウンジ	H26.10.1～14	
平成29年	埼玉県東部地区の交通	市庁舎1階市民ラウンジ	H29.9.8～10.10	

●第5章(8) 発掘調査現地見学会等 過去10年程度の間に開催した発掘調査現地見学会等一覧

開催年度	事業名	対象	参加人数	備考
平成20年	タタラ山遺跡発掘調査報告会	一般		
平成21年	清左衛門遺跡第4地点現地説明会	一般	150人	県埋文共催
	清左衛門遺跡第4地点体験発掘教室	薗莪小6年生	70人	
平成22年	沖山西遺跡第1地点現地説明会	南小6年生	120人	県埋文共催
	清左衛門遺跡第5地点親子発掘体験教室	親子	20人	
平成23年	清左衛門遺跡第7地点現地説明会	一般	139人	
平成24年	赤砂利遺跡第8地点現地説明会	一般	146人	県埋文共催

●第5章(9)文化財解説板の設置

既設の文化財解説板一覧

No	タイトル	設置主体	設置年月	備考
1	柴山沼	白岡市	昭和58年3月	
2	諏訪八幡神社	白岡市	昭和58年3月	
3	柴山伏越	白岡市	昭和59年3月	
4	柴山観音堂	白岡市教育委員会	平成11年1月	
5	野通川と隼人堀川の立体交差・見沼代用水と隼人堀川の立体交差	白岡市観光協会	平成28年2月	地図付
6	柴山伏越改造之碑(要約)	白岡市観光協会	平成31年2月	
7	井澤弥惣兵衛為永の墓	見沼土地改良区	平成11年	
8	見沼代用水路の概要	見沼土地改良区・水資源機構		写真・地図付
9	見沼代用水路ってな～に	水資源機構		地図付
10	白岡市立大山民俗資料館	白岡市	昭和58年3月	
11	下大崎住吉神社	白岡市教育委員会	平成11年1月	
12	皿沼遺跡	白岡市教育委員会	平成13年1月	写真付
13	新井白石と野牛	白岡市	平成29年3月	写真・地図付
14	野牛久伊豆神社と新井白石	白岡市教育委員会	平成12年2月	
15	庄兵衛堰柵	白岡市教育委員会	平成13年1月	
16	新井白石公所領倉屋敷跡記念碑	白岡市教育委員会	平成26年3月	写真付
17	白石様堀	白岡市教育委員会	平成27年3月	地図付
18	忠恩寺九品仏	白岡市教育委員会	平成11年1月	
19	忠恩寺	白岡市教育委員会	平成12年2月	
20	高岩天満神社	白岡市教育委員会	平成18年2月	写真付
21	篠津久伊豆神社と山車	白岡市	昭和58年3月	
22	黒沼用水の伏越橋と掛樋	見沼土地改良区		イラスト付
23	須賀神社と篠津天王様	白岡市教育委員会	平成10年2月	
24	星川と隼人堀川の立体交差	白岡市観光協会・白岡市	平成29年2月	地図付
25	篠津宿	白岡市観光協会	令和2年2月	地図付
26	白岡八幡宮	白岡市	昭和58年3月	
27	正福院	白岡市	昭和58年3月	
28	興善寺	白岡市	昭和58年3月	
29	茶屋遺跡	白岡市教育委員会	平成13年6月	写真付
30	牛頭天王社と新田の天王様	白岡市教育委員会	平成17年3月	写真付
31	正福院貝塚	白岡市教育委員会	平成22年12月	
32	南埼玉藩組合記念碑	白岡市教育委員会	平成29年2月	写真付
33	茅野の渡し	白岡市教育委員会	昭和16年3月	地図付
34	八幡の渡しと八幡橋	白岡市教育委員会	昭和16年3月	写真付
35	寿楽院	白岡市	昭和58年3月	
36	久伊豆神社と小久喜ささら獅子舞	白岡市	昭和58年3月	
37	白岡駅と車站之碑	白岡市教育委員会	平成13年6月	写真付
38	沖山遺跡	民間企業・白岡市教育委員会	平成8年	
39	実ヶ谷久伊豆神社	白岡市教育委員会	平成10年2月	
40	円空作薬師如来坐像	白岡市教育委員会	平成17年3月	写真付
41	正伝寺	白岡市教育委員会	平成11年1月	
42	大徳寺	白岡市教育委員会	平成12年2月	
43	上野田鷲宮神社	白岡市教育委員会	平成15年3月	図付
44	一里塚	白岡市教育委員会		
45	下野田鷲宮神社	白岡市教育委員会	平成15年3月	
46	諏訪神社	白岡市教育委員会	昭和63年3月	
47	高岩落川と百間用水路の立体交差	白岡市観光協会	平成25年2月	地図付
48	姫宮落川と百間用水路の立体交差	白岡市観光協会	令和2年2月	地図付
49	安楽寺	白岡市教育委員会	平成27年2月	
50	観音堂・百庚申	白岡市教育委員会	平成元年3月	
51	新堀と黒沼用水路の立体交差	白岡市観光協会	平成29年10月	地図付
52	岡泉鷲神社	白岡市教育委員会	平成10年2月	
53	黒用水路沼と三ヶ村落堀の立体交差	白岡市観光協会	平成31年2月	地図付

